新しい教師のための訓練資料

『福音を教え学ぶ ── 教師改善手引き』

新しい教師のための訓練資料

『福音を教え学ぶ―教師改善手引き』

発行：
末日聖徒イエス・キリスト教会
ユタ州ソルトレーク・シティー

本書に関するご意見，ご提案をお寄せください。誤りのご指摘も含め，以下までお送りください：

Seminaries and Institutes of Religion Curriculum Services
50 E. North Temple Street, Floor 8
Salt Lake City, Utah 84150-0008
USA
電子メール： ces-manuals@ldschurch.org

あなたのお名前，住所，ワードまたは支部名とステークまたは地方部名をご記入ください。コメントを書く際は，必ず手引きの書名をお書きください。

これらの資料は個人的に，また非営利目的（末日聖徒イエス・キリスト教会での召しや責任に関連した使用も含む）で使用する場合に複写することができます。そのほかの目的で使用する場合は permissions.lds.orgあてに許可を申請してください。

© 2016，2018 Intellectual Reserve, Inc.
All rights reserved

印刷：日本
第 2版, 3／18

英語版承認：2017年10月
日本語版承認：2017年10月
原題：**New-Teacher Training Resource: A Teacher-Improvement Companion to the Gospel Teaching and Learning Handbook**
Japanese
PD60001128 300

目次

家庭で行う学習経験 1
1 救い主の方法で生活し，教える 3
2 宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的 7
3 御霊によって教え，学ぶ 9
4 愛と敬意と目的意識のある学習環境を作る 13
5 学習パターンを経験する 18
6 背景と内容を理解する 23
7 教義と原則を見つける 27
8 教義と原則を理解し，感じ，応用する 35
9 レッスンを準備する：教える事柄を決める 40
10 教える事柄を決める：聖典と教師用手引きを使用する 47
11 教える方法を決める：生徒が役割を果たせるよう助ける 51
12 教える方法を決める：効果的な質問をする 55
13 教える方法を決める：信仰を働かせる 64
14 マスター教義の紹介 68
教師会レッスン 79
教師会レッスンの紹介 81
1 わたしたちの目的 83
2 基本的な学習パターン 87
3 レッスンの準備をする：教える事柄を決める 92
4 レッスンの準備をする：教える方法を決める 98
5 マスター教義の紹介 102
配付資料 111

学習経験

学習経験1

救い主の方法で生活し，教える

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- 教えるという大いなる責任
- 偉大な教師，イエス・キリスト
- 救い主がされたように生活し，教える

重要な概念

宗教教育セミナリー・インスティテュート（S&I）へようこそ。世界中のセミナリーとインスティテュートプログラムにおいて，教会の青少年とヤングアダルトがイエス・キリストの福音の教義と原則を学び，応用できるように数千人の教師と指導者が助けています。この重要な召しにおいて主に仕えたいという皆さんの望みに感謝しています。

神の子供たちを教えるという大いなる責任

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は，神の子供たちを教えるという大いなる責任について次のように教えました。

「わたしたちは教えてくださる全ての皆さんに**大変**感謝しています。皆さんへの愛と感謝の気持ちは言葉に尽くせません。皆さんに大きな信頼を寄せています。効果的に教えたり，うまくいっていると感じるようになったりするためには大変な労力を要しますが，その働きには価値があります。わたしたちは『大いなる召し』を受けられるのです。〔『**教師，その大いなる召し**』（福音を教えるための資料集）〕……

「わたしたち一人一人が『キリストのもとに来』て〔教義と聖約20：59〕，主の戒めを守り，主の模範に従い天の御父のみもとに戻るのは，人類が存在する最も高く尊い目的です。そして，人々がこの目的を果たせるよう助けること，すなわち，彼らが贖いの道を歩むよう教え，説き勧め，祈りをもって導くのも，間違いなく人生でそれに次ぐ重要な務めです。以前にデビッド・O・マッケイ大管長が『神の子供たちの教師となる以上に大きな責任はこの世にない』と語ったのも，そのような理由からでしょう〔デビッド・O・マッケイ，Conference Report，1916年10月，57〕。」（『神からこられた教師』『リアホナ』1998年7月号，28）

偉大な教師，イエス・キリスト

神の子供たちの教師として進歩成長し，救い主の教えに倣って生活し，教えようと一生懸命に努力するとき，神の助けが受けられるでしょう。

時間を取ってLDS.orgにあるビデオThe Master Teacher（偉大な教師）（3：51）を視聴してください。このビデオの中で，十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長（1924－2015年）は，福音を教える幾つかの側面について話しています。

このビデオを見ながら，救い主がされたように生活し，教えなければならない根本的な理由を学んでください。学習帳または後で参照できるところに自分の見識や印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

『福音を教え学ぶ』の手引きの活動

教師の模範としての救い主に関して，十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は次のように教えました。

「わたしたちはより良い模範を見つけることができるでしょうか。自分の理想と目標と方法を分析し，イエス・キリストのそれと比較すること以上に，わたしたちが行えるすばらしい学習方法があるでしょうか。」（Teach Ye Diligently，改訂版〔1991年〕， 22）

以下の活動は，救い主がどのように教え，人々に影響を与えたか，そして人々が学んで霊的に成長し，主の福音に改宗するよう助けたかについて，理解を深めるのに役立つでしょう。

『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』のv–viiページにあるはじめにを研究してください。救い主が教え導いた，他とは異なる方法を説明している行動を表す言葉に印をつけるか，下線を引いてください。

『福音を教え学ぶ』のこれらのページを研究した後で，手引きの余白に次の質問に対する自分の答えを書いてください。（これらのレッスンでは，自分の手引きの余白にメモを書くよう奨励されています。）

- 救い主の生き方，教え方，導き方についてどのようなことに気づいたでしょうか。
- 人々が学び，霊的に成長し，救い主の福音に改心するように，主はどのように助けられたでしょうか。

まとめと応用

覚えておくべき原則

- 神の子供たちの教師に任せられている責任ほど偉大な責任はない。
- キリストは偉大な教師であられる。わたしたちは主がされたように生活し，教えるべきである。
- わたしたちは自分たちのあるがままを教える。それはわたしたちの弟子としてのあり方，性質，証，福音に対する決意が言葉と同じくらい人々に影響を与えるという意味である。

「教える賜物を得なければなりません。一度得ることができたら，それを維持できるように養い育てていかなければなりません。」（ボイド・K・パッカー，Teach Ye Diligently，345）

「それで，どうしますか？」

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は，その時話し合っていたテーマを人々の生活を変えるためにどのように応用できるかという議論に霊感を吹き込むために，十二使徒定員会との集会の終わりに「それで，どうしますか？」と言うことで有名でした。（ジェフリー・R・ホランド，“Therefore, What?”〔CES Conference on the New Testament，200年8月8日〕参照，si.lds.org）。それぞれの学習経験の終わりに，「それで，どうしますか？」と

自問して話し合われたテーマや原則を個人的に応用する方法について考えてください。

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験2

宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- 宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的を理解する
- 教師としての自分の目的を理解する
- 生徒が真に改宗するように助ける

重要な概念

自分の目的を理解する

主の業において働く取り組みに焦点を当てるため，S&Iの教師には明確な目的が与えられています。この目的は宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的と呼ばれています。この目的と，それが教師としての毎日の働きをどのように導くことができるかを深く理解することは大切です。

わたしたちの目的は何でしょうか？

「わたしたちの目的は，以下のことができるよう，青少年とヤングアダルトを助けることです。イエス・キリストの教えと贖いについて理解しそれに頼る。神殿の祝福を受ける資格を得る。天の御父とともに永遠の命にあずかるため，自分自身と自分の家族と周りの人々を備える。」（『**福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き**』x）

LDS.orgのビデオ“Our Purpose”（『わたしたちの目的』）（1：32）を視聴してください。このビデオでは，教師たちが宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的を詳しく説明しています。

ビデオを見た後で，学習帳または後で参照できるところに自分の気付きや印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

福音を生徒の心に深く根付かせる

2012年のセミナリー100周年記念放送で，大管長会のヘンリー・B・アイリング管長はセミナリーの始まりと目的について感想を述べました。

LDS.orgでアイリング管長の話「信仰の土台：セミナリーの100年」（7：36）の抜粋部分を視聴してください。視聴しながら，セミナリーにより福音が生徒の心に深く根付いている形跡を見つけてください。

ビデオを見た後で，学習帳または後で参照できるところに自分の気付きや印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

『福音を教え学ぶ』の手引きの活動

『**福音を教え学ぶ**』の手引きの1−2ページにある1.1（「わたしたちの目的」）の項を読んでください。宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師としてあなたの目的を理解するうえで助けとなる言葉に下線を引いてください。

読み終わったら，学習帳または後で参照できるところに自分の気付きや印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

まとめと応用

覚えておくべき原則

- 宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的を明確に理解すると，教師としての日々の働きの導きとなる。
- 効果的に教えると生徒の心に福音を深く根付かせることができる。
- わたしたちの目標は，福音に心から改心するという生徒の経験を助けることでなければならない。

「救い主イエス・キリストを愛するよう教えるならば，若人は主のまことの弟子となることでしょう。このプロセスは将来，……永遠の家族の指導者になるための備えとなります。神殿は自然で大切な要素として彼らの生活に溶け込むことでしょう。」（ディーター・F・ウークトドルフ，「神の子供たちの教師」〔ディーター・F・ウークトドルフ管長との夕べ，2011年1月28日〕，3，si.lds.org）

「それで，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験3

御霊によって教え，学ぶ

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- 教え，学ぶときの聖霊の役割を理解する
- 生徒の目に見える必要，目に見えない必要を満たす
- 聖霊の影響力を招く

重要な概念

教え，学ぶときの聖霊の役割

「福音を教え学ぶことは，聖霊の力によって行われる。……御霊によって教え学ぶことによってのみ，生徒はイエス・キリストの教えと贖いについて理解しそれに頼るようになり，永遠の命の資格を得ることができる。」（『**福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き**』10）

なぜ御霊によって教え，学ぶのでしょうか。

クリスティーン・パーク姉妹は，カリフォルニア州レディングで5年間毎日セミナリーを教えており，生徒たちのそれぞれに異なる必要や状況に対処しようと絶えず努めています。LDS.orgでビデオ“Students' Needs”（「生徒の必要」）（1：35）を視聴してください。このビデオの中で，パーク姉妹は生徒に対する望みと，生徒たちがイエス・キリストの福音にさらに深い改心の経験ができるよう助けようとするときに，心にかけていることを分かち合っています。

様々な必要や困難な問題を抱えた生徒がパーク姉妹のクラスにいたように，あなたのクラスにもいるでしょう。以下の例は，生徒の典型的な状況です。生徒の状況が，あなたがクラスを教える際の御霊の導きにどのように影響するか考えてください。

「学校のことで本当に忙しいときがある。他の授業でやることがとてもたくさんある。」

「今日はクラスに集中できるといいなあ。読むのが得意ではないから，集中するのが難しい。」

「周りにはたくさん人がいるのに，寂しいなあ。」

「セミナリーに出席するのが大好き。受け入れられてると感じる場所だから。」

「今日，セミナリーに出席してもいいのかな。恥ずかしいと思うことをしてしまった。」

「家族の中で証がないのはわたしだけだと思う。」

自分の能力だけに頼るとすれば，わたしたちは生徒たちのそれぞれに異なる必要に対処することはできないでしょう。しかし，聖霊のささやきを聞くよう備えてそれに従うなら，生徒たちの改心を深め，目に見える必要も見えない必要も満たせるように教えるよう導かれるでしょう。

LDS.orgにあるビデオ“Teaching by the Spirit”（『御霊により教える』）（1：39）を視聴してください。このビデオで，パーク姉妹は教えるときに，御霊に導いていただくことの重要性を分かち合っています。

次に，LDS.orgにある“The Lord Knows Every Need”（『主はすべての必要を御存じである』）（0：45）を視聴してください。このビデオで，十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老（1928－2015年）は，聖霊が生徒の必要を満たすためにどのようにわたしたちを導くかについて説明しています。

『福音を教え学ぶ』の手引きの活動

「御霊による教授と学習は，聖霊が役割を果たされるとき，すなわち聖霊が教師，生徒，またはその両方とともに働かれるときに行われる。」（『**福音を教え学ぶ**』10）

『**福音を教え学ぶ**』の手引きは，なぜ教師と生徒が聖霊の力によって学ばなければならないかについてさらに説明し，理解を深める助けとなります。10ページの2.1の項（「御霊によって教え，学ぶ」）から11ページの最後の黒丸印までを研究してください。

手引きに，以下のことをするのに助けとなる大切な原則や方法をメモしてください。

- 福音の教授と学習は聖霊の力によって行われることを認識する。
- 福音の教授と学習における聖霊の役割と働きに対する理解を深める。

個人の日記に，聖霊の役割を理解し信じることが，レッスンを準備することや生徒を教えることにどのように影響を与えるか説明してください。

御霊がその役割を果たせるように招く

わたしたちは，福音の教授における聖霊の役割を理解すると，自分たちや生徒たちの生活で，その働きを果たされる聖霊を招くため，出来ることをすべて行うでしょう（2.1の項「御霊によって教え，学ぶ」，『**福音を教え学ぶ**』11ページ参照）。

教師は，御霊が役割を果たされるように招くため以下のことができます。

- 個人としてふさわしくあるよう一生懸命に努める。
- 「信仰の祈り」（教義と聖約42：14）をささげる。
- それぞれのレッスンの準備を十分に行おうとする。

- 生徒の学習経験に焦点を当てるように努める。
- 他のことに心を奪われたり心配したりせずに心穏やかにするよう努める。
- 謙虚な探求心を持つ。
- 学ぶ過程で聖霊を招くように生徒に勧める。

LDS.orgにあるビデオ“Inviting the Spirit: Teachers”（『御霊を招く—教師』）（2：47）を視聴してください。このビデオの中で，教師が自分たちの心とクラスに御霊を招くためにできることを分かち合っています。ビデオを見ながら，覚えておきたい大切な実践方法を，『**福音を教え学ぶ**』の手引きに書き留めてください。

教師と生徒は，御霊がその役割を果たせるように以下のことができます。

- 聖典と預言者の言葉を読み，教える。
- 救い主の模範と救い主に関する話し合いに焦点を当て，救い主について証を述べる。
- 福音の教義と原則について簡潔明瞭に述べる。
- 静かな中で霊感を受けられるように深く考える時間を取る。
- 適切な個人の経験を分かち合い，教義と原則について証する。
- 互いと主に対して愛と感謝を表す。

LDS.orgにあるビデオ“Inviting the Spirit: Teachers and Students”（『御霊を招く—教師と生徒』）（2：23）を視聴してください。このビデオでは，教師と生徒が自分たちの心とクラスに御霊を招くためにできることを分かち合っています。ビデオを見ながら，覚えておきたい大切な実践方法を，『**福音を教え学ぶ**』の手引きに書き留めてください。

福音の教授と学習において聖霊が役割を果たされるために，あなたや生徒がどうすれば聖霊を招くことができるか深く考えたときに心に浮かんだ印象や行動の項目を，個人の日記に記録してください。

この手引きの付録にある「聖霊が福音の教授と学習における役割を果たせるように招く」と題する配布資料を参照してください。聖霊が役割を果たされるために，教師と生徒ができる御霊を招く方法が挙げられています。

まとめと応用

覚えておくべき原則

- 「御霊による教授と学習は，聖霊が役割を果たされるとき，すなわち聖霊が教師，生徒，またはその両方とともに働かれるときに行われる。」（『**福音を教え学ぶ**』10）
- 御霊の静かな促しに注意を向けるとき，生徒の目に見える必要や，目に見えない必要を満たすことができるように導かれる。

- あなたと生徒が霊的な学習における聖霊の重要な役割を理解すると，これらの働きを果たされる御霊を招くために，自分が行えることをすべて行うでしょう。

「天よりの御霊によって動かされなければ永遠の学習は行われません。……このため，皆さんは『御霊，すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって』福音を教えるのです〔教義と聖約50：14〕（ディーター・F・ウークトドルフ「神の子供たちの教師」〔ディーター・F・ウークトドルフ管長との夕べ，2011年1月28日〕，7，si.lds.org）

「それで，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験4

愛と敬意と目的意識のある学習環境を作る

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- キリストのような愛がもたらす影響を理解する
- 愛と敬意のある学習環境を作る
- 目的意識のあるクラスを確立する

重要な概念

「教師と生徒が，主と互いを愛し尊ぶとき学習が促される。目的意識を共有すると，努力と期待を集中させ，また教室での経験が方向づけられる。」（『**福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き**』13）

キリストのような愛—良い影響

キリストのような人々の影響があると，わたしたちの生活はさらに豊かに満たされたものとなります。自分の生活について振り返ってみると，わたしたちはそれぞれに，良い影響を与えてくれた人々の親切な行いを見いだすことができるでしょう。

キリストのような愛を示して，あなたの人生に違いを生み出した教師や指導者，その他の人々について考えてください。その人はどのように感じさせてくれましたか。それはなぜですか。学習帳または後で参照できるところに自分の見識や印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

あなたに良い影響を与えた人のように，セミナリーやインスティテュートの教師として，わたしたちも生徒たちの人生に違いを生み出すことができます。それはキリストのような愛と敬意のある環境を教室に作ることを通して行われます。

『福音を教え学ぶ』の手引きの活動

以下の活動は，愛と敬意のある学習環境を作る必要性と，その環境を作る方法についての理解を深めてくれるでしょう。

『福音を教え学ぶ』の手引きの13－14ページにある2.2.1の項（「愛と敬意」）を研究してください。（1）教室が愛と敬意のある環境であることが大切な理由と（2）そのような環境を作る方法に関する理解を深めてくれる言葉に下線を引いてください。

愛と敬意のある環境を作る—理由と方法

以下のビデオは，**『福音を教え学ぶ』**の手引きの2.2.1の項（「愛と敬意」）にある多くの原則と実践方法を説明しています。これらのビデオを視聴して，下のビデオの説明に続く質問の答えを深く考えてください。

LDS.orgにあるビデオ“Teach with Charity”（『慈愛をもって教える』）（1：44）を視聴してください。このビデオで，十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老は，教師がキリストの純粋な愛に満たされる重要性について述べています。視聴しながら，主は教えられた人々にどのように愛を示されたか見つけてください。

ビデオを見たあとで，学習帳に以下の質問の答えを簡単に書いてください。

- 救い主は教えておられた人々にどのように愛を示されただろうか。
- 教える相手にどのように愛を示すことができるだろうか。

LDS.orgにあるビデオ“Sister Egan’s Class”（『イーガン姉妹のクラス』）（2：17）を視聴してください。このビデオは，セミナリー教師に召されたイーガン姉妹がどのように効果的に愛と敬意と目的意識のある環境を作るかを説明しています。彼女や生徒たちがどのようにお互いを思いやり，そのような環境を作り出しているかを注意して見てください。

ビデオを見たあとで，学習帳に以下の質問の答えを簡単に書いてください。

- イーガン姉妹と生徒たちは愛と敬意のある環境を作るために何をしただろうか。
- 自分のクラスで愛と敬意のある学習環境を作るために何ができるだろうか。

すべての生徒に手を差し伸べる

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は，次のように教えています。

「反応を示さない生徒には教えることはできないかもしれませんが，愛することはできます。そして，今日，愛することができるなら，明日は教えることができるかもしれません。」（「教会で教え，学ぶ」『リアホナ』2007年6月号，70）

生徒は，家族からのストレス，病気，学習障がい，身体的障がいなど様々な問題で苦しんでいるかもしれません。個人の状況と必要に敏感になってください。愛と敬意のある環境を作ろうとするあなたの取り組みに，すべての生徒がすぐに応えてはくれないでしょう。次のビデオは，クラスで反応があまりない生徒に対して，教師はどのように手を差し伸べるか表しています。

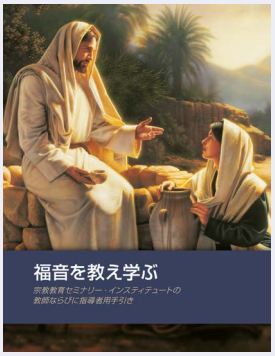
LDS.orgにあるビデオ“Reaching the Individual”（『個人に手を差し伸べる』）（1：28）を視聴してください。ビデオを見ながら，どのように教師のキリストのような愛と親切が生徒の心を変えたか見つけてください。

目的意識を持つ

「教師と生徒が目的意識を共有すると，信仰が増し，教室での経験の指針が定まり，経験が意義深いものとなる。生徒は，天の御父と御子イエス・キリストを知るようになるために，また聖典と預言者の言葉を研究することによって永遠の命に向かって進むためにクラスに出席しているということを理解するであろう。」（『**福音を教え学ぶ**』15）

教室において，愛と敬意のある環境を作ることと同様に，目的意識を持つことは教師にとって大切です。

『福音を教え学ぶ』の手引きの活動



以下の手引きの活動は，教室で目的意識を持つことがどれほど大切かを理解する助けとなるでしょう。

『**福音を教え学ぶ**』の手引き15ページ，2.2.2の項（「目的意識」）を読んでください。手引きの中で，理解を深めてくれた言葉に下線を引いてください。

- 目的意識を分かち合うとはあなたと生徒にとってどういう意味ですか。
- あなたと生徒は教室でこのような環境を作るためにどのようなことができますか。

目的意識を持つための実践方法

LDS.orgにあるビデオ“A Sense of Purpose”（『目的意識』）（8：32）を視聴してください。このビデオでは，何人かの教師と生徒が教室で

目的意識を持つための実践方法を分かち合っています。このビデオを見ながら，自分の教室で目的意識を持つための方法を見つけてください。

教師が愛と敬意と目的意識のある環境を作るための質問

生徒を教えながら，定期的に以下の質問について考えると，愛と敬意と目的意識のある環境を作るのに役立つでしょう。

- 生徒はわたしが彼らを愛していることを知っているだろうか。
- 親切にするのが難しいと感じたとき，慈愛すなわちキリストの純粋な愛で満たされるように祈っているだろうか（モロナイ7：47－48参照）。
- 救い主の教えや模範は，わたしと生徒そして生徒同士のやり取りの仕方にどのように影響を与えているだろうか。
- わたしは定期的に生徒たちのために奉仕し，祝福し，祈るために，どのような簡単な行いをしているだろうか。
- 生徒たちは，クラスの目的が宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的である，イエス・キリストの教えと贖いを理解し頼るよう彼らを助けることであると理解しているだろうか。
- わたしが選ぶ学習活動は，宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的を達成するものであって，達成を妨げるものではないだろうか。
- わたしは聖句ブロックを研究，理解し，どのように救い主がレッスンの中心になっているかを理解する時間を取っているだろうか。
- 生徒が教室に到着してから出る瞬間まで，わたしが生徒たちに適切に焦点を当てる準備ができているだろうか。
- 生徒たちが霊的な学習における役割を果たすために，わたしはどのように定期的に彼らを訓練し招いているだろうか。

まとめと応用

覚えておくべき原則

- あなたと生徒が互いに主と神の言葉を愛し敬うとき，学習が促される。
- 預言者モロナイが教えたように，誠実な祈りを通して慈愛の賜物を求めることにより，生徒に対する純粋な愛を育むことができる（モロナイ7：47－48参照）。
- あなたと生徒が目的意識を共有すると，信仰が増し，教室での経験の指針が定まり，経験が意義深いものとなる。
- あなたと生徒がクラスに出席するのは，天の御父と御子イエス・キリストを知るようになるためであり，また聖典と預言者の言葉を研究することにより永遠の命に向かって進歩するためであると理解すると，目的意識が作られる。

「皆さんが想像できるかぎり最高に清く，全てを包む愛について考えてみてください。では，その愛を無限に広げてください。それが皆さんに対する神の限りない愛です。」（ディーター・F・ウークトドルフ「神の愛」『リアホナ』2009年11月号，22）

「それで，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験5

学習パターンを経験する

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- 学習パターンを紹介する
- 生徒が福音を心の中に取り入れるように助ける
- 学習パターンを理解する
- 福音研究における学習パターンを応用する

重要な概念

末日の預言者や使徒たちは，宗教教育セミナリーとインスティテュートの教師たちに，生徒が聖文と預言者の言葉の中にある福音の教義と原則を見つけ，理解し，応用するよう教える責任を与えています。大管長会のJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長（1871－1961年）は次のように教えました。

「皆さんは自らの権威の拠り所として，教会の標準聖典と，この末日に主の民を導くように神より召された人々の教えとを使って，この福音を教えなければなりません。」（『**教育に関する教会の指針**』改訂版，12－13）

学習パターンを紹介する

生徒が聖典や預言者の言葉の中にあるイエス・キリストの福音を学ぶときに大切なのは，福音の教義と原則が生徒の心に深く染み込むことです。この過程を促すために，宗教教育セミナリーとインスティテュートは基本の学習パターンを強調しています。これにより，教師と生徒は自分たちの生活において福音の真理を見いだし，理解し，応用することができます・このパターンは以下のように構成されています。

- 背景と内容を理解する
- 教義と原則を見つける
- 教義と原則を理解する
- 教義と原則が真実であり重要であることを感じる
- 教義と原則を応用する

あなたが福音学習でこれらの基本を理解し，使えば使うほど，生徒は実践することができるようになるでしょう。

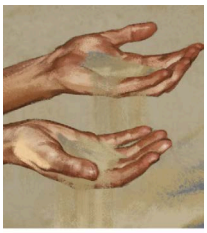
この学習経験では，学習パターンの5つの基本の概要をお伝えします。それぞれの基本は，学習経験6－8でさらに詳しく説明します。

LDS.orgにあるビデオ“The Parable of the Gems”（「原石のたとえ』）（6：47）を視聴してください。ビデオを見ながら，「砂の中から原石を探して見つけるのと，聖典を研究し学ぶことはどのように比較できるだろうか」と自問してください。

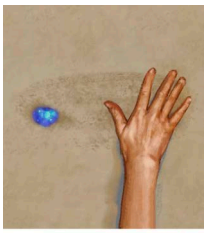
ビデオを見た後で，学習帳または後で参照できるところに自分の気付きや印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

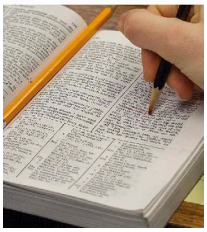
たとえを学習パターンに応用する

原石のたとえは学習パターンの基本を理解するのに役立ちます。それぞれの基本についてさらに学べるよう以下の説明を読んでください。

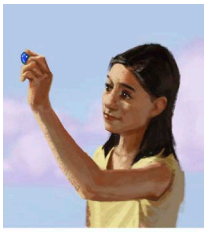


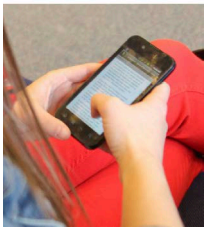
背景と内容を理解する—
砂の中にある原石を探している若い女性は，聖典と預言者の言葉の中にある永遠の真理を探している学習者を象徴しています。砂は，話の筋，人々，日付など聖典や教えの詳細を表しています。原石を砂から選り分ける若い女性は，聖文の詳しい記述から教義，原則，そのほかの基本的真理を探し，選り分ける学習者のようです。この過程が背景と内容を理解するということです。



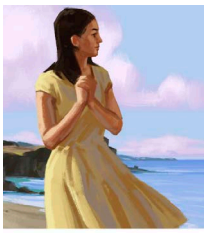


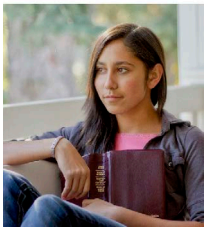
教義と原則を見つける—
砂の中に原石を見つけた若い女性は，聖典と預言者の言葉の中にある教義や原則を見いだす過程を象徴しています。砂の表面にある原石もあれば，深い所にある原石もあるように，聖典の幾つかの永遠の真理は容易に見いだせるものもあれば，見つけるのに努力が必要なものもあります。



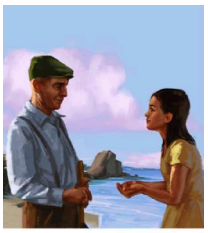


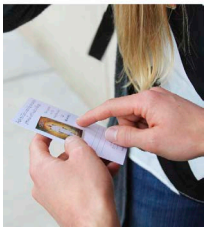
教義と原則を理解する—
それぞれの原石を注意深く見ている若い女性は，教義や原則をさらに深く理解するために熱心に研究する学習者を表しています。





教義と原則が真実であり重要であることを感じる—
それぞれの原石の特徴や意義を実感している若い女性は，聖典と預言者の言葉の中にある教義と原則の真実性や重要性を感じる学習者と比較できます。





教義と原則を応用する—
若い女性の思いがそれぞれの原石の具体的な使い方に向いたように，御霊が心と思いに個人的な方向を与えるとき，学習者も教義と原則を自分に向けられたものとして捉え，応用する方法を考えるべきです。

福音研究で学習パターンを応用する

以下の言葉は，この学習パターンが実際に生徒たちが生活の中で福音の真理を見つけ，理解し，応用するのを助けている例です。

「聖典がさらによく理解できるようになりました。どのように質問して答えを見つければよいか分かりました。今は真理を見つけて，どのように行動すればよいかもっとよく理解するために読んでいます。」

「以前は自分で聖典を読んだことはなかったのですが，今は毎晩読む習慣をつけるようにしています。心に響き，すぐに心に深い影響を与える真理を見つけると本当に良い気持ちを感じます。」

「以前はそんなに聖典を読んでいませんでした。よく分からなかったからです。でも今は，たくさん原則があって，答えを見い出すために探すことが

できると知っています。今年は，今までにないほど答えを求めてよく読みました。」

「セミナリーによって何よりも聖典に対する愛と理解が深まりました。本当に多くの祈りが答えられました。救い主との関係が強められて，そのことに本当に感謝しています。これ以上素晴らしいことってないですよね。」

「聖典の研究の仕方を本当によく学んだので，もうつまらないとは感じません。実際，天の御父のみもとに帰るためにどう生活するべきかについて，聖典を読んで深く考えたくなりました。」

「読んでいるとときどき，愛と温かさに圧倒されるように感じるだけでなく，この書物の全てページが知識に満ちていると感じます。」

まとめと応用

覚えておくべき原則

- セミナリーやインスティテュートの教師として，あなたは生徒に聖典と預言者の言葉にあるままの福音の教義と原則を教える責任がある。
- 教師と生徒は，聖典と預言者の言葉にある深い福音を心に深くしみこませる方法を学ばなければならない。
- 宗教教育セミナリー・インスティテュートは，教師と生徒が生活の中で福音の真理を見いだし，理解し，応用できるようにする基本の学習パターンを強調している。
- 自分自身の福音研究で学習パターンの基本を理解し使えば使うほど，生徒が同じようにそれを取り入れる助けをすることができるようになる。

「世の教育機関は，わたしたちに，ある事柄について知りなさいと教えます。それとは対照的に，イエス・キリストの福音は，わたしたちにある特質を身につけた者になりなさいとチャレンジするのです。」（ダリン・H・オークス「主の望まれる者になるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号，38）

「それで，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験6

背景と内容を理解する

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- 背景と内容の意味を理解する
- 背景と内容の重要性を理解する
- 聖文の背景と内容を見つける

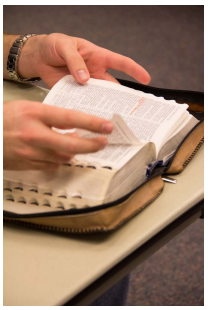
重要な概念

次の幾つかの学習経験では，一度に一つずつ学習パターンの個々の要素を詳しく見ていきます。学習パターンは，わたしたちの思いと心に福音を染み込ませるための基本となる枠組みを提供してくれます。この学習経験では，背景と内容を理解することについて学びます。

この学習経験の目的は，学習パターンの側面を簡単に紹介することです。セミナリーまたはインスティテュートの教師として奉仕するとき，これらの技術について学んで実践するための機会がさらに多くあるでしょう。

聖文から学ぶ—背景と内容を理解する

原石のたとえの中で，若い女性は砂の中の原石を探す夢を見ます。彼女が原石を探していたのは，学習者が聖典の中の永遠の真理を探すのを象徴しています。砂は，人々，場所，出来事，話の筋，教えなどは，聖文の背景や内容を表していて，その中から福音の真理を見いだすことができます。



聖典の中の永遠の真理を探すとき，わたしたちは読んでいる節の背景や基本的な詳細について理解しようとすることから始めます。聖文の背景と内容を理解しようと努めると，大切な福音の真理を素早く見つけることができます。

『福音を教え学ぶ』の手引きの活動

『**福音を教え学ぶ**』の手引き24－25ページにある2.4.1の項（「背景」）と2.4.2の項（「内容」）を読んでください。これらの項の中で，聖文の背景と内容の意味することやや聖文の研究においてなぜそれらが大切であるかを理解するのに役立つ言葉に印をつけてください。

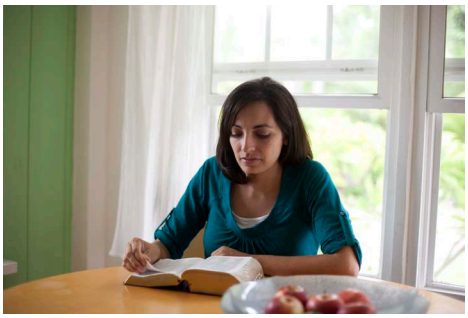
学習帳または後で参照できるところに，福音研究で背景と内容を理解することの重要性についての自分の見識や印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

背景と内容の意義と重要性

背景と内容をさらに理解するために以下の表を読んでください。

背景	内容
背景とは何ですか。 背景には，特定の聖句や出来事，話に関わる状況あるいは背景となる状況が含まれます。背景には，歴史的，文化的，地理的状況，聖典の出来事を引き出した状況などが含まれます。	内容とは何ですか。 内容とは，聖文を構成している話の筋，人物，出来事，説教，霊感に基づく説明です。内容を見いだすとは，難しい言葉や言い回しや，たとえ，象徴などの解釈を学ぶことが含まれます。
背景が大切なのはなぜでしょうか。 背景から聖文中の物語，教え，教義，原則に関する理解が明らかになり深まるからです。	内容が大切なのはなぜでしょうか。 内容が分かると，聖句ブロックの中に見られる教義や原則に興味を持ち，自分との関連性を見いだすからです。

質問する



聖文の背景と内容を理解するために，まずその聖句の基本となる詳細をよく理解し，その後さらに理解を深めるためにそれらを詳しく調べます。これは，読んでいる聖句の人物，場所，出来事などについて問いかけることを学び，それから信頼がおけて役に立つ資料を使ってそれらの問いの答えを探すことによって行うことができます。

研究している部分の背景と内容をさらに理解するために，以下のような質問が役に立つでしょう。

- この節の背景は何だろうか。
- 歴史的，文化的，地理的状況はどうだろうか。
- 書いているのはだれだろうか。

- この聖句に出てくる人物は誰だろうか。彼らは何をし，何と言っているだろうか。またそれはなぜだろうか。
- 何が起こっているだろうか。話の筋は何だろうか。
- 聞き慣れない言葉，言い回し，表現の意味は何だろうか。
- 描かれている慣習や行われていることの意義は何だろうか。

答えを探す

以下は質問の答えを探すのに役立てられる，最も信頼のおける資料です。

- 章の前書き，脚注，，聖句ガイド，地図などのような聖典学習補助資料
- 関連のある聖句
- 生ける預言者と使徒の言葉（特に総大会の説教）
- セミナリーとインスティテュートの聖典教科課程（教師用・生徒用手引きを含む）
- 辞書

聖文の背景と内容を理解することにより，あなたが読んでいる箇所の人物，場所，出来事，教えの世界に，記録者が見たのと同じように，さらに深く入っていくことができるようになります。これは，大切な福音の真理を見つけるための扉を開く助けとなります。

福音を教えるとき天からの助けを受ける

LDS.orgにあるビデオ“Understanding Context and Content”（『背景と内容を理解する』）（7：39）を視聴してください。このビデオでは，3人の教師が背景と内容を理解するための取り組みについて話し合っています。

学習帳または後で参照できるところに，ビデオから学んだアイデアを記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

聖典の活動

では聖典の中の背景と内容を見つけてみましょう。

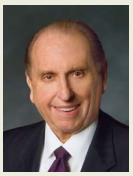
ビデオ“Understanding Context and Content”（『背景と内容を理解する』）の中で3人の教師が聖文を読み終わった箇所，ルカ5：12−26読んでください。人物，場所，出来事，その他の詳細について，これらの節の背景と内容をより良く理解するのに助けとなりそうな質問のリストを作ってください。それからしばらく時間を使って，質問の答えを見つけてください。

この活動を終えた後で，学習帳または後で参照できるところに経験したことのまとめを記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。（1）福音研究で背景と内容を理解することの重要性について学んだことと（2）ルカ5：12−26の人物，場所，出来事について新しく得た見識も入れてください。

まとめと応用

覚えておくべき原則

- 背景は，聖典の中の物語，教え，教義や原則に対する理解を明確にし，深めてくれる。
- 内容は，聖典の教義と原則に興味と自分との関連性を与えてくれる。
- 聖文の背景と内容を理解すると，大切な福音の真理を解き明かす助けとなる。
- 聖文の背景と内容を理解するようになると，問いかけをして，その答えを信頼できる資料から探さなければならない。



「聖文の中で説かれている教訓に慣れ親しんでください。主のたとえや預言者の勧告の背景や場面を学んでください。それらを，あたかも自分に話されているかのように研究してください。」（「最高の自分になる」『リアホナ』2009年5月号，67－68）

「それで，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験7

教義と原則を見つける

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

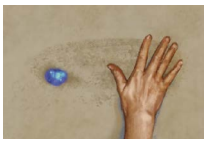
- 明白に述べられている教義や原則を見つける
- 言外に伝えられる教義や原則を見つける
- 原則を文章にして書く

重要な概念

学習経験5で紹介されている学習パターンは，福音がわたしたちの思いや心に福音を染み込ませるために助けとなる基本です。この学習経験では，教義と原則を見つけることについて学びます。

この学習経験の目的は，学習パターンの側面を簡単に紹介することです。セミナリーまたはインスティテュートの教師として奉仕するとき，これらの技術について学んで実践するための機会がさらに多くあるでしょう。

教義と原則を見つける



原石のたとえの中で，若い女性は大きな価値のある原石を見つける夢を見ました。

同じように，聖典を研究するとき，わたしたちの生活を祝福する霊的な原石を見つけることができます。

十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926－2004年）は次のように教えています。

「兄弟姉妹の皆さん，聖文にはダイヤモンドのような教義がたくさんあります。御霊の光がその数々の面に当たると，それらは日の栄えの知恵を放って輝き，わたしたちの行くべき道を照らしてくれます。」（「わたしたちの『心の望みに応じて』」『リアホナ』1997年1月号，22）

砂の中の原石は，聖典と預言者の言葉に含まれている大切な教義や原則を象徴しています。

『福音を教え学ぶ』の手引きの活動

『**福音を教え学ぶ**』の手引きの5ページにある1.3.1「教える」の最初の4段落，そして26ページ，2.5「福音の教義と原則を見つけ，理解し，それらが真実であり重要であることを感じ，それらを応用する」の最初の4段落を研究してください。以下の質問に答えるのに役立つ言葉に下線を引いてください。

- 教義とは何ですか。
- 原則とは何ですか。
- 教義や原則はなぜ大切なのですか。

教義や原則が大切な理由について，学習帳または後で参照できるところに自分の見識や印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

教義と原則—明白に述べられているものと言外に伝えられるもの

原石のたとえの中で，若い女性は価値のある原石を見つけようと探します。探していると，砂の表面近くにあったり，深いところで見つけたりします。同じように，教義と原則も聖典の中ではっきりと述べられていて見つけやすいものもあれば，直接的には述べられておらず，むしろ言外で伝えられているものもあります。これらの原則を見つけるには努力が必要です。

明白に述べられている教義と原則	言外に伝えられる教義と原則
聖典の中で明白にはっきりと述べられている教義と原則	聖典の中では直接述べられず，作者が暗示している教義と原則

教義や原則を見つけることについて，十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老（1928—2015年）はこう教えています。

「原則を探求することです。原則と，その説明のために用いられている枝葉的な事柄を注意深く識別しましょう。」（「霊的な知識を得る」『リアホナ』1994年1月号，97）

この残りの学習経験は，研究するときに明白に述べられている教義と原則と言外に述べられているものの両方を見つける能力をつけるのに役立つでしょう。（『**福音を教え学ぶ：宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き**』，27も参照してください。）

明白に述べられている教義と原則を見つける

明白に述べられている教義と原則は，聖文の中にはっきりと明らかに述べられているものです。

はっきりと述べられている教義と原則の例として以下の聖文を読んでください（太字で強調）。

- ヨハネ15：10—「**もしわたしのいましめを守るならば，あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである**。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので，その愛のうちにおるのと同じである。」
- 創世記1：27—「**神は自分のかたちに人を創造された**。すなわち，神のかたちに創造し，男と女とに創造された。」
- 教義と聖約59：23—「しかし，**義の業を行う者はその報いを受ける，すなわち，この世において平和を，また来るべき世において永遠の命を受ける**ということを知っておきなさい。」
- ヒラマン3：27—「これによって分かるように，**主は，真心から主の聖なる名を呼ぼうとするすべての人に憐れみをかけられる**。」
- ヨブ36：5—「見よ，**神は力ある者であるが，何をも卑しめられない，その悟りの力は大きい**。」

聖典の活動—明白に述べられている教義と原則を見つける

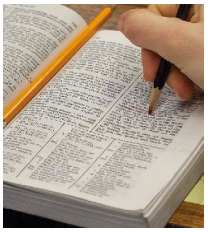
以下の聖文を読んで，自分の聖典のそれぞれ明白に述べられている教義と原則に印をつけてください。

- アモス3：7
- 2ニーファイ9：20
- モーサヤ2：17

これらの聖句で印をつけたそれぞれの教義と原則について，学習帳または後で参照できるところに自分の見識や印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

言外に伝えられている教義と原則

原石のたとえの中で，若い女性は砂の表面にある原石を見つけるだけでは満足しませんでした。彼女は砂を深く掘り，注意して砂を払いのけることで，価値ある他の原石を見つけられることを学びました。



同じように，聖文を研究するとき，聖文の背景や内容を通して「掘る」ことや「払いのける」ことを学び，言外に伝えられる教義や原則を見つけることができます。これらは，あなたの聖文研究で最も尊い大切なことです。言外に伝えられる教義や原則を見つけるには，時間をかけ注意深く考えることが必要です。

『福音を教え学ぶ』の手引きの活動

手引き『福音を教え学ぶ』の27ページにある2.5.1（「教義と原則を見つける」）の9段落目「聖典の記録者は……」から28ページの4段落目までを読んでください。暗示されている教義と原則と，研究しながらそれらを見つける方法についての理解を深めてくれた言葉に下線を引いてください。

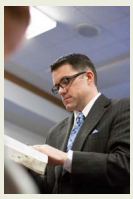
下線を引いた部分を基に，暗示された真理とは何か，そしてそれらを見つける方法を友人や家族にどう説明できるか記録してください。学習帳または後で参照できるところにこれらの考えや印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

言外に伝えられる教義と原則を見つけるための提案

『**福音を教え学ぶ**』の手引きは，教師と生徒が言外に伝えられる教義や原則を見つけられるよう以下の提案をしています。

1. 因果関係を探す

> 「聖典の話に出てくる人や人々の行動，態度，行いを分析し，また祝福や結果を見つけることによって，福音の原則がよりはっきりと分かるようになる。」（『**福音を教え学ぶ**』27）



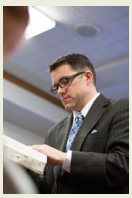
「マタイ4：1－11を読んでいると，救い主の行動と，『神とともにある』ために主がどのように断食して祈られたかに焦点が集まり始めました。そうすると，敵対する者から向けられた誘惑を退けるために，主がどのように聖文をお使いになったか理解しました。主は断食し，祈り，聖文を使ったことで（原因），誘惑を克服できるだけの霊的な強さを得られたのです（結果）。この発見をしたとき，原則を表す簡単な文章を書きました—**断食し，祈り，聖文を理解するとき，わたしたちは誘惑を克服するためのより大きな霊的な力を得られる。**」

「わたしは第1ニーファイ18：3にある暗示された偉大な原則を見つけました。ニーファイは『度々山の中へ行き，度々主に祈』りました。その結果，主はニーファイに偉大なことを見せられました。このメッセージを深く考えながら，次の原則を自分の聖典の余白に書きました—**個人の祈りで主と親しく語れば語るほど，主はわたしに偉大なことを明らかにしてくださる。**」

2. 質問をする

言外に伝えられる原則は，以下のような質問をすることによっても見つけることができます。

- その話の教訓または要点は何だろうか。
- 記録者がこれらの出来事や言葉を入れたのはなぜだろうか。
- 記録者はわたしたちに何を学ばせようとしたのだろうか。
- この言葉の中で教えられている基本的な真理は何だろうか。



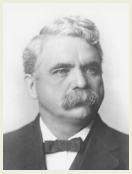
「モルモン書を自分も翻訳しようとして失敗したオリバー・カウドリに対する主の勧告が含まれている教義と聖約9章を読んで，『この話の教訓または要点は何だろうか』と自問しました。心に浮かんだ暗示されている原則は，**啓示を受けて認識するには，わたしたちの努力が必要である**ということでした。」

「アルマ17－18章で，見返りを考えずにラモーナイ王に仕えるアンモンと，アンモンの忠実さに感動するラモーナイ王の話を読みました。『記録者がこれらの章にこれらの詳しいいきさつを入れたのはなぜだろうか』と考えていました。この質問の答えとして，聖典に次の原則を書きました—**忠実に人々に仕えるとき，人々が福音の真理を受けるよう備えることができる**。」

3. 教義と原則をはっきりと簡潔に述べる

『**福音を教え学ぶ**』の手引きは，「言外に伝えられる〔教義と〕原則を見つけることには，聖典の話の中で述べられている真理を見分けることと，それを明確かつ簡潔に述べることが含まれる」と教えています（『**福音を教え学ぶ**』27）。はっきりと完全な文で教義と原則を書くと，考えを表現し，主がわたしたちに与えようとしておられる霊的なメッセージを捉えるのに役立ちます。

七十人のB・H・ロバーツ長老（1857－1933年）は次のように教えました。



「真理を知らせるには，宣べ伝えなければならない。より明確に，より完全に伝えることができれば，聖なる御霊が人の心にこの御業の真実性を証されるのに，いっそう好都合である。」（New Witnesses for God，全3巻〔1909年〕，第2巻，vii，B・H・ロバーツ。ジェームズ・E・ファウスト「伝道に出る前に息子に知ってほしいこと」『リアホナ』1996年7月号，49で引用。）

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老（1928－2015年）は次のように強調しています。

「集めた真理を組み立てて簡潔な原則を生み出そうと努めるのは，有意義なことです。」（「霊的な知識を得る」『リアホナ』1994年1月号，97）

スコット長老が提案しているように，「集めた真理を組み立てて簡潔な原則を生み出」してみると，最も役に立つ教義や原則には以下の特徴があることが分かるでしょう。

- よくまとめられた文章である。
- 明確で簡潔である。
- 表している真理が基本的で，不変であり，いつの時代にも当てはまる。
- 行いとともにそれに関連した結果を伴っていることがよくある。
- それらは個人に関連がある。

以下の教義と原則は，それぞれこれらのどの特徴を表しているでしょうか。

- 個人の祈りで主と親しく語れば語るほど，主はわたしに偉大なことを明らかにしてくださる。
- 断食し，祈り，聖文を理解するとき，わたしたちは誘惑を克服するためのより大きな霊的な力を得られる。
- イエス・キリストはわたしの罪のために苦しみを受けられた。
- 啓示を受けて認識するには，わたしの努力が必要である。
- わたしが忠実に人々に仕えるとき，福音の真理を受けるよう人々を備えることができる。

LDS.orgにあるビデオ“Identifying Doctrine and Principles”（『教義と原則を見つける』）を視聴してください。このビデオの中で，3人の教師が上に述べた3つの提案を使って，ルカ5：1－11の教義と原則を見つけることについて話し合っています。

ビデオの中で大切だと思ったことを幾つか学習帳または後で参照できるところに記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

ガイド付きの聖典の活動—言外に伝えられる教義と原則を見つける

言外に伝えられる教義と原則を見つける練習をしましょう。エノス1：1－8を研究して，永遠の価値についての教義または原則を探してください。

1. 背景と内容を理解する

   教義と原則を探す前に，まずその聖句の背景と内容を理解するように努めてください。以下のような質問が役に立つでしょう—

   - 「苦闘」とは何だろうか。（2節参照）

- 何がエノスの心に深くしみ込んだのだろうか。（3節参照）
- エノスは何をどのくらいしたのだろうか。（4節参照）
- 「懇願」とはどういう意味だろうか。（4節参照）
- これらの節で，主とエノスはどんな会話をしたのだろうか。（5－8節参照）

2. **言外に伝えられる**教義と原則を見つける

   エノス1：1－8の教義と原則を見つけるときに，一つかまたはそれ以上，以下の質問を考えてください。

   - これらの節ではどんな因果関係が見られるだろうか。
   - その話の教訓または要点は何だろうか。
   - 記録者はわたしたちに何を学ばせようとしたのだろうか。
   - この聖句が教えている基本的な真理は何だろうか。

3. 福音の教義と原則について簡潔明瞭に述べる

   エノス1：1－8の教義と原則を見つけるとき，簡潔で明瞭な文章になるようにしてください。助けが必要な場合は，以下の言葉を使ってみてください。

   - もし……なら（原因）_____，……である（結果）_____。
   - これによって分かるように……，_____。

学習帳または後で参照できるところに自分の作った教義または原則を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

聖典の活動—言外に伝えられる教義と原則

では，この学習経験でこれまでに学んだ技術を自分で実践してください。

ルカ5：12－26を読んで以下のことをしてください。

- その聖句の背景と内容を理解する。
- これらの節で教えられている教義と原則を見つける。
- 見つけたそれぞれの教義または原則を明瞭で簡潔な文章で書く。

学習帳または後で参照できるところに自分の作った教義または原則を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

教義と原則を見つけることの効果

LDS.orgにあるビデオ“Identifying Doctrine and Principles: Students’ Testimonies”（『教義と原則を見つける—生徒の証』）（2：39）を視聴してください。このビデオでは，何人かのセミナリーおよびインスティテュートの生徒が，聖典研究で教義と原則を見つけることを学んだ効果について分かち合っています。これを見ながら，この技術が自分自身の聖典研究や教室で教え学ぶときに及ぼす影響について考えてください。

まとめと応用

覚えておくべき原則

- 聖文の主要な目的は，イエス・キリストの福音の教義と原則を教えることである。
- 「教義」とは，イエス・キリストの福音の基本的で不変の真理である。
- 「原則」とは，物事を決めるときに指針として取り入れることのできる不朽の真理や決まりである。
- 教義と原則は，聖典の中ではっきりと簡潔に述べられているものもあれば，言外に伝えられているだけのものもある。
- 言外に伝えられる教義と原則を見つけることには，それらを簡潔明瞭に述べることも含まれる。
- 聖文の中の教義と原則を見つけるには，深く考える努力と練習が必要である。

「人は実に，福音の原則を学ぶことなしに聖文を研究することはできません。なぜなら，聖文は，わたしたちを益するために原則を書き残したものだからです。」（“The Message of the Old Testament”〔旧約聖書に関するCESシンポジウム，1979年8月17日〕，3，LDS.org）

「それで，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験8

教義と原則を理解し，感じ，応用する

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- 福音を心の中に取り入れる
- 教義と原則を理解する
- 教義と原則が真実であり重要であることを感じる
- 教義と原則を応用する

重要な概念

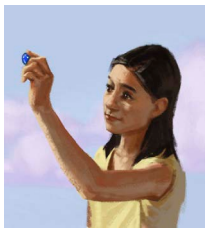
学習パターンには福音を私たちの思いと心に根付かせるのに役立つ基本があります。この学習経験では，教義と原則を理解し，それらが真実であり重要であることを感じ，それらを応用することについて学びます。

この学習経験の目的は，学習パターンの側面を簡単に紹介することです。セミナリーまたはインスティテュートの教師として奉仕するときに，これらの技術について学んで実践するための機会がさらに多くあるでしょう。

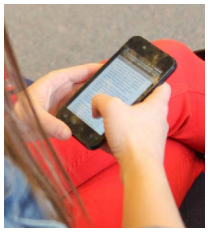
教義と原則を理解し，それらが真実であり重要であることを感じ，それらを応用する

原石のたとえは聖典を研究することの象徴です。以下の3つの要素は，大切な福音の真理を見つけた後でわたしたちの研究においてできることを理解する助けとなります。

1. 教義と原則を理解する



この若い女性は，見つけたそれぞれの原石の形やその表面を注意深く調べました。



教義と原則という形の中で真理の原石を見つけるとき，わたしたちはその意味や重要性をより良く理解するために，それぞれを注意深く調べることができます。

2. 教義と原則が真実であり重要であることを感じる

若い女性はそれぞれの原石に対する感謝の念が心の中で広がるのを感じました。

見つけた真理に対する理解が深まると，それが自分にとって大切で，関連性があって，緊急性のあるものであると感じます。

3. 教義や原則を応用する

この若い女性の父親は，見つけた原石をどうするか考えるように言いました。

教義と原則に対する証と感謝の気持ちを持つと，生活の中でそれを応用する具体的な方法を考えるべきです。

末日の預言者と使徒は，福音を心に深く染み込ませることの重要性を強調しています。福音の大切な教義と原則を見つけるために聖文の背景と内容を理解するのは，福音の真理の知識を得るためには良いスタートです。しかし，頭で理解したことを心に深く染み込ませるには，さらに何か行わなくてはなりません。以下のことをしてください。

1. 見つけた教義と原則を理解する。
2. それらが真理であり重要であると感じる。
3. それらを生活に応用する。

これら学習パターンの3つの要素はともに働いて，福音を私たちの心に深く染み込ませる聖霊を招きます。

『福音を教え学ぶ』の手引きの活動

『福音の教授と学習：宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』には，学習パターンのこれらの側面それぞれについて大切な情報が含まれています。示された手引きの項を読んでそこにある質問に答えることで，手引きが教えていることを研究してください。

1. 教義と原則を理解する

   『福音を教え学ぶ』の手引き28－29ページにある2.5.2（「教義と原則を理解する」）の項を研究してください。研究しながら，次の質問の答えを見つけてください。

   - 「教義と原則を理解する」とはどういう意味だろうか。
   - 見つけた教義と原則をさらによく理解するためにどんなことができるだろうか。

2. 教義と原則が真実であり重要であることを感じる

   『福音を教え学ぶ』の手引き29－30ページにある2.5.3（「教義と原則が真実であり重要であることを感じる」）の項を研究してください。研究しながら，次の質問の答えを見つけてください。

   - 見つけた教義または原則が真実で重要であると感じるのはわたしにとってなぜ大切なのだろうか。
   - 見つけた原則または教義が真実で重要であると感じられるように御霊の影響を招くには，学習者として何ができるだろうか。
   - 聖霊はこの過程でどのような役割を果たすのだろうか。

3. 教義と原則を応用する

   『福音を教え学ぶ』の手引きの30－31ページにある2.5.4（「教義と原則を応用する」）の項を研究してください。研究しながら，次の質問の答えを見つけてください。

   - 学んだ福音の原則を応用していることがどのようにしたら分かるだろうか。
   - 見つけた教義または原則を応用しようとするとき，生活にはどんなことが起こるだろうか。
   - 学んでいる真理を応用することにさらに焦点を合わせるために，個人の研究でどんなことができるだろうか。

『福音を教え学ぶ』の手引きの中で研究した全てのことから，3つの鍵となる提案に焦点を当てましょう。以下のリストでは，それぞれの要素が一つの行動と関連しています。聖典から学ぶ真理を理解し，それが真実で重要であると感じ，応用しようとするときにその行動をすることができます。

1. 教義と原則を理解する

   質問し答えを探すことで，教義または原則の意味を分析します。

2. 教義と原則が真実であり重要であることを感じる

   自分または他の人の生活に原則が及ぼした影響について考えてください。

3. 教義と原則を応用する

   教義または原則を自分の生活に応用するために取るべき具体的な行動について深く考えてください。

学習パターンを応用する

LDS.orgにあるビデオ“Understand, Feel, and Apply Principles”（原則を理解し，感じ，応用する）（7：12）を視聴してください。このビデオでは，3人の教師がルカ5：1－11にある教義と原則を理解し，それらが真実で重要であると感じ，それらを応用する取り組みについて話し合っています。

学習帳または後で参照できるところに，この話し合いを見ながら大切だと思ったことを幾つか記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

ガイド付き実践活動

エテル6：1－12で，主は風を起こしてヤレドの民の船を約束の地へ導かれました。この聖句から次の原則を見つけられます。**主を信頼して御心を行うとき，主はわたしたちの人生を導いてくださる**。この原則を理解し，これが真実で重要であり，これを応用するための取り組みとして以下のステップに従ってください。聖典または個人の日記に自分の答えや考えを記録してください。

1. 原則に対する理解を深める

   次のような質問をして答えを探すことにより，原則の意味を分析してください。

   - 信頼するとはどういう意味だろうか。
   - 主を信頼するとはどういう意味だろうか。
   - 主を信頼する人の人生はなぜ主に導かれることができるのだろうか。
   - 主はどのように個人の人生を導かれるのだろうか。

2. 教義と原則が真実であり重要であることを感じられるように努める

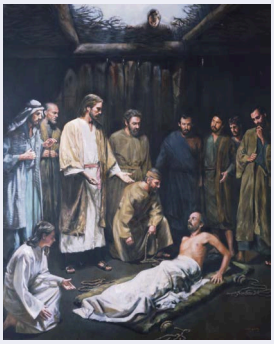
   原則が自分または聖典や教会歴史の人物を含めた他の人の人生に与えた影響について考えてください。

   - 自分の人生や証は，どのようにこの原則が真実であることを表しているだろうか。
   - 考えた人の人生や証は，どのようにこの原則が真実であることを表しているだろうか。

3. 原則を応用する

   教義または原則を応用するために取るべき具体的な行動について深く考えてください。

自己実践活動



学習経験7のルカ5：12－26の研究で見つけた原則か，または『**福音を教え学ぶ**』の手引きの42－46ページにある3.2（「ルカ5章：例」）の項で見つけた原則を選択してください。そして以下のことを行ってください。

1. 原則に対する理解を深める。

   質問し答えを探すことで，教義または原則の意味を分析します。

2. 原則が真実であり重要であることを感じられるように努める。

   原則が自分または他の人の生活に及ぼした影響について考えてください。

3. 原則を応用する。

教義または原則を応用するために取るべき具体的な行動について深く考えてください。

学習帳または後で参照できるところに，この活動を通して得た気付きや印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

まとめと応用

覚えておくべき原則

- 福音学習の目標は，福音の教義と原則を思いから心へしみ込ませる聖霊を招くことである。
- 教義または原則を理解するとは，その意味だけでなくそれがどのようにわたしたちの人生に影響するかを知ることも含まれる。
- 教義または原則をはっきりと理解すると，それが真実であり重要であることを感じる備えとなる。
- 教義や原則が真実であり重要であると感じると，生活にそれを応用したいという思いが増す。
- わたしたちは学んだ原則に従って話し，考え，生活するとき，応用できたことになる。

「まことの教師は生徒に事実を教えて，生徒が知識を持ったら，霊的な証と心の底から理解するという次の段階へと導きます。それは行動と実行に向かわせるものとなります。」（ロバート・D・ヘイルズ「信仰により教える」〔ロバート・D・ヘイルズ長老との夕べ，2002年2月1日〕，7，si.lds.org）

「それで，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験9

レッスンを準備する：教える事柄を決める

概要

注—次の5つの学習経験は，どのようにレッスンを準備するかが学べるよう作られています。学習経験9－10では教える事柄を決めることに，学習経験11－13では教える方法を決めることに焦点が当てられています。

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- 聖文を配列順に教える
- 教える事柄と方法のバランスを保つ
- 教える事柄を決める

重要な概念

新しく召された教師は，以下のような質問を持つことがよくあります。

- セミナリーを教えることは，福音の教義クラス，扶助協会，長老定員会などで教えるのとどのように違うのだろうか。
- どのようにレッスンを準備すればいいだろうか。
- 教える事柄と教える方法を決めるのに，どのくらいの時間を費やすべきだろうか。
- どのように教える事柄を決めればいいのだろうか。

この学習経験を通して，これらの質問への答えが得られるでしょう。

聖典を配列順に研究し教える

標準聖典に焦点を当てているセミナリーやインスティテュートコースでは，聖典に見られる順序で，書と章を教えます。レッスンはテーマではなく，聖句ブロックでまとめます。それぞれの聖句ブロックには，複数の章，原則，強調したいテーマが含まれているかもしれません。この方法は，インスティテュートのテーマ別に教えられているコースとは違います。

LDS.orgにあるビデオ『聖典を配列順に教える』（“Studying the Scriptures Sequentially”）（0：46）を視聴してください。このビデオでは，十二使徒定委員会のデビッド・A・ベドナー長老が，聖典を配列順に研究することにどのような利点があるか話しています。

『福音を教え学ぶ』の手引きにある活動

標準聖典に焦点を当てているセミナリーとインスティテュートコースが配列順に聖文を採り上げる理由を理解するため，『福音を教え学ぶ：宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』の38－39ページにある3章の最初の部分を読んでください。この部分を読みながら，聖典を配列順に研究することであなたや生徒がどのように祝福されるか，手引きに印をつけてください。

聖句ブロックを配列順に教えるとき，一つのレッスンの中で複数の原則を教えることになるでしょう。それぞれの原則に対する強調の程度は異なっても構いません。

LDS.orgにあるビデオ『聖典を配列順に教える』（“Teaching the Scriptures Sequentially”）（4：28）を視聴してください。このビデオは，聖句ブロックを配列順に教える計画をするときに考慮すべき，大切ないくつかの概念を説明しています。

何をどのように—バランスを取って準備する

レッスンを準備するとき，教える事柄と教える方法にかける労力のバランスを取ることが大切です。

バランスの取れていない準備

1. 事柄

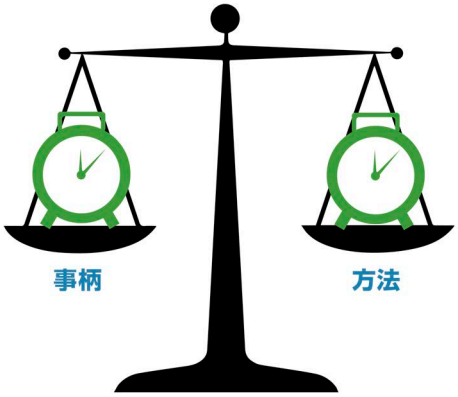
   教師が教える**事柄**を決めるのに時間と労力をかけすぎると，生徒が学習に参加するのをどのように助けるかを考える時間が十分取れなくなります。その結果，レッスンは教師が中心となって，退屈なものになってしまうでしょう。

2. 方法

   教師が教える**方法**を決めるのに時間と労力をかけすぎると，レッスンは目的と力を失いかねません。この場合，生徒には霊感された聖典のメッセージよりも，教えられた方法が記憶に残るかもしれません。

バランスの取れた準備

「教師は皆，レッスンを準備するときに，『何を教えるか』，また『それをどのように教えるか』を決めなければならない。」（『福音を教え学ぶ』52）準備するときに教える**事柄**と**方法**のバランスが取れていないとどうなるかを学びました。では，以下の項を読みながら，教える**事柄**と**方法**のバランスが取れているときの準備の特徴に注意してみてください。



1. 事柄

   教える**事柄**の準備は以下のことが含まれます。

   - 背景（文脈，文化，状況）を理解する。
   - 内容（話の筋，人物，出来事，説教，霊感された説明）を理解する。
   - 重要な教義や原則を見つける。

2. 方法

   教える**方法**を準備するとは，生徒が学べるように使う手段，採り上げ方，活動を決めることです（クラスの話し合い，質問，視聴覚資料，筆記活動，小グループでの活動など）。

さらに詳しく知るためには，『福音を教え学ぶ』の手引きの52ページにある4.3.2の項（「教える事柄とそれを教える方法を決める」）を参照してください。

新任教師の心配

LDS.orgにあるビデオ『言葉を得る』（“Obtain the Word”）（8：54）を視聴してください。このビデオには，忙しい母親で，最近セミナリーの教師に召されたリア・マレーが登場します。多くの新しく召された教師がそうであるように，彼女も毎日レッスンを準備して教える時間を見つけられるか心配しています。どこから始めたらいいのかさえ分かりません。ビデオを視聴しながら，彼女が召しについて助けが必要なとき誰に助けを求めたかよく見てください。また，レッスンの準備を始める最も大切な事柄に関して，どんな勧めを受けたか探してください。

教える事柄を決める—4つの段階

レッスンを準備するとき，以下の4つの段階が教える事柄を決めるのに助けとなります。これらの段階については，『福音を教え学ぶ』の手引きの52－55ページにある4.3.3の項（「教える事柄を決める」）に説明されています。

1. 聖句ブロックの背景と内容を理解するために，聖句に集中する。
2. その聖句ブロックにある教義と原則を見つけ，理解するよう努める。
3. 生徒が学び，応用するためにどの原則が最も重要かを判断する。
4. 聖句ブロックの各セグメントをどの程度強調するか決める。

次の活動は，教える事柄を決める4つの段階に焦点を当てています。活動の4つの各部分で，それぞれの段階をどのように完了するか表したビデオを視聴してください。それから，モーサヤ27章を使ってレッスンノートを作成し，学んだことを実践してください。

レッスンの準備の活動

段階1—聖句ブロックの背景と内容を理解する

『福音を教え学ぶ』の手引きには，聖句ブロックの背景と内容を理解しようとするときに考慮する4つの提案があります。

- 内容を理解し，よく分かるようになるまで聖句ブロックを熱心に読む。
- テーマや行動が変わるときの，聖句ブロックの中の自然な変わり目に注意を払う。
- 自然な変わり目に基づいて，聖句ブロックをより小さなセグメント（節のまとまり）に分ける。（**注**—これらの小さなセグメントを使って，レッスンの流れを組み立て，聖句ブロック内の全ての内容に少なくともある程度の注意を向けることができる。）
- 各セグメント内で起こったことの要点をまとめる。

LDS.orgにあるビデオ“Lesson Preparation: Verse Segments and Summary Statements”（『レッスンの準備—セグメントとまとめの文』）（5：08）を視聴してください。このビデオでは，ウィルソン姉妹がこれらの段階を実際に行っています。

ビデオで見たような空欄の用紙を作成するか，この手引きの付録にある「教える事柄を決める」と題のついた配付資料を使ってください。それから，以下のことをして，聖句ブロックの背景と内容を見つけてください。

1. 背景と内容がよく理解できるようになるまで，聖句ブロック（モーサヤ27章）を研究する。
2. 話題や行動が変わる自然な変わり目に注意する。
3. これらの自然な変わり目に基づいて，聖句ブロックをより小さなまとまり（セグメント）に分ける。
4. 用紙に，各セグメント内で起こったことを表す要約文を書く。

段階2—教義と原則を見つけ，理解する

セグメントの要点をまとめた後で，それぞれの中にある教義と原則を見つけます。それから，見つけた教義と原則をまとめた，分かりやすくて簡潔な文を書きます。

LDS.orgにあるビデオ“Lesson Preparation: Identifying Doctrine and Principles”（『レッスンの準備—教義と原則を見つける』）（2：57）を視聴してください。このビデオは，ウィルソン姉妹が教義と原則を見つけ，それらを簡潔な言葉にまとめ，自分のレッスンの概要に書き込んでいく様子が描かれています。

モーサヤ27章のレッスンノートに戻って，以下のことを行ってください。

1. 各セグメントの教義と原則を見つける。
2. 用紙に，分かりやすい簡潔な言葉を使って，各教義や原則を書き出す。

段階3—生徒が学び，応用するためにどの原則が最も重要かを判断する

聖句ブロックには多くの場合，クラスで話し合いを行える以上の多くの題材があります。生徒が学んで応用するために最も大切な教義と原則はどれかを決めるにあたり，以下のことを考慮してください。

- 聖霊の促し
- 霊感を受けた記録者の意図
- 改心を促す原則と基本的な教義
- 生徒の必要と能力

LDS.orgにあるビデオ“Lesson Preparation: Decide Which Principles to Emphasize”（『レッスンの準備—どの原則を強調するか決める』）（5：07）を視聴してください。このビデオでは，生徒が学んで応用するために最も大切な教義と原則はどれかを決めるウィルソン姉妹の様子が描かれています。

モーサヤ27章のレッスンノートに戻って，以下のことを行ってください。

1. 見つけた教義と原則のうち，生徒が学び，応用するためにどれが最も重要かを判断する。検討の際，以下の質問について考えてみてください。
   - 聖霊の促し
   - 霊感を受けた記録者の意図
   - 改心を促す原則と基本的な教義
   - 生徒の必要と能力
2. 用紙を見て，生徒が学び，応用するために最も重要だと判断した教義と原則に，〇または印をつけてください。

段階4—聖句ブロックの各セグメントをどの程度強調するかを決める

生徒が学び，応用するために最も重要な教義と原則を決めたら，次の段階はレッスンのとき，聖句ブロックのどのセグメントを最も強調するか決めることです。普通は，最も重要だと分かった真理を含むセグメントを最も強調するでしょう。

各セグメントをどの程度強調するか決める際に，学習パターンに対応する以下の質問をするとよいでしょう。このセグメントは，以下のことができるように生徒を助けるだろうか。

- 背景と内容を理解する
- 重要な教義と原則を見つける
- 教義と原則を理解する
- それらの教義と原則が真実であり重要であることを感じる
- 真理を生活に応用する

LDS.orgにあるビデオ“Lesson Preparation: Determine the Emphasis Level of Each Verse Segment”（『レッスンの準備—各セグメントをどの程度強調するか決める』）（6：57）を視聴してください。このビデオでは，聖句ブロックの各セグメントをどの程度強調するか決めるために，学習パターンを使うウィルソン姉妹の様子が描かれています。

モーサヤ27章のレッスンノートに戻って，以下のタスクを完了してください。

1. 用紙のセグメントを見て，学習パターンの以下の質問をすることで，各セグメントをどの程度強調するか考えてください。このセグメントは，以下のことができるように生徒を助けるだろうか。
   - 背景と内容を理解する
   - 重要な教義と原則を見つける
   - 教義と原則を理解する
   - それらの教義と原則が真実であり重要であることを感じる
   - 真理を生活に応用する
2. レッスンノートに各セグメントをどの程度強調するか書いてください。

まとめと応用

覚えておくべき原則

- 標準聖典に焦点を当てるセミナリーとインスティテュートコースでは，教義と原則は聖典に見られる順序で教えられます。
- レッスンを準備するときは，教える事柄と教える方法のバランスを取ることで学習経験がより力強く，目的のあるものになります。
- 教える事柄を決めるときは，
  1. 聖句ブロックの背景と内容を理解するために，聖典を熱心に読む。
  2. その聖句ブロックにある教義と原則を見つけ，理解するよう努める。

3. 生徒が学び，応用するためにどの原則が最も重要かを判断する。
4. 聖句ブロックの各セグメントをどの程度強調するか決める。

「皆さんの生徒の個人的な能力と必要に応じて，最も優先順位が高いものは何かを判断してください。生徒が重要な原則を理解し，自分のものとし，人生の手引きの一部とするならば，最も重要な目的が達成されたことになります。」（リチャード・G・スコット，“To Understand and Live Truth”〔リチャード・G・スコット長老との夕べ，2005年2月4日〕，2－3，si.lds.org）

「それゆえ，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験10

教える事柄を決める：聖典と教師用手引きを使用する

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- 教師用手引きの紹介
- 教科課程を採り入れ，適応させる
- レッスンを準備するために教師用手引きと聖典を使う

重要な概念

マレー姉妹はワードで毎月数回，福音の教義クラスを楽しく教えていました。新しくセミナリーの教師として召されたことをうれしく思っていますが，効果的なレッスンをどのように毎日準備できるだろうかとも考えています。「毎日レッスンを準備して教えるのは，とても大きな責任だわ。どのようなリソースの助けを得られるのかしら。」

教師用手引きの紹介

平日に毎日レッスンを準備することは，圧倒されるような，時間のかかる仕事だと思えるかもしれません。

LDS.orgにあるビデオ“Introduction to the Teacher Manual”（『教師用手引きの紹介』）（4：01）を視聴してください。このビデオでは，聖典と教師用手引きを使って，効果的で効率的にレッスンの準備をする方法を学びます。

注—教師用手引きをまだ受け取っていない場合は，スーパーバイザーに連絡してください。インスティテュートはlds.org/manual/institute，セミナリーはlds.org/manual/seminaryでも全ての手引きを見ることができます。

教師用手引きの活動

注—セミナリーとインスティテュートの教師用手引きの各レッスンは，効果的に準備ができるようにまとめられています。全ての教師用手引きが同じように構成，分類されているわけではありませんが，全ての教師用手引きで類似した資料が利用可能です。この学習経験の活動は，最新のセミナリーの手引きに基づいています。

教師用手引きのいずれかのレッスンを開くか，もしくはこの手引きの付録にある「サンプルレッスン—3ニーファイ11：1－17」と題のついた配付資料を使ってください。

レッスンを一通り読んで，以下の要素を探してください。各要素を見つけたら，以下のリストにチェックをつけてください。

- レッスンのタイトル

  レッスンのタイトルは，そのレッスンで採り上げる聖典の章を示しています。

- 聖句ブロックの紹介

  聖句ブロックの紹介は，その聖句ブロックの背景と内容の概要です。

- 節のまとまり（セグメント）と背景の要約文

  節のまとまりは，特別なテーマや行動に焦点を当てた一連の節です。背景の要約文は，節のまとまりの中の出来事や教えを要約しています。

- レッスン内容
- 教義や原則を表した文

  教義や原則を表した文は，霊的な真理を簡潔に言い表した文です。

- 注釈，背景の情報，追加の教え方のアイデア（全てのレッスンにあるわけではありません）

  注釈や背景の情報とは，追加の引用や歴史的背景もしくは聖文に関する説明です。追加の教え方のアイデアは「レッスン内容」の項で示されていないか，あるいは強調されていない教義と原則を教えるための提案です。また，DVDプレゼンテーションやLDS.orgの動画など，映像メディアを用いる提案も挙げられています。

教師用手引きにある「福音を教え学ぶときの基本」

セミナリーとインスティテュートの教師用手引きは，各レッスンを準備し教えるときに，「福音を教え学ぶときの基本」を実践できるように作られています。

LDS.orgにあるビデオ“The Fundamentals in the Curriculum”（『教科課程における基本』）（2：15）を視聴してください。視聴しながら，セミナリーとインスティテュートの教師用手引きが各レッスンで，どのように「福音を教え学ぶときの基本」を実践できるよう教師を助けているか探してください。

教科課程を採り入れ，適応させる

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は，教師がどのようにセミナリーとインスティテュートの教科課程資料を使うかに関して，次のように教えています。

「まず基本に従い，次に状況に合わせて変えます。指定されているレッスンに十分精通していれば，その後，御霊に従って変えることができます。」（「ダリン・H・オークス長老とのパネルディスカッション」〔宗教教育セミナリー・インスティテュート衛星放送，2012年8月7日〕，si.lds.org）

セミナリーやインスティテュートの教師として，教師用手引きにある教科課程を採り入れ，それから生徒の必要に合わせるようにします。

採り入れる	適応させる
教科課程を**採り入れる**とは，聖文と教師用手引きに書かれているレッスンを読み研究するということです。教科課程を通して，聖文，霊感された聖文の記録者の意図，改心を促す原則，基本的な教義を理解できます。内容を信頼してクラスで使ってください。	教科課程を**適応させる**とは，御霊の導きに従い，生徒一人一人の必要を満たし，彼らが成功できるようにレッスンを変えるということです。

レッスンの準備のために聖典と教師用手引きを使う

教師用手引きを効果的に使うとき，多くの準備時間をかけずに教化するレッスンを準備することができます。

LDS.orgにあるビデオ“Curriculum Overview”（『教科課程の概要』）（4：45）を視聴してください。このビデオは，聖典と教師用手引きを合わせて使うことで，どのように生徒にとって効果的なレッスンを準備できるかをまとめています。

LDS.orgにあるビデオ“Using the Scriptures and the Teacher Manual”（『聖典と教師用手引きを使う』）（5：11）を視聴してください。このビデオでは，レッスンの準備に聖典と教科課程を合わせて使うことについて，ウィルソン姉妹が大切な助言を分かち合っています。視聴しながら，レッスンを準備するときに覚えておくべき大切な考えを探してください。

レッスンの準備の活動

聖典と教師用手引きを使って，レッスンを準備する練習をしてみましょう。教師用手引きのいずれかのレッスンを開くか，もしくはこの手引きの付録にある「サンプルレッスン—3ニーファイ11：1－17」と題のついた配付資料を使ってください。

以下の段階を完了したら，準備の段階を完了したと分かるようにチェックをつけてください。

- レッスンのタイトルを読んで，聖典のその部分を開く。
- 聖句ブロックの紹介を読む。
- 霊感を求めて読み，学び，深く考え，祈ることにより，聖句ブロックに熱心に取り組む。
- 教義と原則を述べた文によく注意を払いながら，レッスンの内容を研究する。
- 生徒の必要を深く考えて，最も必要な原則はどれかを判断する。
- 生徒の必要に合わせて，さまざまな原則をどの程度強調するか決める。
- レッスンにある補助資料を読んで，レッスンでどう使うか考える。

この経験について，訓練指導者やグループと話し合えるようにしておいてください。

まとめと応用

覚えておくべき原則

聖典は教授資料の源であり，教師用手引きはレッスンを準備するための資料です。

- 教科課程は，レッスンを効果的・効率的に準備できるように構成されています。
- 教科課程を採り入れて，生徒の必要に合わせることができます。
- 教科課程を変えるとき，生徒の必要と聖霊の促しを慎重に考慮してください。
- 教科課程を効果的に使ってレッスンの準備をするとき，生徒の必要に合わせることができます。

「教会で教える教義が正確であることを確認するために預言者によって召されている人々は，皆さんが受け取るその教科課程の中の全ての言葉，全ての写真，の図表を全て再検討します。教科課程は神から霊感されたものであるという信仰を働かせることによってのみ，教科課程の力を引き出せるのです。……

教科課程の内容とその配列に忠実であれば，わたしたちが持つたぐいない教授の賜物は抑えられることなく，引き出されることでしょう。」（“The Lord Will Multiply the Harvest”〔ヘンリー・B・アイリング長老との夕べ，1998年2月6日〕，4－5，si.lds.org）

「それゆえ，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験11

教える方法を決める：生徒が役割を果たせるよう助ける

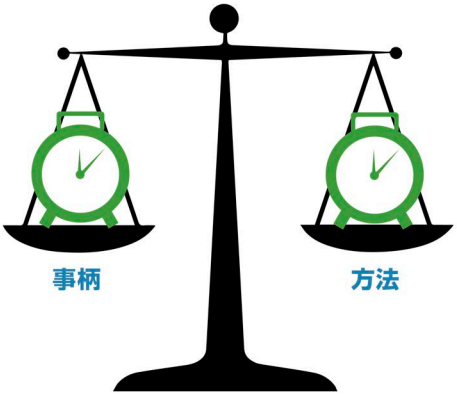
概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- 教える**方法**を決める
- 学習における生徒の役割を理解する
- 生徒が役割を果たせるよう助ける

重要な概念

レッスンを準備するとき，教える**事柄**と教える**方法**のバランスを取ることが大切です。



学習経験10では，聖句ブロックの中で教える**事柄**を決めるとき，教科課程をどのように使うか学び，生徒を教える**方法**を決める準備ができました。

学習過程における生徒の役割

生徒が霊的な成長を経験するためには，学習過程における彼らの役割を理解し，その役割を果たせるような学習活動を準備する必要があります。

この学習経験をしている間，学習過程における役割を生徒が果たせるよう受けた霊感や考えを記録してください。

『福音を教え学ぶ』の手引きにある活動

『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』の1.3.3の項（6−7ページ）と4.3.4の項（55ページ）の最初の3段落を研究してください。読みながら，以下の質問の答えを見つけてください。

- 学習過程における生徒の役割は何でしょうか。
- 生徒が役割を果たせるように助けるうえで，あなたができる最も大切なことは何だと感じますか。

学習帳または後で参照できるところに，これらの質問に対する自分の答えを記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

生徒の役割に関する預言者の勧告

多くの中央幹部が，学習過程における役割を生徒が果たせるよう助けることの重要性を強調してきました。

LDS.orgにあるビデオ“Prophetic Teaching about the Student's Role in Learning”（『学習における生徒の役割に関する預言者の教え』）（4：14）を視聴してください。このビデオでは，何人かの教会指導者が学習過程における生徒の役割の重要性について証しています。

自分の経験を振り返る

あなたが出席したクラスの教師が，学習過程であなたを巻き込む活動をした時のことを思い出してください。次に，教師がクラスを積極的に巻き込まなかったときについて思い出してください。二つの経験を比較対照してください。

- あなたや他の人が学習過程において参加するよう招かれたとき，どんな違いが生み出されましたか。
- 教師はあなたが学習者としての役割を果たせるようにどんなことをしましたか。

学習帳または後で参照できるところに，これらの質問に対する自分の答えを記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

生徒が役割を果たせるよう助ける

福音の教義と原則を**説明し，分かち合い，証する**よう勧めることにより，生徒は福音学習における役割を果たすことができます。福音の教義と原則を説明し，分かち合い，証すると，生徒の理解は明らかになり，他の人々に福音を教える能力が向上し，伝えている事柄に対する証が強められます。（『福音を教え学ぶ』の手引きの2.6の項（31－33ページ）を参照してください。）

- 生徒は聖句や原則を自分の言葉で**説明**できます。二人一組や小グループやクラス全体で，ロールプレーまたは書くことで，説明するよう生徒に勧めることができます。
- 生徒は，聖句や原則に関して学んだこと，経験，気持ちを**分かち合う**ことができます。教義や原則に関する気持ちや適切な個人の経験を分かち合うよう勧めることができます。また，他の人々の生活で目にしてきた経験を分かち合うこともできます。発言もしくは書くことで行ってもよいでしょう。
- 生徒は，真実であると知っている教義や原則について**証する**ことができます。生徒が感じていることや真実だと知っていること，生活に違いをもたらしたことについて証するよう勧めることができます。生徒は「証を述べたいと思います」や「知っています」という言葉を使う必要はありません。真理に関する信念や個人的な確証について述べることは証です。

参加すると学習が促される

LDS.orgにあるビデオ“Explain, Share and Testify: Students’ Testimonies”（『説明し，分かち合い，証する—生徒の証』）（2：28）を視聴してください。このビデオでは，セミナリーで説明し，分かち合い，証しながら役割を果たすことについて生徒が話しています。

生徒中心型のクラス

LDS.orgにあるビデオ“A Student-Centered Classroom: An Example”（『生徒中心型のクラス—例』）（6：51）を視聴してください。このビデオでは，ウェラー姉妹が聖文を学習するという役割を生徒が果たせるように助けています。この目的を姉妹がどのように達成するか見てください。

LDS.orgにあるビデオ“A Student-Centered Classroom: A Teacher’s Reflections”（『生徒中心型のクラス—ある教師の感想』）（3：01）を視聴してください。このビデオではウェラー姉妹が，学習過程に生徒が参加できるよう助けることの重要性について話しています。

教師用手引きの活動

教師用手引きの各レッスンには，生徒が聖典から学びながら積極的に参加できるような質問，活動，方法が載っています。教師用手引きのいずれかのレッスンを開くか，もしくはこの手引きの付録にある「サンプルレッスン—3ニーファイ11：1－17」と題のついた配付資料を使ってください。学習過程における役割を生徒が果たすために使えそうな質問，活動，方法を探してください。

学習帳または後で参照できるところに，見つけた質問，活動，方法をいくつか記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

生徒に役割を教える

生徒は福音学習における役割を理解すると，さらに良く参加するようになるでしょう。ほとんどのセミナリー教師用手引きの最初のレッスンの一つは，生徒の役割を教えることについて情報を提供しています。『モルモン書教師用手引き』のレッスン1「生徒の役割」に目を通して，学習過程における生徒の役割について教えるときに，このレッスンの原則をどのように使うか考えてください。

LDS.orgにあるビデオ“Teaching Students Their Role”（『生徒の役割を教える』）（6：27）を視聴してください。このビデオでは，ハウウェル兄弟が年度初めに生徒の役割について教えています。

年度初めと一年を通して生徒の役割について教えるとき，使いたいと思うアイデアをいくつか記録してください。学習帳または後で参照できるところに自分の考えを記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

まとめと応用

覚えておくべき原則

- 生徒が福音学習における役割を理解し，受け入れ，果たせるように助けます。
- 年度初めと一年を通じて，福音学習における役割を生徒に教えることは大切です。
- 教義と原則を説明し，分かち合い，証するよう勧めることにより，学習過程における役割を生徒が果たすのを助けることができます。
- 教師用手引きにより，学習過程において生徒が参加できる活動を準備することができます。

「〔学習者が〕積極的に参加しようと決心することは，選択の自由を働かせることであり，それによって聖霊は，その人の必要に合わせた，その人に向けたメッセージを伝えることができます。話し合いに参加しやすい雰囲気を作るなら，教師が伝えられる教えよりももっと重要な教えを御霊が伝えてくださる可能性が高まります。そのように参加すれば，彼らの生活の中に御霊の導きがもたらされるでしょう。」（リチャード・G・スコット“To Learn and to Teach More Effectively”〔教育週間でのデボーショナル，2007年8月21日〕speeches.byu.edu）

「それゆえ，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験12

教える方法を決める：効果的な質問をする

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- 質問の重要性を理解する
- 具体的な結果を求める質問を作る
- 効果的な質問をする

重要な概念

質問の重要性を理解する

クラス討論，教師の提示，筆記活動など，クラスで使える教えるための効果的な技術は多くあります。これら全ての方法は教え学ぶ過程を充実させますが，他のどの方法より重要であると思われる方法があります。大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は，次のように教えています。

「**質問をし，質問に答えること**が，全ての教え学ぶことの核心です。」（“The Lord Will Multiply the Harvest”〔ヘンリー・B・アイリング長老との夕べ，1998年2月6日〕，si.lds.org：強調付加）

よく考えられた良い質問を作れるようになるには，時間，努力，練習が必要です。この学習経験では，生徒に深い影響を与えられるような質問をすることを学びます。

LDS.orgにあるビデオ“Asking Questions”（『質問をする』）（2：42）を視聴してください。ビデオを視聴しながら，効果的な質問をすることの重要性に関する洞察を探してください。

『福音を教え学ぶ』の手引きにある活動

『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』の58ページにある5.1の項（質問）の最初の3段落を読んでください。効果的な質問をすることの重要性を理解するのに役立つ言葉に下線を引いてください。

質問をし，それに答えることは，どのような点で「教え学ぶことの核心」なのでしょうか。学習帳または後で参照できるところに自分の見識や印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

目的をもって質問を作る

質問は，生徒が学習パターンの要素を応用できるようなものであるべきです。各要素は異なる結果につながるので，質問の種類も望んでいる結果によってさまざまです。

例えば，求めている結果が聖文の背景と内容を生徒に理解してもらうことであれば，質問は人々，話の筋，文化的背景に関する質問をします。しかし，求めている結果が教義や原則を生徒に応用してもらうことであれば，生活の中に教義や原則を取り入れる方法を考えさせるような質問をします。

基本と典型的な質問を学ぶ

以下は，それぞれの学習の基本に関連した質問の例です。**背景と内容を理解する**から始まって，**教義と原則を応用する**へ移行する間，各段階の質問がどのように互いに積み上がっているかに注意してください。

背景と内容を理解する

- この話に出てくる人は誰でしょうか。
- この部分では何が起こっていますか。
- これらの出来事はどこで起きていますか。

教義と原則を見つける

- どのような教義と原則が見られますか。
- その話の教訓や要点は何ですか。
- 記録者はわたしたちに何を学ばせようとしたのでしょうか。

教義と原則を理解する

- あなたはこの原則について何を知っていますか。

- なぜ，この原則が今日のわたしたちにも大切だと思いますか。
- この原則を他の人にどのように説明したらよいでしょうか。
- この原則に従っている人にはどんな行いや特質が見られますか。

教義と原則が真実であり重要であることを感じる

- この原則が真実だと感じたのはいつですか。
- この原則が真実だとどのようにしてわかりますか。
- この原則に従って祝福されたのはいつでしたか。

教義や原則を実践する

- 今日感じたことのために何をしようと思いますか。
- 生活の中でこの原則を実践するために，何を変えることができるでしょうか。

生徒が背景と内容を理解できるような質問をする

聖句ブロックの背景と内容を生徒が理解できるように，読んでいることについての情報を探させるような，また見つけたことを分析させるような質問をします。

生徒が情報を探すよう助ける質問

クラスが聖句ブロックの背景と内容を理解できるよう助けるときは，人々，話の筋，文化的背景，その他の詳細に関する情報を探すよう励ます質問をします。これらの質問の答えは，そのまま聖文の文中に，または脚注，聖句ガイド，聖典の地図と写真などの聖典学習補助資料の中に見つけられることがよくあります。これらの資料は，聖句ブロックの具体的な詳細を生徒が理解する助けとなります。例えば，以下のような質問ができます。

- 1ニーファイ3：1－4によると，ラバンのところに行って記録を取り返すようにニーファイに命じたのは誰ですか。
- 1ニーファイ16：10を見てください。リアホナはどのようなものでしたか。
- 聖句ガイドで「使徒」という言葉を調べてみましょう。この言葉はどういう意味でしょうか。（ルカ6：13を生徒が読んだ後でこの質問をしてもよいでしょう。）

『福音を教え学ぶ』の手引きの59－60ページにある5.1.1の項を読んでください。読みながら，情報を探すよう生徒を励ます質問をすることが，どのように聖句ブロックの背景と内容を知る助けとなるのか理解するのに役立つ言葉に印をつけてください。

LDS.orgにあるビデオ“Asking Questions: Searching for Information”（『質問をする—情報を探す』）（1：36）を視聴してく

ださい。このビデオでは，あるセミナリーの教師が，教義と聖約1：1—4の背景と内容に関する大切な情報を生徒が探すような質問を作ります。

実践活動

ルカ5：1—11を研究して，生徒がこれらの節の背景と内容を理解する助けとなる情報を探せるような質問を二つ書いてください。

生徒が情報を探すような典型的な質問は以下の言葉で始まることがよくあります。

- この節によると，誰が～_____？
- この節を見ると，何が～_____？
- この節では，どこで～_____？

学習帳または後で参照できるところに，あなたの作った二つの質問を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

生徒が背景と内容を分析できるような質問

生徒がある部分の基本的な詳細を理解した後で，話の筋や人々，状況の詳細を分析するような質問をしてください。

例えば，ルカ5：1—11を研究するとき，生徒はペテロが夜通し漁をしても何もとれなかったと学びます。生徒がこの部分をさらに深く分析するように，以下のような質問ができるでしょう。

- ペテロが再び漁を始めるのをためらったのはなぜだと思いますか。
- なぜ救い主はペテロにこう命じられたと思いますか。

『福音を教え学ぶ』の手引きの60ページにある5.1.2の項の副題「分析して理解するように生徒を導く質問」の段落を研究してください。生徒に背景と内容を分析させる質問をすることが，生徒の聖文の理解を深め，豊かにするということを理解させてくれた言葉に印をつけてください。

LDS.orgにあるビデオ“Asking Questions: Analyzing Context and Content”（『質問する—背景と内容を分析する』）（1：45）を視聴してください。このビデオの中で，あるセミナリー教師が教義と聖約1：1—4の背景と内容を分析するように生徒を導く質問をしています。

実践活動

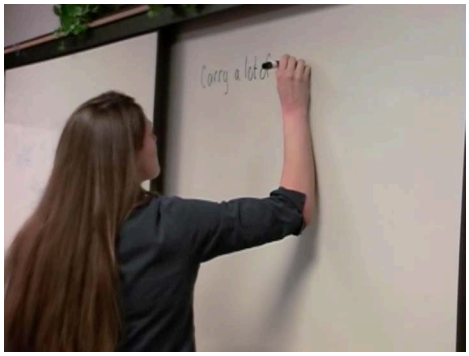
ルカ5：1—11から集めた情報をもとに，生徒が聖文の意味を分析するよう導く二つの質問を書いてください。

背景と内容を分析するよう生徒を導くような質問は，以下のような言葉が含まれることがよくあります。

- ～は，なぜだと思いますか_____？
- ～は，なぜでしょうか_____？
- どのように～ですか_____？

学習帳または後で参照できるところに，あなたの作った二つの質問を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

生徒が教義と原則を見つけられるような質問をする



生徒が教義と原則を見つけられるような質問をするときは，学んだ重要な真理に気づき，はっきりと文章にするよう導きます。

例えば，ニーファイが真鍮の版を取り戻す話を学んだ後で，「ニーファイが大きな困難があっても真鍮の版を取り戻すのに成功した話は，どんな原則を表していますか」と聞きます。これにより，**主がお命じになるなら，わたしは偉大なことを成し遂げることができる**，というように，生徒は教義や原則を見つけて自分の言葉で文にするよう導かれます。

『福音を教え学ぶ』の手引きの60－61ページにある副題「生徒が福音の原則と教義を見つけるのに役立つ」の段落を研究してください。教義と原則を見つけるよう生徒を導く質問をすることの重要性を明らかにしている言葉に印をつけてください。

LDS.orgにあるビデオ“Asking Questions: Identifying Doctrine and Principles”（『質問する—教義と原則を見つける』）（0：42）を視聴してください。このビデオでは，イスラエル軍が戦いで優勢となるように両手を上げるモーセの話が記された出エジプト17章について，あるクラスが話し合っています。ビデオを視聴しながら，物語から原則を見つけるために教師がクラスに尋ねたことを探してください。

実践活動

ルカ5：1－11を研究して，教義や原則を見つけるよう生徒を導く質問を書いてください。

以下は，教義と原則を見つけるよう生徒を導く質問の例です。

- この部分ではどんな原則が示されていますか。
- その話の教訓や要点は何ですか。
- 記録者はわたしたちに何を学ばせようとしたのでしょうか。

学習帳または後で参照できるところに，あなたが作った質問を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

生徒が教義と原則を理解するのに役立つ質問をする

生徒が教義または原則を理解したら，クラスが以下のことを理解できるような質問をしてください。（1）その教義または原則が意味していることは何か（2）その教義や原則は今日ではどのように当てはまるか例えば，生徒たちが**神にはできないことは何もない**（ルカ1：37参照）という原則を見つけた後で，「**できない**という言葉の意味は何だと思いますか」，また「今日この原則を理解する必要があるのはなぜでしょうか」というような質問をすることができます。

『福音を教え学ぶ』の手引きの61ページにある副題「生徒が原則と教義をより深く理解するようになるのに役立つ」の段落を研究してください。教義と原則を理解するよう生徒を導くような質問をすることの重要性を明らかにする言葉に，印をつけてください。

LDS.orgにあるビデオ“Asking Questions: Understanding Doctrine and Principles”（『質問する—教義と原則を理解する』）（0：41）を視聴してください。このビデオでは，インスティテュートの教師が生徒にある原則を紹介し，その原則の理解をさらに深めるような質問をします。

実践活動

ルカ5：1−11を研究して，以下の原則の理解をさらに深めるよう生徒を導く質問を二つ書いてください。**理由を理解していなくても主が求められることを行うなら，主は想像以上の大いなる祝福を与えてくださる。**

教義や原則を理解するよう生徒を導く質問は，以下の言葉を含むことがよくあります。

- ～は，どういう意味だと思いますか_____？
- ～は，なぜだと思いますか_____？
- ～を，どのように説明しますか_____？

学習帳または後で参照できるところに，あなたの作った二つの質問を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

教義と原則が真実であり重要であることを生徒が感じられるような質問をする

経験や証を分かち合うように勧める質問をして，原則が真実で重要であると生徒が個人的に感じるよう助けることができます。また，生徒が自分の生活の中において原則が与えた影響について証すると，他の生徒たちはその原則を取り入れたいと思うようになります。

例えば生徒たちが，**神にできないことはない**（ルカ1：37）という原則に対する理解を深めた後で，次のような質問をします。「あなたや知人が不可能に思っていたことを神が助けてくださったときのことについて思い出してください。その経験は，神の力に対する証をどのように強めましたか。」

『福音を教え学ぶ』の手引きの61－62ページにある5.1.3の項を研究してください。教義と原則が真実で重要であると生徒が感じられるような質問をすることの大切さを明らかにしている言葉に印をつけてください。

LDS.orgにあるビデオ“Asking Questions: Inviting Feelings and Testimony”（『質問する—気持ちと証を分かち合うよう招く』）（0：48）を視聴してください。このビデオでは，アルマ7章の原則についてクラスが話し合っています。原則が真実で重要であると生徒が感じられるように，教師がどのような質問をしているかに注意してください。

実践活動

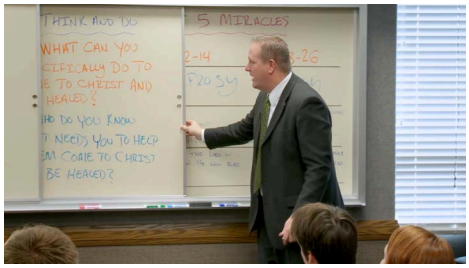
ルカ5：1－11を研究して，以下の原則が真実で重要であると生徒が感じられるよう導く二つの質問を書いてください。**理由を理解していなくても主が求められることを行うなら，主は想像以上の大いなる祝福を与えてくださる。**

教義と原則が真実で重要であると感じるよう生徒を助ける質問には，よく以下のような言葉が含まれています。

- ～を見たのはいつですか_____？
- ～と感じたのはいつですか_____？
- ～が分かるのはどうしてですか_____？
- ～のおかげで，あなたの生活はどう変わりましたか_____？

学習帳または後で参照できるところに，あなたの作った二つの質問を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

教義と原則を応用するよう生徒を促す質問をする



生徒が原則の真実性を理解し重要だと感じていても，生活に応用するという選択しなければなりません。教師としての役割は，現在や将来の状況に福音の原則をどう応用するか，生徒が深く考えるような質問をすることです。例えば，**神には何もできないことはない**（ルカ1：37）という原則についてクラスで話し合った後，「不可能だと思えるような状況に直面したとき，どのように神を信頼するでしょうか」と聞くことができます。

生徒の答えは個人的または配慮が必要なものかも知れないので，このような質問の答えはクラスで分かち合ってもらうのではなく，学習帳に記録してもらうほうが良いかもしれません。

『福音を教え学ぶ』の手引きの62ページにある5.1.4の項を研究してください。日々の生活で教義と原則を生活に応用するよう生徒を励ますような質問をすることの大切さを明らかにしている言葉に印をつけてください。

LDS.orgにあるビデオ"Asking Questions: Encouraging Application"（『質問する—応用するよう励ます』）（0：50）を視聴してください。このビデオでは，あるクラスがルカ5：12—26の原則について話し合っています。原則をどのように生活に応用するか深く考えるように生徒を助けるため，教師がどのような質問をするかに注意してください。

実践活動

ルカ5：1—11を研究して，次の原則をどのように生活に応用するか生徒に深く考えてもらうような質問を作ってください。**理由を理解していなくても主が求められることを行うなら，主は想像以上の大いなる祝福を与えてくださる。**

教義や原則を理解するよう生徒を導く質問は，よく以下のような言葉を含んでいます。

- さらによく～には何を変えればいいと思いますか_____？
- ～を踏まえて何をしようと思いますか_____？
- これからどのように～しますか_____？

学習帳または後で参照できるところに，あなたが作った質問を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

教師用手引きの質問を使う

効果的な質問の例の良い資料の一つに，教師用手引きがあります。それぞれの課には，レッスンで使うか検討すべき質問が提案されています。教師用手引きの多くの質問は，生徒が学習パターンの要素を実行できるようになっています。

質問を作る技術を改善するよう努めるにあたり，よく考えられた質問の特質をさらに理解するために，教師用手引きの質問を見てみると参考になるでしょう。

まとめと応用

覚えておくべき原則

- 質問し，質問に答えることは，全ての学習と教授の核心です。
- 効果的な質問をすることは，教師として身につけられる最も大切な技術の一つです。
- よく考えられた質問を使うと，あなたも生徒も具体的で，意図された結果を出すことができます。
- よく考えられた良い質問を作れるようになるには，時間，努力，練習が必要です。

「考えさせるような，慎重に作られた質問をしてください。答えが完全ではなくても，大切な教訓が学べる可能性が高まるでしょう。」（“To Understand and Live Truth”〔リチャード・G・スコット長老との夕べ，2005年2月4日〕，3，si.lds.org）

「それゆえ，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験13

教える方法を決める：信仰を働かせる

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています。

- 神の言葉の力を信頼する
- 主と御霊を信じる
- 生徒を信頼する

重要な概念

3つの中心となる信条

宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的の「教える」の段落には以下のようにあります。「わたしたちは生徒に，聖典と預言者の言葉に見いだされるままの福音の教義と原則を教えます。これらの教義と原則を，彼らが理解し，教化されるような方法で教えます。わたしたちは，生徒が学習の過程における自らの役割を果たすよう助けます。また，福音を他の人々に教える備えができるよう彼らを助けます。」（『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』x）

この段落から，効果的な教師の行動は3つの大切な信条を表していることが分かります。

1. 御言葉の力を信頼できる。
2. 主と御霊に対する信仰を働かせることができる。
3. 生徒を信頼することができる。

この学習経験では，これら3つの要素に対する理解と信仰を深めるように作られた重要な概念を研究します。

三脚のいすのそれぞれの脚のように，3つの中心となる信条は各々不可欠なものです。教え方がこれら3つの中心となる信条と調和のとれたものであるとき，教師はさらに成功を経験することでしょう。

しかし，教師の教え方が心に信じていることと調和していないことがあります。一本の脚が壊れた，または脚の一本がない三脚のいすがうまくバランスを取ることができないように，教師が良い働きできないときは以下の要素の一つが欠けていることが多いと『福音を教え学ぶ』の手引きは提言しています。

1. 御言葉の力を信頼する
2. 主と御霊を信じる
3. 生徒を信頼する

LDS.orgにあるビデオ“Three Core Beliefs”（『3つの中心となる信条』）（1：47）を視聴してください。このビデオでは，宗教教育セミナリー・インスティテュート教育長チャド・ウェッブが，自分の教え方が，中心となる信条と調和していないと感じた時のことについて話しています。この経験から彼が解決したことは何かに注意してください。

御言葉の力を信頼する

『福音を教え学ぶ』の手引きの4.1.3の項の副題「御言葉の力を信頼する」の二つの段落を読んでください（47－48ページ）。それから，次の聖句を読んでください。

- 2テモテ3：15－17
- 2ニーファイ25：23，26
- アルマ31：5
- ヒラマン3：29－30

手引きと聖句を読みながら以下のことをしてください。

- 聖典があなたや生徒の生活にもたらす祝福を示している言葉を探してください。

- 聖典があなたや他の人々の生活を祝福した経験について深く考えてください。自分の考えや感想を記録するとよいでしょう。

教師と生徒が御言葉の力を信頼しているクラスでは，聖典が教え学ぶ中心的役割を果たします。LDS.orgにあるビデオ“Scripture-Centered Teaching”（『聖典を中心とした教え方』）（3：20）を視聴してください。このビデオでは，ウェッブ兄弟がそのようなクラスがどのようなもので，なぜそれが大切なのか説明しています。視聴しながら，以下の質問を心に留めてください。

- 聖典が教え学ぶことの中心となっているクラスでは何が起こるでしょうか。
- 教師にとって，聖典をクラスでの生徒の経験の中心にすることはなぜ大切なのでしょうか。

学習帳または後で参照できるところに，これらの質問に対する自分の答えを記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

主と御霊を信じる

『福音を教え学ぶ』の手引きの4.1.3の項の副題「主と御霊を信じる」の二つの段落を読んでください（48ページ）。読みながら，主と御霊を信じることが，どのように生徒の生活に違いを生み出すのか探してください。

次に，LDS.orgにある“The Lord Knows Every Need”（『主は全ての必要を御存じである』）（0：45）を視聴してください。このビデオは，主と御霊を信じることがあなたと生徒をどのように祝福するかについての理解を深めるでしょう。視聴しながら，以下の質問を心に留めてください。

- 教師として，主と御霊を信じていることを表す方法にはどんなものがあるでしょうか。
- あなたが主と御霊を信頼することは，生徒にとってどのように祝福となるでしょうか。

学習帳または後で参照できるところに，これらの質問に対する自分の答えを記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

生徒を信頼する

『福音を教え学ぶ』の手引きの4.1.3の項の副題「生徒を信頼する」の最初の4段落を読んでください（48ページ）。読みながら，生徒の福音の教義や原則を学び，教え，応用する力を信頼できる理由を示している言葉を探してください。

LDS.orgにあるビデオ“Expecting More from Your Students”（『生徒にもっと期待する』）（2：21）を視聴してください。このビデオは，ある教師の期待と信頼によって生徒が「御霊が湧き上がってくるのを感じ」（ボニー・L・オスカーソン，「大いなる期待」〔セミナリー・インスティテュート衛星放送，2014年8月5日〕lds.org/broadcasts，真の改心へと導かれた様子を表しています。視聴しながら，以下の質問を心に留めてください。

- 生徒の福音を学び，教え，それに従って生活する力を教師が信頼しているクラスは，生徒に対する期待や信頼が低い教師のクラスとどのように違うでしょうか。

学習帳または後で参照できるところに自分の見識や印象を記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

まとめと応用

覚えておくべき原則

効果的に教えるために，教え方は以下の3つの中心となる信条と調和していなければなりません。

1. 神の御言葉の力を信頼できる。
2. 主と御霊に対する信仰を働かせることができる。
3. 生徒を信頼することができる。

時折，クラスでの自分の教え方や行動はこれらの信条を反映しているだろうかと自分に問いかけてみると役立つでしょう。

「皆さん自身のために，また生徒のためにお願いします。生徒は〔モルモン書を〕読みたいと思うだろうという信仰を持ってください。生徒を聖文に駆り立てるには及びません。信仰が生徒を聖文に引き寄せるでしょう。」（ヘンリー・B・アイリング，“The Book of Mormon Will Change Your Life”〔モルモン書に関するCESシンポジウム，1990年8月17日〕，2，si.lds.org）

「それゆえ，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

学習経験 14

マスター教義の紹介

概要

この学習経験は以下の概念を取り上げています：

- マスター教義の原則と望まれる成果について理解する
- 「マスター教義」について霊的な知識を得るために神の原則を学び，応用する
- イエス・キリストの福音の教義に精通する
- クラスルームで「マスター教義」を実施する

注—この学習経験を通して「マスター教義」の原則と実践方法について概要を把握します。より詳しく見るには，『**マスター教義に関する基本文書**』，「マスター教義の概要」配布資料，およびdoctrinalmastery.lds.orgを参照してください。

重要な概念

なぜ「マスター教義」でしょうか

宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師として，わたしたちは生徒がイエス・キリストの教義を理解し，信じ，その教義に従って生活するよう助けることにより，彼らがイエス・キリストを基とした土台を築けるように生徒を助けます（ヒラマン5：12参照）。しかしながら，今日，教師も生徒と同様にイエス・キリストに対する信仰を築くうえで大きな困難に直面しています。皆さんや生徒が人生の中で直面するこうした困難の例を幾つか考えてください。十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は生徒や教師が直面する困難な状況の幾つかを次のように説明しています。

「生徒が教会を攻撃する人々から守られていた時代は終わりました。 ……

…… 皆さんの生徒が全員，前途に待ち受ける困難に立ち向かうために必要な信仰を持っているわけではありません。 ……

生徒が教会についてあらゆる視点からの実質上あらゆる情報を即座に入手できる〔時代にわたしたちは生活しています〕。今日の生徒は，モバイル機器で，信仰を鼓舞するものだけでなく，信仰に疑問を抱かせるようなものも目にします。 ……

このようなチャレンジを踏まえて，教育管理会は，最近，セミナリーで『マスター教義』と呼ばれる取り組みを承認しました。この新しい取り組みは，イエス・キリストを信じる生徒の信仰を築き，強めること，また生活の中で福音を実践し応用する彼らの能力を増し加えることによって，彼らを強化することに焦点を当てます。 ……

この取り組みは，霊感に基づく，時宜にかなったものです。これは皆さんの生徒にすばらしい影響を与えるでしょう」（M・ ラッセル・バラード 「21世紀において

CES教師に与えられている機会と責任」教会教育システム宗教教育者向けの説教，2016年2月 26日）

マスター教義とは何でしょうか

「マスター教義」の取り組みをより良く理解できるように，ビデオ「マスター教義とは何でしょうか」（3：53）を視聴してください。ビデオはLDS.orgで入手できます。視聴する際，以下の質問を心に留めてください：

- なぜ「マスター教義」は霊感に基づく，時宜にかなった，今日の青少年のために与えられたものでしょうか。
- 「マスター教義」から得られる望まれる成果は何でしょうか。

「マスター教義」から得られる望まれる成果

マスター教義は，二つの成果に焦点を当てています：

- 霊的な知識を得るために神の原則を学び，応用する
- イエス・キリストの福音の教義とその教義を教えている聖句に精通する

この二つの成果は補完的なものであり，生徒がイエス・キリストとその教義を基とした土台を築くうえで助けとなります。生徒がこれらの成果を達成すると，彼らは改心を深め，ほかの人々が同じように行えるよう助けることができます。

この学習経験の中で，わたしたちは「マスター教義」の各成果をより詳細に調べ，それがクラスルームにおいてどのように実施されるのかを理解し，また，生徒がどうすればイエス・キリストとその教義を通してもっと完全に祝福を受けることができるかをさらに良く理解します。

霊的な知識を得る

一番目の成果は生徒が霊的な知識を得るために神の原則を学び，応用するのを助けることです。神はすべてのことを御存じであり，あらゆる真理の源です。神はわたしたちを愛しておられるので，わたしたちが神の教義を知り，理解するために努力するとき，また，わたしたちが抱く疑問や懸念に対する答えを求めるとき，神はわたしたちが真理を見つけることができるように助けたいと願っておられます。

このセクションに取り組む際，生徒が抱くかもしれない疑問や懸念の幾つかを考えてみてください。例えば—「なぜ世の中にはそれほど多くの苦難があるのか」「ジョセフ・スミスは多妻結婚をしたのか」，あるいは「神はわたしを愛してくださっているのだろうか」。

以下の霊的な知識を得るための3つの原則は，教師にとっても生徒と同様に，彼らが永遠の真理を学び，理解できるように求め，疑問や懸念を解決し，日常生活において決断をする際に，指針となります：

- 信仰をもって行動する
- 永遠の視点から概念や疑問について調べる
- 神が定められた情報源を通してさらに理解を深める

これらの各原則について以下のセクションの中で，さらに詳しく説明と描写がなされています。

信仰をもって行動する

信仰をもって行動するとき，わたしたちは神を信頼し，心からの祈りと学習および従順を通して，まず神に助けを求めます。わたしたちは真実であるとすでに知っていることに頼り，引き続き答えを求めます。わたしたちは抱えている疑問や懸念について主の時に答えが与えられ，解決できることを信じています。

ビデオ「信仰をもって行動する—石工」（4：58）を視聴します。このビデオはLDS.orgから視聴できます。このビデオを視聴する際，信仰を

もって行動し続けることにより，抱えている疑問や懸念がやがてどのように解決できるのかを見つけてください。

永遠の視点から概念や疑問について調べる
疑問や懸念，社会問題，および歴史的な出来事を救いの計画と救い主の教えに照らして調べることにより，わたしたちは主と同じような視点から物事を見ることができるように助けてくださる聖霊を招くのです。福音の重要な点に焦点を当てて，あまり重要でない細かなことで気が散らないようにします。

ビデオ「永遠の視点から疑問について調べる」（2：56）を視聴します。このビデオはLDS.orgで視聴することができます。このビデオを視聴する際，世の中の前提や推論を受け入れるのではなく，主の真理の標準に基づいて，疑問や懸念をどのように見直す（あるい視点を変えて見る）ことができるか，また，概念を捉えることができるかを見つけてください。視聴する際，以下の質問を心に留めてください：

- 天の御父の救いの計画と御父の教義を理解すると，生徒が永遠の視点から自分の疑問や懸念をより良く捉えるうえでどのような助けとなるでしょうか。

これらの質問に対する自分の答えを学習帳または後で参照できるところに記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

神が定められた情報源を通してさらに理解を深める
神が定められた情報源を通してさらに理解を深める際，聖霊，聖文，預言者，両親，教会の指導者およびそのほかの信頼できる情報源を通して，わたしたちは霊的な知識を得ます。これらの情報源から学ぶ際，わたしたちは真理と誤りを認識し識別することを学びます。

皆さんと生徒が知識を深めるために活用できる神が定められた情報源，例えば，聖文や総大会の説教について考えてみてください。また，活用できるそのほかの信頼できる情報源についても考えてみてください。例えば，「福音のテーマ，論文，そのほかのリソース」ページがあります。それはLDS.orgの中にあります。

『マスター教義に関する基本文書』活動

「霊的な知識を得る」セクション（『**マスター教義に関する基本文書**』の中にあります）を研究し，霊的知識を得るための原則を復習しさらに精通してください。このセクションの中で概説されている霊的な知識を得るための3つの原則を復習し，霊的な知識を得るうえで重要なそのほかの要素に下線を引いてください。

教義に精通する

「マスター教義」の二番目の成果はイエス・キリストの福音の教義に精通することです。教義に精通することにより，生徒は真理を探求する際に霊的な知識を得るための原則を使いこなせるようになります。

以下は教義に精通するうえで重要な3つの要素です：

- 教義のテーマおよび教義の鍵となる文を理解する
- マスター教義聖句を知る
- 教義を説明し応用する

教義のテーマおよび教義の鍵となる文を理解する
霊的な知識を得るための原則に加えて，生徒は9つの教義のテーマを学習します。それぞれの教義のテーマには，生徒が理解し，信じ，応用することが大切な教義の説明が含まれています。『**マスター教義に関する基本文書**』にあるこれらの教義の説明の幾つかは，教義の鍵となる文と呼ばれます。これらの教義の鍵となる文には，それに関連したマスター教義聖句があり，その教義の持つ側面を教えるのに役立ちます。

マスター教義聖句を知る
各学習コースには25のマスター教義聖句（合計で100の聖句）があります。これらの聖句は各教義のテーマと関連した教義の鍵となる文の様々な側面を教えるのに役立ちます。例えば，次の教義の鍵となる文は教義のテーマとなるマスター教義聖句と関連しています。「イエス・キリストの贖罪」—「イエス・キリストの犠牲はわたしたち一人一人に益をもたらします。また，天の御父のすべ

ての子供たちに無限の価値があることを示しています。（教義と聖約18：10－11参照）」（『**マスター教義に関する基本文書**』〔2016〕，6）生徒にこれらの聖句を覚え，聖句の場所を見つけ，聖句が救い主の教義を教えるうえでどのような助けとなるかを理解できるように助けることは，教師としての皆さんの重要な業の一部です。

教義を説明し応用する

イエス・キリストの福音の教義に精通することの重要な点は，各教義の鍵となる文を明確に説明できるようになり，また，マスター教義聖句がそれらの鍵となる文を教えるうえでいかに助けになるかを理解できるようになることです。生徒が教義を理解し，マスター教義聖句とそれに関連する教義の鍵となる文の場所を見つけ，覚えることができると，教義をより良く応用し，ほかの人々にうまく説明できるようになります。十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長（1924－2015）が教えたように，「まことの教えを理解すれば，人の態度や行動は変わります」（「幼き子ら」『**聖徒の道**』1987年1月号，18）。

『マスター教義に関する基本文書』活動

『**マスター教義に関する基本文書**』の9つの教義のテーマにさっと目を通し，それらのテーマがどのように構成されているかを見ます。教義のテーマ 3，にある「イエス・キリストの贖罪」の最初の段落を研究し，マスター教義聖句が教義のテーマにどのように溶け込み，それらの直前にある教義の鍵となる文を教えるうえでどのように助けとなるかを探します。生徒がイエス・キリストを基とした土台を築き，「神はわたしを愛しておられるのだろうか」といった自分の疑問や懸念に対して答えを見つけ始めるために，この教義はどのような助けとなるかを考えます。

クラスルームでの「マスター教義」

皆さんは「マスター教義」の成果とその成果が生徒にとってイエス・キリストを基とした土台を築くうえでいかに助けになるかを理解したので，これからそれをクラスルームでどのように活用し教えるかを調べます。

「マスター教義」のカリキュラムは，教師と生徒が霊的な知識を得ることと9つの教義のテームに関連する原則を学び，応用するのに役立ちます。このカリキュラムの重要な要素として次の要素が含まれます：

- **教義を理解する—**一連の学習活動またはセグメントから構成されており，生徒が各教義のテーマ，関連する教義の鍵となる文，および関連するマスター教義聖句の理解を深めるのに役立ちます。
- **実践練習—**ケーススタディ，ロールプレイ，シナリオ，および質問から構成されている練習メニューで，生徒が霊的な知識を得るための原則や教義を現代の状況や関連する疑問に応用するうえで役立ちます。
- **「マスター教義」の復習—**生徒が教義の鍵となる文と関連するマスター教義聖句の場所を見つけ，覚え，精通するうえで役立つ活動です。

「『マスター教義』教師用資料」活動

クラスルームで「マスター教義」をどのように教えるか理解するために，「マスター教義」教師用資料を開き，「イエス・キリストの贖罪」のタイトル名のレッスンを見てください。このレッスンの中で，次のクラスルーム練習：（1）教義を理解する，（2）実践練習，（3）マスター教義の復習，を調べます。教義を理解する練習では，教義の鍵となる文は太字で記され，生徒がその教義に精通しやすくなるように，マスター教義聖句と関連づけられていることに留意してください。実践練習では，生徒自身の，または，ほかの人々の人生における疑問や懸念について説明し，教義を応用するように招かれていることに留意してください。生徒が実践練習に参加する際，霊的な知識を得るための原則を活用することが重要です。最後に，マスター教義の復習は生徒が教義の鍵となる文と，それに関連するマスター教義聖句の場所を見つけ，覚え，精通するために役立つよう意図されていることに留意してください。

「『マスター教義』教師用資料」活動

クラスルームで「マスター教義」をどのように教えることができるのか，自分自身で経験するために，「マスター教義」教師用資料を開き，「イエス・キリストの贖罪」のタイトル名のレッスンを見てください。実践練習に取り組みます。生徒がクラスの時間に，何を行い，何を感じ，さらに霊的な知識を得るための原則と教義に精通する要素について学んだことを，彼らがどのように活用するのか想像してみてください。次の質問について考えてください：

- マスター教義は生徒がイエス・キリストに対する信仰を強め，キリストの教義に対する理解を深めるうえでどのように役立つでしょうか。
- マスター教義は生徒の疑問や懸念（この事例では，「神はわたしを愛しておられるだろうか」）に，どのようにもっと向き合うことができるでしょうか。

これらの質問に対する自分の答えを学習帳または後で参照できるところに記録し，訓練指導者やグループと分かち合ってください。

皆さんの生徒はマスター教義の原則と実践を生涯を通じて取り入れることで，祝福を受けるでしょう。

ビデオ「霊的な知識を得る—マディソンの経験」（8：36）を視聴します。ビデオはLDS.orgから視聴できます。このビデオの中で，若い女性であるマディソンが自分の疑問に対する答えを受けるため，また，ほかの人々を教え，彼らが真理を知ることができるよう助けるために，霊的な知識を得るための原則を活用します。視聴する際，以下の質問を心に留めてください：

- 「マスター教義」は生徒がイエス・キリストとキリストの教義を基とした土台を築くうえでどのように役立つでしょうか。
- 霊的な知識を得るための原則は生徒が真理を学び，自分の疑問に対する答えを見つけるよう導くうえでどのように役立つでしょうか。
- ほかの人々が霊的な知識を得られるように生徒が手伝うときに，マスター教義の原則はどのような助けとなるでしょうか。

「マスター教義」の追加検討項目

以下の項目を検討することは，クラスルームにおいて「マスター教義」を最大限に活用するうえで役立ちます。あなたが責任を果たすうえで，また生徒のた

めに，最も良く「マスター教義」を実施する方法を決めるために，主の助けと地元のコーディネーターの導きを求めてください。

- 本手引きの付録として提供されている「マスター教義の概要」配布資料を活用して，「マスター教義」の各構成要素を覚え，それぞれの要素がどのように補完し合っているのかを復習し覚えてください。
- 「マスター教義」と配列順聖文教授法は別々の異なったものですが，どちらもセミナリーの生徒が経験する重要な要素です。両方をうまく教えるためには，推奨学習進度ガイドを活用し，地元の必要とバランスを取り，入念にレッスンの準備をする必要があります。
- しかしながら，「マスター教義」の概念と原則はクラスの中で疑問や懸念が出てきた際，年間を通じて配列順聖文レッスンやそのほかのレッスンで依然として応用することができます。配列順に聖文を研究する際に目にするマスター教義聖句を強調することにより，生徒が各聖句の文脈と内容をより深く理解するのを助けるとともに，各聖句が教える真理の重要性を増大させる助けになります。
- 「マスター教義」は「マスター聖句」プログラムに基づいており，それに取って代わるものです。以前に出版された「マスター聖句」の内容は，マスター教義活動とマスター教義聖句に取って代わる必要があります。
- さらに詳しい情報と説明を得るには，doctrinalmastery.lds.orgにアクセスしてください。

まとめと応用

覚えておくべき原則

- 「マスター教義」は生徒が進歩し困難な問題に直面する際に，生徒にとって祝福となるよう霊感を受けた取り組みです。
- 「マスター教義」は次の二つの成果に焦点を当てます：（1）霊的な知識を得るための神の原則を学び応用すること，（2）イエス・キリストの福音の教義とその教義を教えている聖句に精通すること。
- 生徒が「マスター教義」の成果を達成できるよう助けることは，彼らがキリストの教義を理解し，信じ，その教義に従って生活するようになる際，イエス・キリストに基づいた土台を築くうえで助けとなります。

「『マスター教義』は3つの目的を持ったセミナリーのプログラムです：1つ目は，生徒が霊的な知識を得る方法を学べるよう助けること；2つ目は，生徒が救い主の教義を知り理解できるよう助けること—つまり，それは真の教義を思いの中で知り，真の教義を心の中で理解するという両方の意味を持っており，わたしたちはそれを彼らの心の奥底に深く刻みたいのです；3つ目は，生徒が生活の中で教義を応用する方法を学べるように助けること，すなわち，生徒自身がそれに従って生活するだけでなく，友達が抱いている疑問に答えるために活用したり，あるいは，ほかの人々が真理を知ることができるように教えたり，助けたりすることなどです」（キム・B・クラーク「マスター教義と深い学習」（教会教育システム宗教教育者に向けた説教，2017年2月 17日）。

「それで，どうしますか？」

この学習経験を完了するために，今日学んだ原則に基づいて行おうと思うことを幾つか書き留めてください。

教師会レッスン

教師会レッスンの紹介

宗教教育セミナリー・インスティテュートは，現職の指導者が新たに召されたセミナリーおよびインスティテュートの教師を訓練する際に使うことのできる5つの90分レッスンシリーズを作成しました。これらのレッスンは，現職の指導者が新任の教師に，14回の家庭での学習経験で学んでいる重要な概念や原則を実践する機会を提供します。可能であれば，現職の指導者は新年度が始まる前に，この5つの現職教師向けのレッスンを新任教師に教えてください。

教師会レッスンの前に

新たに召された教師は，14回の家庭での学習経験を修了してください。家庭での学習経験は，『**福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き**』で扱っている重要な情報に対する理解をさらに深めるのに役立ちます。また，現職の指導者もこの家庭での学習経験を修了し，この教材に精通しておいてください。

14回の家庭での学習経験で用いられている「共有」アイコンは，教師が自分の考えや感想を書き留め，現職の指導者と分かち合う準備をするために費やす時間を示しています。現職の指導者はそれらの書き留められた考えや感想を教師から回収し，教師が家庭での学習経験で学習した情報をどれほど理解しているかを評価するために用いるとよいでしょう。また，現職の指導者は，教師の必要を満たせるよう，よく祈りながら教師会レッスンを準備します。現職の指導者は，次の教師会レッスンで提案されている実践活動を用いても，自分で活動を作っても構いません。

注—この教師会レッスンで参照するビデオは，すべての言語では提供されていません。ビデオがあなたの言語で提供されていない場合は，教えようとしている原則について説明している別のビデオ資料を選ぶか，同じ目的を達成する別の活動を考えることができます。

教師会レッスン中

この教師会レッスンの第一の目的は，教師が家庭での学習経験で学んだスキルを実践し，強化するのに役立つ活動を現職の指導者が行えるようにすることです。必要に応じて，現職の指導者は家庭での学習経験で教えられた情報を復習し，教師が内容を理解していることを確認するとよいでしょう。しかし教師会レッスンの大半は，実践活動に費やすべきです。

代表的なスケジュール

以下は，90分間の教師会レッスンのスケジュールの提案です。必要に応じて，クラスの必要と状況に合わせて修正を加えてください。

導入（10 分）

- 短いディボーショナルと祈りで開会する。
- 教師がお互いを知り合えるように助ける。
- 前回の教師会レッスンで課題が出ている場合は，そのフォローアップをする。

練習（70 分）

- 復習に使う家庭での学習体験の「覚えておくべき原則」の項のコピーを配付する。それらの原則や，教師が家庭での学習経験を行ったときに書き留めた経験や気づいたことについて話し合う。質問に答え，説明する。必要に応じて，教師が完全に理解していない内容について再度教える，または強化する。
- 家庭での学習経験で学んだスキルや原則を強化するために，話し合いと実践活動を行う。教えているレッスンで提案されている実践活動から選んでも，自分で活動を考えても構いません。

まとめ（10 分）

- 一年を通してクラスを準備し教えるときに，学んだことをどのように取り入れることができるか教師に考えてもらう。
- 次回の教師会レッスンまでに，行うよう期待されていることや課題を確認する。教師が課題に必要な資料をすべて持っており，課題に対する不安がないことを確認する。
- 祈りで閉会する。

教師会レッスン1

わたしたちの目的

教師会活動の提案

このレッスンには，教師が家庭での学習経験1－4で学んだ原則を実践できる活動のリストが含まれています。必要に応じて，クラスの教師の必要に合った実践活動を自分で作ることもできます。

学習経験1—救い主の方法で生活し，教える

実践活動1—キリストのような特質を伸ばす

目的—キリストの特質を自分がどの程度伸ばしているかを教師が評価できるよう助け，さらに救い主のように生活し，教えるために積極的に努力するよう励ます。

活動—『わたしの福音を宣べ伝えなさい—伝道活動のガイド』126ページの「特質を伸ばすための活動」のコピーを教師に配ります。数分間で活動を行ってもらいます。終わったら，学んだことや感じたことについて短く話し合います。自分たちが生活の中や教えるときに救い主のようになろうと努めれば努めるほど，生徒の生活にさらに影響を与えることができるようになることを証します。

実践活動2—救い主の模範に倣う

目的—教師が，状況をよく見て，救い主の模範に従って適切に対処できるようになれるよう助ける。

活動—家庭での学習経験1の『福音を教え学ぶ』の手引きを使った活動で見つけた，行動を表す語句を発表するよう教師に言います。以下の教室での設定状況の一つか，自分が設定した状況のロールプレーを行い，手引きの中で救い主がそれぞれの状況に対して，どのような解決策の模範を示されているか見つけてもらいます。クラス全体で，あるいはパートナーと，この設定状況に対処する練習をします。

- ある生徒がクラスに聖典を持ってこない，またはレッスン中に聖典を開こうとしない。
- ある生徒は毎日クラスに出席しているが，クラスの活動にまったく参加していない。
- 生徒の半数は日々の読書目標を達成していない。

学習経験2—宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的

実践活動3—宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的を教え，伝える

目的—教師が生徒に宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的の重要性を教える練習をする機会を与える。

活動—教師会クラスの教師たちと，宗教教育セミナリー・インスティテュートの重要性を復習します（『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』1—2の1.1の項を参照）。この目的を理解することが生徒にとってなぜ重要か，また生徒が理解できるよう教師はどのように助けられるかを話し合います。目的の重要性を生徒に教えることのできる会話や状況についてロールプレーをしてもらいます。あるいは，両親や神権指導者と，この目的について話す場面のロールプレーをしてもよいでしょう。

実践活動4—セミナリーやインスティテュートに参加するように未登録の生徒を誘う

目的—教師が，セミナリーやインスティテュートに新たに参加する生徒を見つけ，登録するうえで果たす役割を理解できるよう助ける。

活動—担当地域に住む参加見込み生徒のリストを教師会クラスに持ってくるよう教師に言います。クラス全員で，宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的の「管理運営する」の段落（『福音を教え学ぶ』x参照）と，手引き『福音を教え学ぶ』（8ページ）の1.4.3項に載っている原則と業務について研究し，話し合います。参加見込み生徒のリストを読み返し，登録する可能性のある生徒を見つけるよう教師に言います。二人一組に分かれて，次の会話のロールプレーを行ってもらいます。

- 参加見込み生徒について，また未登録生徒に参加するよう招くためにどのように協力するかについて，ビショップと話し合う。
- リストに載っている生徒と話し，クラスに参加するよう招く。
- 生徒の親と，生徒の必要について，また生徒がセミナリーやインスティテュートの祝福を受けられるようどのように協力できるかについて話し合う。

学習経験3—御霊によって教え，学ぶ

実践活動5—証の重要性

目的—教師の証が，どのように教室と生徒の心に御霊を招くかを示す。

活動—手引き『福音を教え学ぶ』の2.6.3項（「証する」，33ページ）を研究するよう教師に言います。それから，LDS.orgにあるビデオ"A Man without Eloquence"（「雄弁でなくとも」）（6：06）を見せます。心からの証が人の心にもたらす影響を探してもらいます。（このビデオは全ての言語で利用できるわけではありません。）

教師が2.6.3項を読み，ビデオを見終えたら，自分が担当クラスで福音の原則について証を述べている状況を思い描くように言います。何を言うか書き出してもらいます。それから，教師と生徒の双方が簡単な証を述べ，教室に御霊を招くことの大切さについて話し合ってもらいます。

実践活動6—御霊により教える—行うべきことと行ってはならないこと

目的—教師が御霊により教える助けとなる実践的な提案を教師に与える。

活動—十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926－2004年）は，福音を教え学ぶ際に御霊を招くことに関して，行うべきことと行ってはならないことを一覧にしました。本手引きの付録にある「御霊により教える—行うべきことと行ってはならないこと」のコピーを教師に配付し，数分間よく読んでもらいます。マックスウェル長老の提案のうち，教える際に特に気をつけようと思うこと一つか二つに印をつけるか，書き留めるように言います。何人かの教師に意見や感じたことを発表してもらいます。

実践活動7—御霊を招くためにディボーショナルを用いる

目的—クラスに御霊を招くために効果的なディボーショナルを行うにはどうすればよいか，生徒に教えることの大切さを教師が理解できるように助ける。

活動—家庭での学習経験3で，御霊を教室に招くために教師と生徒ができる事柄を見つけたことを思い出してもらいます。手引き『福音を教え学ぶ』の「ディボーショナルを効果的に行って御霊を招く」の項（16－17ページ）を見返してもらいます。生徒がクラスディボーショナルの目的と，効果的に行うために準備する方法について理解する助けとなるようなレッスンの概要を準備してもらいます。教師の意見やアイデアについて話し合い，必要に応じてフィードバックを行います。レッスンの一部をクラスの前で行う練習をしてもらいます。

学習経験4—愛と敬意と目的意識のある学習環境を作る

実践活動8—あなたが生徒についてすでに知っていることは何ですか。

目的—生徒をよく知ることにより，愛と敬意と目的意識のある学習環境を作ることの大切さを教師が理解できるよう助ける。この活動は，生徒について知るための取り組みを始めるきっかけを教師に与えるものです。生徒の名前や関心事，問題，能力などを知ることが含まれます。

活動—今年度に教える予定の生徒の名前のリストを教師会レッスンに持って来るよう教師に言います。一人ずつ名前を確認し，それぞれの生徒について知っていることを書いてもらいます。生徒の関心事や問題，才能などについて書きます。小さなグループになり，生徒をよりよく知るために，開講前と開講後にできることについて話し合ってもらいます。

実践活動9—設定状況とロールプレー

目的—教室に目的意識をもたらす練習の機会を教師に与える。

活動—教室に目的意識をもたらす方法についてのリストを教師とともに復習します。リストは『福音を教え学ぶ』の2.2.2項にあります。次の設定状況のロールプレーを行って，これらの方法を練習するよう教師に言います。

- **学習者としての責任を果たすよう生徒に期待する。**教師会参加者に，セミナリーやインスティテュートのクラスの参加者を演じてもらいます。その日のレッスン内容は，アルマ32章です。レッスンが始まってすぐに教師役の人が，数人の生徒が聖典を持っておらず，早くも興味のないサインを示し始めていることに気づきます。割り当てを受けた教師に，生徒が学習者としての責任を果たせるよう，励ましを与えるためにできることを行ってもらいます。練習の後でグループごとに，教師が生徒全員に学習に参加するよう期待

することにより，どのようなメッセージをクラスに送っていたかを話し合います。うまくできたことと，別の方法で行えることについて話し合います。このフィードバックに基づき，この設定状況の練習をもう一度行ってもらいます。

- **聖文と福音について，誠実で，熱心で，精力的である**。二人の教師に，セミナリーやインスティテュートを開講するようすを演じてもらいます。一人の教師には，熱意と信仰，目的意識をもって行ってもらい，もう一人には，活気も情熱も目的意識もなく行ってもらいます。生徒がそれぞれの教師の話し方からどのような影響を受けるか教師会参加者と話し合います。
- **時間を無駄にしない**。この設定状況には二人の教師，教師Aと教師Bが必要です。二人の教師は，同じ教会堂の同じ時間にクラスを教えていると説明します。教師Aは常に授業を10分遅く開始し，10分早く終わります。教師Bは授業時間が大切で1分たりとも無駄にできないと感じているため，時間通りに始め，時間通りに終わります。ある朝，授業を終えた教師Aが教師Bの部屋にやってきました。教師Aは困っているようすで，生徒が学んでいることの大切さを感じていないようだと打ち明け，教師Bに助言を求めてきました。

  教師Bに，生徒の目的意識を高めるために授業を時間通りに始め，終わることの重要性について，教師Aに話してもらいます。話し合いが終わったら，時間を無駄にすることがクラスの目的意識を損なうことを教師Aが理解できるようにするための他の意見を発表するよう，教師会参加者に言います。
- **クラスの手順を定めておく**。教師会参加者とともに『福音を教え学ぶ』の15ページの箇条書きの中にある「クラスの手順を定めておく」のクラスの手順のリストを復習します。あなたが教師と生徒にとって最も役立つと思った手順について，教師が理解できるよう助けます。クラスの手順をセミナリーやインスティテュートの生徒に初めて教える場面を，実際に演じてみせます。それから，一人の教師に前に出てきてもらい，別の手順について同じことを行ってもらいます。

教師会レッスン2

基本的な学習パターン

教師会活動の提案

このレッスンには，教師が家庭での学習経験5－8で学んだ原則を実践できる活動のリストが含まれています。必要に応じて，クラスの教師の必要に合った実践活動を自分で作ることもできます。

学習経験6—背景と内容を理解する

教師が背景と内容を理解する練習ができるよう助ける際，次の技術を高めることに焦点を当てるのを忘れないでください。

- 背景と内容について教師自身の理解を深めるような質問をする
- 適切なリソースを用いて質問に答える

実践活動1—背景と内容を理解する

目的—聖文の背景と内容を理解することの大切さを教師が理解するのを助け，質問し，答えを見つける練習をする機会を提供する。

活動—教義と聖約22章の全文を教師に配付します。節や章の見出しなど，文章の背景のヒントとなるような情報を一切載せないでください。文章を読んでもらい，それから読んだ箇所の背景と内容についてどのような質問があるか尋ねます。質問をホワイトボードに書きます。家庭での学習経験6の「質問する」の項に質問が掲載されていることを指摘すると役立つかもしれません（それらの質問をホワイトボードに書いてもよいでしょう）。

- この部分はどんな背景だろうか。
- どんな歴史的，文化的，地理的状況だろうか。
- 記録者は誰だろうか。
- 登場人物は誰だろうか。彼らは何を行い，何と言っているだろうか。またそれはなぜだろうか。
- 何が起こっているだろうか。どんな話の筋だろうか。
- 聞き慣れない言葉，言い回し，表現の意味は何だろうか。
- 描かれている風習はどのような意味を持っているだろうか。

文章が教義と聖約のどこに出てくるかを教師に伝え，その箇所を開いてもらいます。適切なリソース（章の見出し，脚注，生徒用資料など）を使って，質問の答えを探すように教師に言います。

聖文研究の際に背景と内容を理解することが果たす役割に関するこの活動を行ってみて，気づいたことを話し合ってもらいます。

実践活動2—背景と内容に関する学習者の知識を増す質問をする

目的—背景と内容について質問する練習の機会を教師に与える。

活動—各自で次の聖句を研究してもらいます。

- 列王上17：8―16（エリヤに食事を差し出す，夫に先立たれたザレパテの女性）
- 使徒3：1―8（神殿で男性を癒やすペテロとヨハネ）
- モルモン書ヤコブ7：1―5（ヤコブの信仰を揺さぶろうとするシーレム）

生徒が聖文の背景と内容への理解を深められるような質問を書き出すよう教師に言います。尋ねるとよい質問を教師に伝える手段として，背景を構成するさまざまな要素を参照するように言うとよいでしょう。『福音を教え学ぶ―宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』の2.4.1の項（24ページ）で取り上げています。

作成した質問をパートナーと分かち合い，そのうちのいくつかの質問の答えを一緒に探します。この活動で気づいたことを発表するように教師に分かち合ってもらいます。

学習経験7―教義と原則を見つける

実践活動3―述べられている原則を見つける

目的―述べられている教義や原則に教師が気づけるよう助ける

活動―次の6つの参照聖句を順不同にホワイトボードに書きます。2ニーファイ32：3；3ニーファイ13：21；教義と聖約19：4；出エジプト19：5；マタイ5：16；1ニーファイ1：20（最初の4つの参照聖句には教義または原則が明確に述べられており，最後の二つには述べられていません。）

教師に『福音を教え学ぶ』の2.5.1項4段落目（27ページ）を復習してもらいます。二人一組で，ホワイトボードに書き出した6つの参照聖句のうち，教義や原則が明確に述べられているのはどれか見極めてもらいます。ペアごとに，気づいたことをクラスで説明してもらいます。

実践活動4―4分間の聖文演習

目的―述べられている教義や原則を見つける練習の機会を教師に提供する。

活動―2分間聖文を調べて，述べられている教義と原則をできるだけたくさん見つけて印をつけるよう教師に言います。残りの2分間で，述べられている教義と原則をできるだけたくさんクラスに発表してもらいます。必要に応じて教師にフィードバックを与えます。

実践活動5―因果関係にある事柄を探す

目的―聖文に含まれている因果関係と，言外に伝えられる原則を見いだせるよう教師を助ける。

活動―明らかな因果関係が含まれている有名な聖句を開くよう教師に言います。例えば，ダビデとゴリアテ（サムエル上17：1―51），獅子の穴の中のダニエル（ダニエル6：1―28），真鍮の版を取り戻すニーファイ（1ニーファイ3―4章）などです。

話をざっと読みながら，登場する人や人々の行動，態度，行いを探し，次にその結果もたらされた祝福や結果を見つけてもらいます。見つけた因果関係と，その関係が示している真理をクラスで発表するよう教師に言います。

注—この活動の焦点は，教義や原則の文を作ることに時間をかけることではなく，因果関係を見つけることであることに留意してください。教義や原則の文を作成する技能の練習は，別の実践活動で行います。

実践活動6—言外に伝えられる教義と原則を見つけるために質問する

目的—言外に伝えられる教義や原則を見つけるために質問を用いることができるよう教師を助ける。

活動—『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』の2.5.1の項（27ページ）に含まれている次の質問をホワイトボードに書きます。

- **その話の教訓と要点は何だろうか。**
- **記録者がこの出来事や言葉を入れたのはなぜだろうか。**
- **記録者はわたしたちに何を学ばせようとしたのだろうか。**
- **この言葉の中で教えられている基本的な真理は何だろうか。**

二つの短い聖句グループ（例えば，創世11：1－9やマルコ12：41－44）を全員で読みます。ホワイトボードの質問を使って，節の中に含まれる，言外に伝えられる教義や原則を見つけてもらいます。教師が見つけた教義や原則をホワイトボードに書きます。

次に，他の一つか二つの聖句グループを読み，自分で教義や原則を見つけるよう教師に言います。必要に応じてホワイトボードの質問を参照してもらいます。（今年度のセミナリーやインスティテュートの教科課程の聖句グループを選択すると役立つでしょう。）次に，見つけた真理をクラスに発表してもらいます。

実践活動7—預言者モルモンの一日体験

目的—教義や原則を明確で簡潔な文にできるよう教師を助ける。

活動—LDS.orgのメディアライブラリーまたは『福音の視覚教材集』から何枚か絵を選びます。絵は，聖典の有名な物語に関連するもので，教義や原則を簡単に見つけられるものにします（例えば，ヒラマンの若い兵士たち，5千人に食べ物を与えられた救い主，司令長官モロナイと自由の旗など）。モルモンはモルモン書の記録を要約しながら，簡潔な原則の文章にして伝えることにより，わたしたちに学んでほしい教訓を強調したことを説明します。その一つの手段として，モルモンは真理を表す文の冒頭と文末に「このことから……が分かるのである」（アルマ30：60；ヒラマン12：3参照）という言葉を用いました。今日一日，モルモンになって，聖典の話に含まれている真理を要約して教義や原則の文章を作ってみることを教師に伝えます。

選択したそれぞれの絵について次のことを行います。

- 絵を見せて，物語の中の出来事を簡潔に話します。

- 物語の中の，言外に伝えられる原則や教義を見つけ，「このことから……が分かるのである」という言い回しを使って，簡潔かつ明確に伝えるよう教師に言います。一枚または二枚の絵を使って，二人一組になって取り組み，クラスに発表してもらうとよいでしょう。

『福音を教え学ぶ』手引きの28ページのB・H・ロバーツ長老の言葉を教師に思い出させてください。

実践活動8—教義や原則を表す簡潔で明確な文の例

目的—教義や原則を表す簡潔で明確な文とは何か分かるよう教師を助ける。

活動—ホワイトボードの片側に，次に挙げる，教義や原則をうまくまとめた文の特徴（家庭での学習経験7より）を書きます。

- **完結した文である。**
- **明確で簡潔である。**
- **表している真理が基本的で，不変であり，いつの時代にも当てはまる。**
- **しばしば，行いとともにそれに関連した結果を伴っている。**
- **個人に関連がある。**

ホワイトボードの反対側に，教義や原則の文を5つか6つ書きます。この練習の目的のために，文の質に変化をもたせます。以下のような文を使うことができます。

- 文として未完成（例—「信仰と従順」など）。
- 長すぎる，あるいは複雑すぎる（2つ以上の文）。
- いつの時代にも当てはまるものではない，あるいは個人的に関連がない（例—「ニーファイは従順だったので主から祝福された」，改善例—「わたしは従順なときに，主の祝福を生活に招くことができる」）。
- セミナリーやインスティテュートの教師用手引きのうまくまとめられた文。

ホワイトボードの5つの特徴に基づき，それぞれの教義や原則の文が良い文かどうか評価してもらいます。改善できる文を一つか二つ選び，クラス全員で協力して書き直します。

実践活動9—原則を渡す

目的—明確で簡潔な教義または原則の文を書けるよう教師を助ける。

活動—一つの参照聖句と，その聖句の中で教えられている真理に関連するいくつかの語句が書かれた紙を，それぞれの教師に一枚ずつ用意します（例えば，「1ニーファイ16：9－16，28－29—信仰と勤勉」または「教義と聖約27：15－18—神の武具」など）。

輪になって座るよう教師に言います。紙をそれぞれの教師に配ります。それぞれの教師に，紙に書かれている参照聖句と語句を確認して，その語句に一つか二つだけ変更を加えて，簡潔かつ明確な教義または原則の文にするように言います。

十分な時間を取った後，右側の人に自分の紙を渡します。受け取った人も，参照聖句を確認して，教義や原則の文をさらに改善するために一つまたは二つの変更を加えます。これを数回繰り返します。

教義や原則の明確な文を書くプロセスについて，気づいたことを発表してもらいます。

学習経験8—教義と原則を理解し，感じ，応用する

実践活動10—言外に伝えられる教義と原則を見つけるために質問する

目的—教義や原則について質問し，その答えを探すことにより，教師が聖文に，より深い意義を見いだすことができるようにする。

活動—ホワイトボードの中央に，セミナリーまたはインスティテュートの教師用手引きに書かれている教義や原則の文を一つ書きます。その教義や原則について理解を深める質問をできるだけたくさんしてもらいます。全ての質問をホワイトボードに書きます。

二人一組で，聖文や現代の預言者の言葉を調べて，できるだけたくさんの質問の答えを3－5分ほどで探すように言います。その後，この活動が教義と原則に対する理解をどのように深めてくれるか，気づいたことをクラスに発表してもらいます。

実践活動11—個人用ワークシート

目的—教師が教義と原則を理解し，感じ，応用する経験ができるよう，自分で使うことのできる学習補助資料を提供する。

活動—本手引きの付録に含まれている資料「教義と原則を理解し，感じ，応用する」をコピーして配付します。この資料は，教師が教義や原則を理解し，感じ，応用するために使うことのできる学習補助資料であることを説明します。資料の最初の3つの項について教師と話し合い，各項の目的と期待される結果について説明します。

個人の聖文研究の中で，教義と原則を理解し，感じ，応用する能力を継続的に高めるよう教師を励まします。

教師会レッスン3

レッスンの準備をする：教える事柄を決める

教師会活動の提案

このレッスンには，教師が家庭での学習経験9－10で学んだ原則を教師が実践できる活動のリストが含まれています。必要に応じて，クラスの教師の必要に合った実践活動を自分で作ることもできます。

教師会レッスン9—レッスンの準備をする：教える事柄を決める

次の活動は，教師が聖典と教師用手引きを併用しながら，教える事柄を決める技術を高めるためのものです。このプロセスは4つの段階に分けられ，家庭での学習経験9の「レッスンの準備に関する活動」と似ています。この活動は，連続的に用いて，教える事柄を決める全プロセスを一通り教師に示すこともできますし，それぞれの活動を別々に用いて特定の技術を強調することもできます。

実践活動1—聖句ブロックの背景と内容を理解する

目的—教師が，話題や出来事，行動の自然な変わり目や変化に気を配りながら聖句ブロックを要約する技術を練習するのを助ける。

活動—セミナリーおよびインスティテュートの教師用手引きでは，聖句ブロックがいくつかの節ごとに区切られていますが，話題や出来事，行動の自然な変わり目や変化に気を配りながら聖句ブロックを自分で要約する技術を練習すると，教師は聖句ブロックの背景と内容をさらによく理解できるようになります。この活動は，教師がその技術を練習するのに役立ちます。

LDS.orgにあるビデオ“Teaching the Scriptures Sequentially”（「聖文を順序立てて教える」）（4：28）を教師に見せます。教える事柄を決めるプロセスが，ビデオで示されているパターンとどのように似ているかを話し合いましょう。

教師に，ある聖句ブロックを10－15分間研究してもらいます。聖句ブロックは教師会集会で指定することもできますし，集会に先立って家庭で聖句ブロックを研究してくるよう教師に言っておいてもよいでしょう。研究する際，話の筋の自然な変わり目や，出来事や行動の変化をもとに，内容をさらに小さなセグメント，すなわち節のまとまりに分けて，聖句ブロックを要約するよう教師に言います。本手引きの付録に含まれている資料「教える事柄を決める」を使うか，教師に合った別の方法を使って，ブロックを要約するとよいでしょう。

十分な時間を取った後，出来上がったものについてグループで，あるいは二人一組で話し合います。自分の聖句グループと，セミナリーまたはインスティテュートの教師用手引きのものとを比較してもらいます。次に，自分が書き留めたことと教師用手引きを使って，実際のレッスンでどの聖句グループを使うか教師に決めてもらいます。出来上がったものについてもう一度話し合います。

実践活動2—教義と原則を見つけ，理解する

目的—教師が，聖句ブロックの中にある教義と原則を見つけ，理解する技術を継続的に練習し，高めるのを助ける。

活動—教師用手引きには，すでに多くの聖句セグメントの教義や原則が書かれていますが，教師は定期的にこの技術を自分で練習することにより，自分自身の聖文研究の質を高め，生徒が教義と原則を見つけるのをさらによく助けることができるようになります。

最初の活動の中で要約した聖句セグメントの中から教義と原則を見つけるように教師に言います。次に，見つけた教義や原則を資料「教える事柄を決める」に書き出すか，教師に合った別の方法で書き留めます。

十分な時間を取った後，出来上がったものについてグループまたは二人一組で話し合ってもらいます。自分が見つけた教義と原則を，教師用手引きの該当する聖句ブロックの，太字で示されている原則や教義と比較してもらいます。自分が書いた文をさらに明確にするために必要だと感じる言い回しに修正を加え，出来上がったものをもう一度グループまたは二人一組で，発表し合ってもらいます。

実践活動3—生徒が学び，応用するためにどの原則が最も重要かを判断する

目的—以下のことを検討することにより，生徒が学び，応用するためにどの原則が最も重要かを決める技術を教師が継続的に高めることができるよう助ける。

- 聖霊の促し
- 霊感を受けた記録者の意図
- 改心を促す教義や原則
- 生徒の必要と能力

活動—教師は，生徒が学び，応用するためにどの原則が最も重要かを決めなければならないため，この活動中に生徒について具体的に考えることが役立つでしょう。クラス名簿を持って来るように教師に言います。名簿がない場合は，クラスに出席する数人の生徒の名前を書いてもらいます。

次に，二番目の活動で要約した教義や原則を使うように言います。まだ二番目の活動を終えていない場合は，教師用手引きに書かれている，ある聖句ブロックの教義や原則の文を3つか4つホワイトボードに書きます。考えを促す次の質問を踏まえて，生徒が学び，応用するためにどの教義と原則が最も重要かを決めるよう教師に言います。

聖霊の促し

- これらの教義や原則が，レッスンで強調するべき最も大切なものだと感じるのはなぜだろうか。

霊感を受けた記録者の意図

- 記録者がこの教義または原則を記録に含めた理由について，聖文には何と書かれているだろうか。
- この教義または原則は，霊感を受けた記録者の意図とどのように一致しているだろうか。
- この教義または原則が霊感を受けた記録者の意図とどのように関連しているかを理解するうえで教師用手引きは役に立つだろうか。

改心を促す教義や原則

- この教義または原則は，生徒が天の御父とイエス・キリストに近づくうえでどのように役立つだろうか。また，どのように生徒を救いに導いてくれるだろうか。この教義または原則についての証は，生徒が神の御心に従ううえでどのように役立つだろうか。
- この教義または原則は，生徒がイエス・キリストの教えと贖罪を理解し，頼るのをどのように助けてくれるだろうか。
- この教義または原則が生徒の改心の度合いを深めるうえでどのように役立つかを理解するために，教師用手引きは助けとなるだろうか。

生徒の必要と能力

- この教義または原則を教えるかどうかを判断する際に，生徒のどのような必要を考慮するべきだろうか。
- この教義または原則は，クラスで提示することのできる他の教義や原則と比べて，生徒の生活にどの程度重要だろうか。
- この教義または原則を生徒の必要に関連付けるうえで助けとなる提案が，教師用手引きにあるだろうか。

教師がこれらの質問について深く考える十分な時間を取った後，生徒に学び，応用してもらいたい，最も重要だと感じる教義や原則を見つけてもらいます。二番目の活動でまとめた要約を使っている場合は，見つけた原則や教義の隣の要約にチェックマークか星印をつけてもらいます。グループまたは二人一組で，選んだ教義や原則を発表し合うように言います。

注—質問は，『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』の4.3.3（52－54ページ）が基になっています。教師が次のことを思い出せるよう助けます。「教師は，これらのことを全て考えながら，御霊の確認を求めるようにしなければならない。御霊は，霊感を受けた聖典の記録者の意図や生徒の必要，また生徒が天の御父と救い主に近づくのにどの福音の真理が助けとなるかを，教師がもっとよく理解できるように助けるであろう。」（『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』，54）

実践活動4—聖句ブロックの各セグメントをどの程度強調するかを決める

目的—教師が，聖句ブロックの各セグメントをどの程度強調するかを決める技術を継続的に高めるのを助ける。

活動—最初の活動で作った要約に含まれている聖句セグメント，または教師用手引きからあなたが選んだ聖句ブロックに含まれている聖句セグメントを見るよう教師に言います。学習のパターンに基づいた以下の質問をすることにより，聖句ブロックの各セグメントをどの程度強調するかを考えてもらいます。

このセグメントを教えるときに，生徒に次のことを望んでいるだろうか。

- 背景と内容を理解する
- 重要な教義と原則を見つける
- 教義と原則を理解する
- 教義と原則が真実であり重要であることを感じる
- 福音の教義と原則を自分の生活に当てはめる

聖句ブロックの各セグメントについて決定した強調する度合いをレッスンノートに書き，その理由についてグループまたは二人一組で話し合ってもらいます。

学習経験10—教える事柄を決める：聖文と教師用手引きを使う

実践活動5—教科課程の確認

目的—教科課程は重要な目的をもって書かれたもので，生徒の改心の度合いを深めてくれる質問や方法，活動が含まれていることを教師が理解できるようにする。

活動—LDS.orgにあるビデオ“Curriculum Overview”（「教科課程の概要」）（4：45）を視聴します。

次に，教師に，セミナリーまたはインスティテュートの教師用手引きのどこかのレッスンを開いてもらうか，本手引きの付録の中の資料「サンプルレッスン—3ニーファイ11：1—17」を配付します。福音が生徒の心に届くよう助けるという教科課程の目的を示す，活動，教義または原則，質問あるいは引用を探すように教師に言います。教師がこの活動を終えたら，二人一組になって，見つけたことを発表し合ってもらいます。

実践活動6—教科課程の基本事項

目的—教師用手引きは，生徒が福音を教え学ぶときの基本を自分のレッスンに取り入れる助けとして書かれたものであることを教師が理解できるよう助ける。

活動—LDS.orgにあるビデオ“The Fundamentals in the Curriculum”（「教科課程の基本事項」）（2：15）を視聴します。

それからクラスを5つのグループに分けます。各グループに，学習パターンの一つの要素を割り当てます。

- グループ1—背景と内容を理解する
- グループ2—教義と原則を見つける
- グループ3—教義と原則の意味を理解する
- グループ4—教義と原則が真実であり重要であることを感じる
- グループ5—教義と原則を応用する

教科課程の中から，教師と生徒が割り当てられた基本事項を取り入れる助けとなる質問や活動，方法を探すよう教師に言います。

各グループから一人代表者に前に出てもらい，自分のグループが見つけたことや話し合った内容について発表してもらいます。

実践活動7—取り入れて修正する

目的—教師が教科課程を**取り入れ**，生徒の必要に合わせて**修正する**ことの大切さを理解できるよう助ける。そのためには，聖霊の促しに従い，霊感を受けた記録者の意図を教え，改心をもたらす教義や原則に焦点を当て，生徒の必要と能力を検討する必要がある。

注—この活動中，教師に自分の生徒について考えてもらうと役立つでしょう。クラス名簿を持って来るように教師に言います。名簿がない場合は，クラスに出席する数人の生徒の名前を書いてもらいます。

活動—LDS.orgにあるビデオ“4.3.4 Teaching Students, Not Lessons”（「4.3.4　レッスンではなく生徒を教える」）（2：12）を視聴します。このビデオの中で，十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老は，生徒の必要に合わせてレッスン計画を修正した教師の例を述べています。（このビデオは全ての言語で利用できるわけではありません。）

ビデオを観た後で，次の質問について話し合います。

- 教師がその日，生徒の必要を満たし，生徒の改心の度合いを深めるうえで鍵となったものは何でしょうか。
- ある生徒が，教師が予定していたこととは違う方向にレッスンを向けそうな意見を述べたとき，教師はどうしましたか。
- 生徒の言葉を聞いて彼の懸念に気づいた教師はどうしましたか。
- 生徒の必要を満たそうと努めたことにより，この教師は生徒にどのような影響を与えましたか。

これらの質問について話し合ったら，次の設定状況を提示し，生徒の必要や状況に合わせてどのようにレッスンを修正するか話し合ってもらいます。

あなたのクラスでモーサヤ18章を学習しています。そこには，人々が「慰めの要る者を慰めることを望」んでいたことにアルマが気づき（モーサヤ18：9），「主に仕えて主の戒めを守る」（モーサヤ18：10）という聖約を主と交わすよう人々に勧めたことが記されています。慰めの要る者を慰めた経験についてクラスに質問すると，クラスのある若い女性が手を挙げて，学校のクラス

に最近転入してきた女の子が家庭で問題を抱えている，と話しました。この若い女性は，バプテスマの聖約を守りたいのですが，どのようにそのクラスメートを助けてよいか分かりません。

実践活動8—生徒の必要に合わせて教科課程を修正する

目的—教師が生徒の生活状況や必要に応じて教科課程を修正できるよう助ける。

活動—クラスをいくつかのグループに分け，次の設定状況の一つを各グループに割り当てます。示されているレッスンのコピーをグループに与えます。各グループに，設定状況を読み，生徒の必要に合わせてどのようにレッスンを修正するかを発表する準備をしてもらいます。

- あなたのクラスで教義と聖約4章を学習しています。この章では，主に仕える資格を得る条件と，主に仕える人の特質について取り上げられています。何人かの生徒は，伝道の申請書を提出する準備をしています。しかし，数人の生徒は，健康状態やその他の状況のために，通常の伝道に出ることができないかもしれません。手短にDoctrine and Covenants and Church History Seminary Teacher Manual（『教義と聖約および教会歴史　教師用手引き』）の13課（43－45ページ）を見直して，このレッスンで扱っている教義や原則を教えるときに，生徒の必要に合わせてどのように教える内容を変えればよいか考えてください。
- あなたのクラスで，教義と聖約132：3－33を学習しています。この章では，新しくかつ永遠の結婚の聖約の条件と，それを尊ぶ人に与えられる約束が取り上げられています。生徒の中に，両親が教会員ではない人がいます。また，神殿で結び固められていない教会員の両親をもつ生徒もいます。ある生徒の両親は，現在離婚に向けて協議中です。手短に**Doctrine and Covenants and Church History Seminary Teacher Manual（『教義と聖約および教会歴史　教師用手引き』）**の139課（474－476ページ）を復習し，このレッスンで扱っている教義や原則を教えるときに，生徒の必要に合わせてどのように教える内容を修正すればよいか考えてください。

上記の設定状況について話し合ったら，次の質問を深く考えて自分の生徒の生活状況を検討するよう教師に言います。

- 生徒の生活状況はどうだろうか。
- この情報は，教えるそれぞれの生徒の必要を満たすうえでどのように役立つだろうか。
- 生徒の状況に基づいてどのようにレッスンを準備し，生徒の必要に合わせてどのように教える内容を修正できるだろうか。

生徒の必要に合わせてどのように教科課程を修正することができるかについて，気づいたことや感じたことを話し合ってもらいます。

教師会レッスン4

レッスンの準備をする：教える方法を決める

教師会活動の提案

このレッスンには，教師が家庭での学習経験11－13で学んだ原則を実践できる活動のリストが含まれています。必要に応じて，クラスの教師の必要に合った実践活動を自分で作ることもできます。

家庭で行う学習経験11—教える方法を決める：生徒が自分の役割を果たせるよう助ける

実践活動1—教師用手引きは，生徒が自分の役割を果たすのをどのように助けてくれるか

目的—教師用手引きに含まれる質問や方法，学習活動が，生徒が福音を学習する際に自分の役割を果たすよう促すのにどのように役立つかを，教師が理解できるようにする。

活動—教師に，セミナリーまたはインスティテュートの教師用手引きのいずれかのレッスンを開いてもらうか，この手引きの付録の中の資料「サンプルレッスン—3ニーファイ11：1－17」を配付します。学習プロセスにおいて生徒が自分の役割を果たす助けとなる質問や活動，教授方法を探してもらいます。十分に時間を与えた後で，自分の学んだことを現職教師のグループの他のメンバーと話し合うように言います。

実践活動2—学習プロセスにおいて果たすべき役割を教師が生徒に教えられるよう助ける。

目的—年度の初め，そして一年を通して，学習プロセスにおいて果たすべき役割を教師が生徒に教えられるよう助ける。

活動—それぞれのセミナリー教師用手引きには，「学習者の役割」というレッスンが含まれています。このレッスンは，生徒が福音を教え，学ぶ際に自分が果たすべき役割について理解できるよう助けるためのものです（Book of Mormon Seminary Teacher Manual，第1課などを参照）。これらのレッスンから1つを選んで復習し，学習プロセスにおいて自分の責任を果たすよう生徒に教えるために用いることのできる，原則や活動，教授方法を探すように言います。

レッスン「学習者の役割」に含まれている原則について，簡単なレッスンを準備してもらいます。十分な時間を取った後，教師をグループごとに分け，用意したレッスンをグループに教える練習をするように言います。（教師全員が用意した内容を教えることができるよう，小さなグループに分けます。）教師が

全員レッスンを教え終わったら，一年を通して福音の学習における自分の役割を果たすよう生徒に教え続けるにはどうすればよいかを話し合います。

家庭学習12—教える方法を決める：効果的な質問をする

実践活動3—効果的な質問の種類を特定する

目的—学習パターンに関連する望ましい結果を生徒にもたらすことのできる，異なる種類の質問を認識し，理解できるよう教師を助ける。

活動—本手引きの付録に含まれている資料「効果的な質問の種類を特定する」をコピーして配付します。資料に載っている様々な種類の質問を探してもらいます。次に，分かったことについてクラスで話し合います。

実践活動4—教師用手引きを用いる

目的—教師用手引きの中から質問を見つけ，それらの質問が，学習パターンの望ましい結果を生徒にもたらすうえでどのような助けとなるかを教師が理解できるようにする。

活動—教師に，セミナリーまたはインスティテュートの教師用手引きのいずれかのレッスンを開いてもらうか，本手引きの付録の中の資料「サンプルレッスン—3ニーファイ11：1－17」を配付します。レッスンの中で，全ての質問に印をつけるように言います。次に，それぞれの質問が，学習パターンのどの要素に関連しているか考えてもらいます。分かったことについてクラスで話し合います。

実践活動5—質問を書き換える

目的—学習パターンに関連する効果的な質問を作れるよう教師を助ける。

活動—本手引きの付録に含まれている資料「質問を書き換える」をコピーして配付します。望ましい学習結果を生徒にもたらす可能性が高まるよう，教師に資料の質問を書き換えてもらいます。書き換え終わったら，数人の教師に書き換えた質問をグループのメンバーに発表してもらいます。

実践活動6—見本に倣い，書く

目的—背景と内容を理解することから福音の原則を生活に取り入れることまで，生徒に聖句セグメントの学習パターンを一通り経験してもらうのに役立つ，一連の質問を書く練習を教師にしてもらう。

活動—本手引きの付録に含まれている資料「例と訓練」をコピーして配付します。ワークシートに載っている一連の質問のサンプルをよく読むよう教師に言います。質問のサンプルは，ある聖句セグメントについて生徒が学習パターンを経験する助けを教師ができるようになるためのものです。次に，自分が選んだ一つまたは二つの聖句について，同じパターンに倣い，同様の一連の質問を書く練習をしてもらいます。

実践活動7—教える備えをする

目的—聖句や教師用手引きを使って簡単なレッスンを準備し，互いに教えあう練習をする機会を教師に提供する。

注—訓練のこの時点で，教師はレッスンを準備し教える練習をする備えができているはずです。教師用手引きの時間通りのレッスンを行う準備をして教えるのではなく，1つの聖句セグメントのみを教える準備をするように教師に言います。この活動はおそらく教師に召されている間ずっと行うことになるでしょう。

活動—何をどのように教えるかを決定することについて学んだ重要な要素について，簡単に復習します。それから，教師用手引きから1つの聖句セグメントを選び，それを使った簡単なレッスンを準備してもらいます。

教師全員がレッスン準備の同じ段階に取り組み，誰も遅れることのないようレッスンを進めるとよいでしょう。教師が計画する助けとして，本手引きの付録に含まれている資料「レッスンを計画するための質問」をコピーして配付します。教師がレッスンの準備を終えたら，一人か二人に，グループの前でレッスンを教えてもらいます。必要に応じて，それぞれのレッスンの終わりに，教師たちに意見や役立つフィードバックを発表してもらいます。（必要に応じて，教師は本手引きの付録の中の資料「サンプルレッスン—3ニーファイ11：1—17」を配付するとよいでしょう。）

学習経験13—教え方を決める：御霊により教え，学ぶ

実践活動8—3つの重要な信条

目的—教師が御言葉の力や主と御霊を信じ，生徒を信頼するときに，教室でどのような経験をすることができるかについて，教師の理解を深める。

活動—教師に次の三つの重要な要素を紙に書いてもらいます（『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』47—48参照）。

- 御言葉の力を信じる
- 主と御霊を信じる
- 生徒に対する信頼

教室での出来事を描いたビデオを教師に見せます。次のビデオの中から一つを選んで使っても（LDS.orgから入手可能），別のビデオを選んでもかまいません。（このビデオは全ての言語で利用できるわけではありません。）

“2.7 Analyzing a Passage”（「2.7　聖句を分析する」）（8：12）

“2.7 A Student-Centered Discussion”（「2.7　生徒主導の話し合い」）（10：47）

ビデオを見ながら，教師が御言葉の力や主と御霊を信じ，生徒を信頼していることを示している例を探すように教師に言います。その後，自分の考えや気づいたことを発表してもらいます。

実践活動9—生徒を信頼する

目的—生徒が何者であるか，また生徒が福音の学習における自分の役割を果たし，さらに改心の度合いを深める能力をもっていると信頼できる理由を，教師がさらに理解できるよう助ける。

活動—本手引きの付録に含まれている資料「生徒に対する信頼」をコピーして配付します。読みながら，「教師の助けと励ましを受けるなら，自分の生徒たちも学習のプロセスにおいて学習者としての役割を果たすことができるようになる」ということを確信するのに役立つ重要な真理に下線を引くように言います。感じたことについて短く話し合います。

教室での出来事を描いたビデオを教師に見せます。次のビデオの中から一つを選んで使っても（LDS.orgから入手可能），別のビデオを選んでもかまいません。（このビデオは全ての言語で利用できるわけではありません。）

“2.7 Analyzing a Passage”（「2.7　聖句を分析する」）（8：12）

“2.7 A Student-Centered Discussion”（「2.7　生徒主導の話し合い」）（10：47）

資料に下線を引いたことが真実である証拠を探し，二人一組になって気付いたことや感じたことについて話し合ってもらいます。

教師会レッスン 5

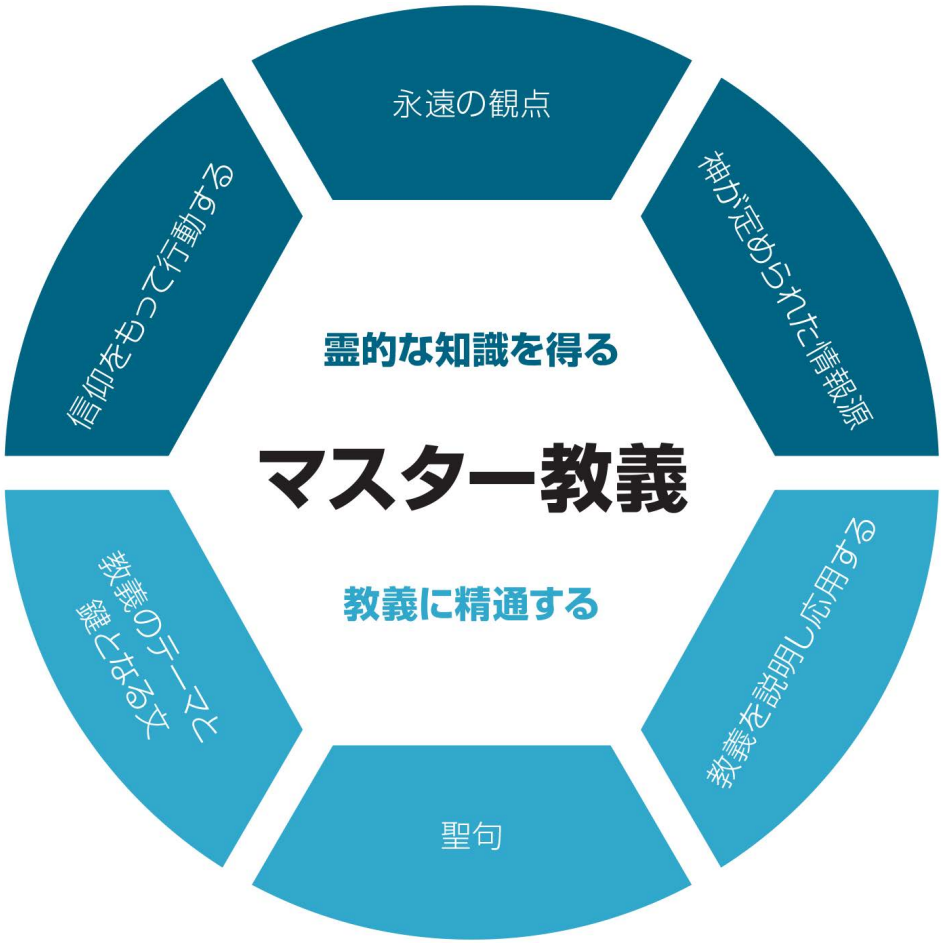
マスター教義の紹介

教師会活動の提案

このレッスンには，教師が家庭での学習経験14で学んだ原則を実践できる活動のリストが含まれています。活動の中には，説教を読み，ビデオを視聴し，あるいは簡単な実践練習を行うなどの準備をして，クラスに参加するように教師に勧めるとより有意義な活動もあります。必要に応じて，クラスの教師の必要に合った実践活動を自分で作ることもできます。

実践活動 1—預言者の教えるマスター教義の原則

目的—配布資料『マスター教義の概要』にある指導者の教えと比較することにより，教師が「マスター教義」の基礎となっている預言者の教える原則を特定し，より良く理解できるように助ける。



活動—教師としての召しが始まる前に以下の資料から一つか二つを読むように教師に勧めます。これらの資料は教会のウェブサイトにある「マスター教義訓

練リソース」ページから入手できます。サイトはdoctrinalmastery.lds.orgです。また，訓練の必要性に応じて，そのほかの資料を選択することもできます。

- キム・B・クラーク，「マスター教義と深い学習」（教会教育システム宗教教育者向けの説教，2017年2月 17日）
- ダリン・H・オークス，「人，その心に思うがごとく」（中央幹部との夕べ，2013年2月 8日）
- M・ラッセル・バラード，「21世紀においてCES教師に与えられている機会と責任」（教会教育システム宗教教育者向けの説教，2016年2月 6日）
- チャド・H・ウェッブ，「マスター教義」（教会教育システム訓練衛星放送での説教，2016年6月 14日）

教師に10分間資料を研究し，「マスター教義」の重要な原則と実践方法を見つけるように勧めてください。受けた印象を少人数のグループまたは教師会グループ全体で分かち合うように教師に勧めてください。

実践活動 2—マスター教義オンラインリソース

目的—教師が「マスター教義」の原則と実践方法を理解するうえで活用できるリソースを認識できるように助ける。

活動—教師にdoctrinalmastery.lds.orgにアクセスするように勧める。各教師に2つか3つの関心のある分野を選択して内容を深く見るように勧めます。以下がお勧め分野です：

- マスター教義訓練リソース（「マスター教義」のために制作されたすべての訓練資料が揃っています）
- マスター教義とは何ですか（プログラムの概要）
- 霊的な知識を得るためのリソース（霊的な知識を得るうえで役立つ神が定められた資料のリスト）
- 福音のテーマ，論文，そのほかのリソース（福音学習を向上させるそのほかのリソースのリスト）
- ほかの人々が霊的な知識を得られるように助ける（難しい質問に対して信仰と愛をもって対応する方法）

一年を通じて教師がこのウェブサイトをどのように活用することができるか短く話し合ってください。

実践活動 3—マスター教義学習進度

目的—年間を通じて「マスター教義」のレッスンをどのようなスケジュールで教えるべきか，教師がより良く理解し，計画できるように助ける。

活動—教師に本年度の学習コースの教師用手引きとマスター教義学習進度の提案に目を通すように勧めます。手引きの中で年間を通じて教義のテーマをどのように教えるかについての例を指摘します。一週間に一度のフルレッスンで教義のテーマをどのように教えることができるかについてそのほかの例を示します。

「マスター教義」のレッスンを教えた経験のある教師に，レッスンの計画と学習進度を決めていくことを通して学んだことを分かち合ってもらいます。教師が翌月のレッスンについて検討し，いつ「マスター教義」レッスンを教えるかの計画ができるように時間を取ってください。

注—以下の点を強調してください：

- 「マスター教義」教師用資料手引きは学習進度を決めるうえでの主要な情報源です。
- マスター教義レッスンは聖句ブロックの教義や原則とは分けて教えるべきです。
- 霊的な知識を得るための原則はマスター教義レッスンの実践活動の中で使用するべきです。
- 霊的な知識を得るための原則はまた，年間を通じて，生徒が疑問や心配事を抱えているとき，様々な状況に応用するべきです。

実践活動 4—信仰をもって行動する—「壁」

目的—生徒が霊的な知識を求める際，自分の持っている信仰を固守できるように教師が支援する方法をより深く理解できるように助ける。

活動—教師が最近耳にした教会に関する教義的，歴史的，あるいは社会的な疑問や懸念について，自分で幾つか考えてみるように勧めます。ホワイトボードにこうした疑問や懸念を二つ書き出します。

だれかに，十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の話を声に出して読んでもらいます。

「恐れや疑いがあるとき，困難なときには，たとえ小さくてもすでに得ている土台にしがみついてください。 .....問題が発生したときに，なかなか解決しないときに，**すでに知っていることに固くしがみついて，新たな知識を得るまで，強くあってください**。 .....信仰の大きさや，知識の深さは問題ではありません。それよりも，すでに持っている信仰とすでに知っている知識に忠実であることの方が大切です。

..... 持っていない信仰を持っているふりをするように言っているのではなく，**持っている**信仰に忠実になるように**言っているのです**。 .....疑問があるときには，必要なだけ率直にそれを認めてください。人生には様々な分野において多くの疑問があるからです。しかし，自分と家族が癒されるように願っているときには，そのような疑問が奇跡を起こす妨げとならないようにしてください」（ジェフリー・R・ホランド，「主よ，信じます」『**リアホナ**』2013年5月号，93－94）

ビデオ「信仰をもって行動する—石工」(4：58)を視聴します。LDS.orgから視聴できます。このビデオの中で，石壁を建設している一人の男性が，最初，石が壁にはまらないことに気づきます。その男性は，壁にはまらない石を捨てずに，それらの石がはまる場所が見つかるまで待つことにします。教師がこのビデオを視聴する際，ホランド長老の教えである疑問に対する

答えがすぐに来ないと思えるときに，信仰を持ち続けることを表す原則や実践を見つけるように勧めます。

ビデオの視聴を終えたら，教師に自分たちの考えや感想を分かち合うように勧めます。

ホワイトボードに書いた疑問や懸念の一つを選びます。その疑問や懸念を抱いた生徒の役をした教師とロールプレイを行い，ホランド長老の助言とビデオから学んだ原則を用いて生徒が信仰を持って行動できるように助ける練習をするように教師に勧めます。

しばらくの間ロールプレイを行った後，教師を少人数のグループに分け，ホワイトボードに書いたもう一つの疑問または懸念に関して再度同じ活動を行ってもらいます。

最後に，教師に自分の感じている印象について分かち合ってもらいます。その後，この実践活動を通して学んだことを応用するために何をするのか決めるように勧めます。

実践活動 5—信仰をもって行動する—「棚」

注—この活動は実践活動 4と同じ目的と形式で行います。しかしながら，さらなる霊的な知識を得るまで信仰をもって行動するということを表した「信仰をもって行動する—石工」のビデオを活用する代わりに，スペンサー・ W・キンボール大管長（1895－1985）の妻であったカミラ・キンボール姉妹に関する以下の物語を使用します。キンボール姉妹は自分が理解できない福音に関する疑問を持った際，その疑問を書き留め，それを棚に置き，さらなる霊的な理解が得られるまで信仰をもって前進したのです。

「キンボール姉妹は次のように言っています。『わたしはいつも知りたいという気持ちを持ってきました。わたしはただ物事をそのまま受け入れることでは満足できないのです。わたしは物事をとことん追求し，研究し尽くすことが好きです。わたしは自分で理解できない福音の疑問を脇に置くということを早い段階で学びました。わたしには自分で理解できない事柄をしまっておく棚がありました。しかし，成長するにつれて，各問題について研究し，祈り，深く考えることにより，一つずつ理解が深まっていきました。』

彼女はほほえみながら次のように言いました。『わたしの棚にはまだ幾つか疑問が残っています。しかし，わたしは人生でほかのとても多くのことを理解できるようになったので，まだ答えが分からないことについて喜んで待つことができます。』

疑問に対する答えがどのように与えられたかについて，キンボール姉妹は一つの経験を慎み深く話しています。彼女が真剣に引き受けていた宣教師としての責任である，テンプルスクエアのガイドとして奉仕していたあるとき，身支度を整えて出かけようとしていたある朝，突然，彼女は次の強烈な疑問にとらわれました。『どうすればジョセフ・スミスが実際に救い主と御父にまみえたことを知ることができるのかしら。どうすればそのようなことが分かるのかしら』わたしはこれはほんとうに起こった事実であることをどうすれば自信をもって言えるのかしらと考えました。わたしはひどく困惑しました。わたしはひざまづいてそれについて祈りました。しかし，依然としてその問題に悩まされた状態で家を出ました。

『以前に何度も話した通り，わたしはあの日に立ち上がってジョセフ・スミスの経験について話したときに感じた衝撃を今も感じることができます。突然に，わたしは答え，すなわち心の奥底で燃えるような感覚を受けました。それは，とても強い確信を与えるもので，繰り返し確信を与えるものでしたので，自分自身の中に何の疑いもなく，これが求め，心から知りたいと望む人に約束されているまさしく証であると確信しました。

『わたしにとって驚きなのは，これまでそのような疑問を抱いたことは一度もなかったことです。わたしの証はちょうど自分が存在しているという事実と同じぐらいのものでした。そして，その疑問と答えが同じ日にやってきたのです。わたしは若い女性ではありませんでした。結婚して何年もたつ，成熟した女性でした。』」（Lavina Fielding, “Camilla Kimball: Lady of Constant Learning,” Ensign, Oct. 1975, 62）

実践活動 6—救いの計画を理解することの祝福

目的—クラスの中で行う救いの計画の入念な復習とプレゼンテーションは，生徒が永遠の視点から自分の人生を見るのにいかに役立つかを教師が理解できるように助ける。

注—教師としての召しが始まる前に，十二使徒定員会会長であったボイド・K・パッカー会長（1924－2015）の以下の教えを読むように教師に勧めてください。

「『幸福の計画』の全体像を簡潔にまとめたものが最初に示され，また度々確認できるなら，それは生徒たちにとって非常に価値あるものとなるでしょう。

皆さんに一つの課題を差し上げたいと思います。皆さんはそれを期待していたのではないでしょうか。皆さんへの課題は，幸福の計画，すなわち救いの計画の概要あるいは全体像をまとめたものを作成することです。その概要を骨組みとして，それを基に生徒が皆さんから教わる真理を体系化できるようにしてください。

初めは簡単な課題のように思えるかもしれません。しかし，わたしは断言します。簡単なものではありません。簡潔で分かりやすいものを成し遂げるのは，かなり難しいことなのです。最初は，あまりに多くのものを盛り込みたい気持ちに駆られるでしょう。この計画には，福音のあらゆる真理が含まれているのです。 ……

これは教師としての皆さんの務めの中で，最も難しいものとなるかもしれません。そして，最も報いのある仕事になるのは確かなことです。

皆さんが作る幸福の計画の全体像は，聖文の真理の全容を簡単に把握できるものでなければなりません。そうすれば，生徒はその計画に自分自身を当てはめることができます。

「若い人々は『なぜ』と不思議に思うでしょう。すなわち，**行うように**に命じられている事柄と，**行わないように** 命じられている事柄があるのはなぜだろうかと思うのです。たとえ概要であっても，幸福の計画を知れば，若い人々は『理由』をその心で理解することができるでしょう。 ……

..... 少しだけ詳細な説明を加えて，計画の概要を教えてください。それはやがて彼らが多くを学ぶ助けになるでしょう。その目的を彼らに教えましょう。そうすれば，彼らは『理由』が分かります。

現在教会内で，堕胎やその他の問題，だれが神権を持ち，だれが持たないかというような難しい問題に遭遇します。その大半は，背景知識としてこの計画を幾らか知らなければ答えることができません。

アルマはこう述べました。時々変わりますが，これは最近のわたしの好きな聖句です。『神は，**贖いの計画**を人々に示された**後**，.....戒めを彼らに与えられた。』（アルマ12：32，強調付加）.....もう一度言います。『神は，贖いの計画を人々に示された**後**，.....戒めを彼らに与えられた。』さて，もう一度言います。『神は，贖いの計画を人々に示された後，.....戒めを彼らに与えられた。』 .....

皆さんの生徒たちや自分の子供たちが誘惑に遭うとき，皆さんは彼らと一緒にいないでしょう。その危うい瞬間に，彼らは自分の能力に頼らなければなりません。もし彼らが福音の計画の枠組みの中に自分自身を置くことができれば，非常に強くなるでしょう。

幸福の計画は何度も何度も繰り返す価値があります。そうすることで，人生の目的，贖い主の実在，戒めを守る理由が生徒たちに定着するのです。福音を研究し，人生で様々な経験をすることによって，キリストについて，贖罪について，また福音の回復についてさらに証が増し加わります。

わたしは実際，皆さんが見習うひながたとして幸福の計画の概要を作ろうという気持ちに駆られました。その後，もっと良い考えが浮かびました。皆さんは自分で概要を作成する必要があるのです。それができたら力強く提示できるしょう。繰り返しますが，それは簡単ではありません。正しく行えば，数カ月かかるでしょう。それには研究と祈りと努力が必要です。間違いなく，その過程を通して，皆さんは生徒のだれよりも多く学ぶでしょう。それを行うことそのものが皆さんの受ける報いです」（ボイド・K・パッカー「偉大な幸福の計画」〔教会教育システムシンポジウム，1993年8月 10日〕；『**セミナリーを教える－教師養成用資料**』，69－70も参照）。

パッカー会長から指示されたように，救いの計画の簡潔な概要の準備を始め，教師会に持参するように教師に勧めてください。

活動—教師をグループに分け，互いに救いの計画の簡潔な概要を分かち合うように勧めます。

充分な時間を取った後，教師に経験から得た考えや感想を分かち合ってもらいます。以下の質問の中から幾つか質問するとよいでしょう：

- 救いの計画について入念に研究すると，生徒を教える準備をより良く行ううえでどのような助けとなるでしょうか。
- 救いの計画をより良く理解することは，「マスター教義」の原則と実践方法を生徒に教える準備をするうえでどのように助けとなるでしょうか。
- 疑問や概念について永遠の視点から調べるための最も重要な方法として，救いの計画を生徒が活用できるように，どのように助けることができるでしょうか。

本年度の学習コースの教師用手引きの中で，救いの計画のレッスンが配置されている場所を指摘します。教師に救いの計画のレッスンに精通するように勧め

てください。救いの計画の簡潔な概要を作成し生徒に提示するようにというパッカー会長の勧めを実行するための助けとして，その重要性を強調してください。

実践活動 7—永遠の視点から疑問や概念について調べる

目的—教師が永遠の視点から疑問や概念について調べることに関連するスキルを実践できるように助ける。

活動—だれかに大管長会のダリン・H・オークス管長による以下の説教を声を出して読んでもらいます。

「わたしたちは，神が明らかにされた〔救いの計画〕やその他の真理を知っているため，これを知らない人々とは異なる前提をもって始めます。その結果，わたしたちは，人々がこの現世についての自分たちの見解によってのみ判断している多くの重要な事柄について，異なる結論にたどり着きます。 …

〔教会の若人にとって〕より良い対処法は，自分が直面するこの世的な主張の土台となっている前提は何かを見極め，さらには，末日聖徒の考え方の指針となっている異なる前提は何かを見極めることです。」（ダリン・H・オークス，「人，その心に思うがごとく」〔中央幹部との夕べ，2013年2月 8日〕）

ビデオ「永遠の視点から疑問について調べる」（2：56）を視聴します。このビデオはLDS.orgで視聴できます。このビデオの若い女性が，神に対して疑問を抱かせるような信条や前提についてどのように考え，その後，永遠の視点からその疑問について調べたことと，オークス長老の勧告がどういう点で一致しているかを教師に見つけるように勧めます。

ビデオを見せた後，教師に次の質問をします：

- 神に対して疑問を抱かせるような影響を友達に与えた信条や前提について考えたことが，ローレンの役に立ったのはなぜだと思いますか。
- ローレンが友達の疑問を永遠の視点から調べたところ，どうなりましたか。
- この疑問を異なった視点から見たり，永遠の真理に基づいて答えを見いだしたりする助けとなる，救い主の教えや天の御父とその計画について，どのようなことを理解しているでしょうか。
- 永遠の視点から疑問や概念を調べることはなぜ役立つでしょうか。

永遠の視点から疑問や概念を調べるうえで3つのスキルが必要です：

1. 疑問や概念に関する限定的なあるいはこの世的な前提を見極める。
2. 問題となっている事柄の土台となっている永遠の前提と教義を特定し，分析する。
3. 真の結論を確認するか，または，話し合った永遠の真理に照らして元の疑問を別の言葉で言い換える。

自分が最近耳にした教会に関する教義的，歴史的，あるいは社会的な疑問や懸念について，教師に幾つか考えてみるように勧めます。ホワイトボードにこうした疑問や懸念を一つ書きます。

- どのような世間の，あるいは限定的な前提が，この疑問や懸念に影響を与えているでしょうか。
- 救いの計画，聖文，現代の預言者の教え，および『**マスター教義に関する基本文書**』の中から，どのような福音の真理がこうした限定的な前提に立ち向かえるでしょうか。
- 限定的な前提を永遠の視点に照らして調べた後，どのような真の結論を確認しましたか。あるいは，こうした福音の真理に照らして疑問や懸念をどのように言い換えることができるでしょうか。

ホワイトボードに言い換えた疑問や懸念を書きます。

教師をグループに分け，信仰をもって行動し，神が定められた情報源を通してさらなる理解を求めることで，疑問や懸念を解決するうえでどのように洞察が増し加えられるか話し合うように勧めます。

充分な時間を取った後，グループ分けを変え，教師に再度受けた印象を分かち合ってもらいます。この実践活動を通して学んだ原則や実践を応用するために何をするかを決めるよう教師に勧めてください。

そのほかの疑問や懸念についても個々にそれぞれ3つのスキルを使う活動を繰り返し行っても構いません。

実践活動 8—神が定められた情報源を使う

目的—教師が福音に関する疑問や懸念に対処する際，適切な情報源を見つけ，神が定められた情報源を通じてさらなる理解を求めるスキルを実践するよう助ける。

活動—教師が最近耳にした教会に関する教義的，歴史的，あるいは社会的な疑問や懸念について，自分で幾つか考えてみるように勧めます。ホワイトボードにこうした疑問や懸念を幾つか書きます。

- 生徒がこうした疑問や懸念を抱いている場合，生徒がさらなる理解を得るうえで神が定められたどのような情報源が役立つでしょうか。

注—祈り，聖文，および総大会で語られる預言者の言葉が真理を求めるうえで神が定められた最も重要な情報源としての役割を果たすことを確実に強調してください。

教師に「福音のテーマ，論文，そのほかのリソース」のウェブページにアクセスするように指示します。このページはdoctrinalmastery.lds.orgの中にあります。このリソースは教師と生徒がさらなる理解を求める際に適切な情報源を見つける助けとなるものです。このウェブページに列挙されているリソース全体にさっと目を通し，それから，数分を使って幾つかのリソースをもう少し詳しく目を通します。

- このリソースの内，ホワイトボードに書いた疑問や懸念に最もよく対処できるリソースはどれでしょうか。

列挙されているリソースを活用してホワイトボードに書いた疑問や懸念に対処するように，教師に勧めてください。

配付資料

福音を教え学ぶために聖霊がその役割を果たせるよう招く

「〔教師〕は，霊的な学習における聖霊の重要な役割を理解すると，これらの働きをする御霊を招くために自分が行えることをすべて行うであろう。」*

教師ができること	教師と生徒ができること
• 個人としてふさわしくあるように努める。 • 「信仰の祈り」をささげる（教義と聖約 42：14）。 • 毎回レッスンの準備を十分に行うようにする。 • 生徒の学習経験に焦点を当てるようにする。 • 他のことに心を奪われたり心配したりせずに，心を穏やかにするよう努める。 • 謙虚な探究心を持つ。 • 学ぶ過程で聖霊を招くよう生徒に勧める。	• 聖典と預言者の言葉を読み，教える。 • 救い主の模範と救い主に関する話し合いに焦点を当て，救い主について証を述べる。 • 福音の教義と原則について簡潔明瞭に述べる。 • 静かな中で霊感を受けられるように，深く考える時間を取る。 • 適切な個人の経験を分かち合い，教義と原則について証する。 • 互いと主に対して愛と感謝を表す。

* 『福音を教え学ぶ──宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』（2012 年），11。

© 2016 INTELLECTUAL RESERVE, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

サンプルレッスン―3ニーファイ11：1－17

第 120 課

3 ニーファイ 11：1 － 17

はじめに

救い主の死のしるしであった破壊と 3 日間の暗闇の後，およそ 2,500 人のニーファイ人の男女と子供がバウンティフルの地の神殿の周りに集まった（3 ニーファイ 17：25 参照）。彼らが互いに語り合っていたとき，御子イエス・キリストを紹介される天の御父の声が聞こえ，その後，イエス・キリストが御姿を現された。イエス・キリストが世の罪のために殺されたことを証する者となれるように，イエス・キリストは民を招かれた。彼らは一人ずつイエス・キリストに近づき，イエス・キリストの脇と手足の釘の跡に触れた。

教えるための提案

レッスンの時間配分

最も重要な部分に十分に時間をかけることができるように，レッスンの時間配分を行う。例えば，このレッスンでは，最後に，イエス・キリストについて生徒が証を述べる機会がある。レッスンのほかの部分も重要であるが，証を述べるための時間を十分に残せるようにする。

3 ニーファイ 11：1 －7

ニーファイ人，御子の訪れを宣言される御父の声を聞く

生徒がクラスに入って来るとき，神聖な音楽や総大会の音声を，わずかに聞き取れる程度の音量で静かに流す。開会の祈りとディボーショナルの時間にそれを止める。祈りの後，その音が聞こえたかどうか生徒に尋ねる。（この活動を行う機器などがなければ，生徒たちが部屋に入ってくるときに，一人の生徒に 3 ニーファイ 11 章を静かな声で読んでもらう。その場合は，読んでもらう生徒が早く部屋に来るように，事前に割り当てを与えておく。）

- 静かな声を聞いて理解するためには，どうしなければなりませんか。
- 今日部屋に入るときに流れていた歌（または，総大会の説教，あるいは聖句）のメッセージは何でしたか。
- 部屋に入って来たときにその言葉を聞いて理解することは，簡単でしたか，それとも難しかったですか。それはなぜですか。

一人の生徒に 3 ニーファイ 11：1 － 3 を読んでもらう。クラスの生徒に，聖句を目で追いながら，ニーファイ人にとって理解するのが難しかったことを探してもらう。

- 3 ニーファイ 11：3 に述べられているのはどのような声でしたか。（生徒に，各自で聖典のその声の説明にしるしをつけるように勧めるとよい。）
- その声は，それを聞いた人々にどのような影響を与えましたか。

生徒に，3 ニーファイ 11：4 － 7 を黙読し，ニーファイ人は 3 度目にその声を聞いたときにそれを理解することができたが，それは以前と何が違っていたからであったかを探してもらう。

- ニーファイ人は 3 度目にその声を聞いたとき，以前とは違うどのようなことをしましたか。
- 3 ニーファイ 11：7 によれば，民が聞いたのはどなたの声でしたか。（彼らが聞いたのは，御子イエス・キリストを紹介された天の御父の御声であった。）

生徒に，ヒラマン 5：30 を読んで，主の声についてのもう一つの説明を探してもらうとよい。

- ニーファイ人が聞いた声は人が聖霊から受ける促しにどのように似ていましたか。（生徒は様々な答えを言うかもしれないが，次の真理が挙がるようにする。「**聖霊はしばしば人の気持ちを通じて人に語りかけられる。**」）
- 聖霊を通して主から受ける霊感に注意を払うことが重要なのは，なぜでしょうか。

生徒に，思いや心の中に聖霊から霊感が与えられるのを感じたときの経験を話してもらう。どのように感じたかについて話すように言う。あなた自身の経験も話すとよい。

末日聖徒イエス・キリスト教会 | 宗教教育セミナリー・インスティテュート

© 2016 INTELLECTUAL RESERVE, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

御霊により教える ―― 行うべきことと行ってはならないこと

十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926 － 2004 年）は，御霊により教えるために行うべきことと行ってはならないことを提案しました。

行うべきこと	行ってはならないこと
1. 自分自身の心を落ち着かせ，平安を保つことで，教える時間に集中する。	1. マルタのように心配して，冷静さを失う。ジョセフ・スミスがエマとの間に意見の不一致が生じた後，作業がはかどらなかったことを思い出してください。御霊を招くのは難しいことです。他の懸念で頭がいっぱいになっているときに御霊はやって来ません。
2. 柔和になる。すると「わたしはあなたの思い……に告げよう。」（教義と聖約 8：2）	2. 人から聞いてもらおう，見てもらおうと思って，印象付けようとしてしまう。
3. 生徒と常にアイ・コンタクトを保ち，生徒の声に耳を傾ける。	3. 話すことに一生懸命になりすぎて，御霊か生徒のいずれかの声に耳を傾けられないような状態になる。あなたが御霊に耳を傾けていないときに，生徒がレッスンに耳を傾けることを期待するべきではありません。
4. 記憶に残るように，霊感を受けて，的確で短い言葉を使う。	4. くどい言い回しや表現をする。もし山上の垂訓が全 3 巻にわたる教えだったら，心に響いていたでしょうか。
5. 教えようとしている事柄の要旨を理解する。焦点を与えるべき簡潔な事柄について深く考え，祈る。	5. だれかが価値ある部分を見つけてくれるだろうと願って，「バイキング方式」の教材を用意する。焦点がぼけると受ける側は確信が持てなくなります。
6. 教えられている内容について，関連した応用法やその深く意味するところを伝える。	6. 誰も尋ねていない質問（教師が想定した質問）に答える。
7. 霊感された質問をする。	7. 質問することを恐れる。
8. 御霊の影響を受けているときには，自分の言っていることからも学べるように備える。わたしはマリオン・G・ロムニー管長が様々な場面でこう言っているのを聞いています。「わたしは，自分が聖霊の導きを受けて語っているときは，いつもそれを自覚しています。それは，自分の言ったことから常に何かを学んでいるからです。」（ボイド・K・パッカー，Teach Ye Diligently〔1975 年〕，304 で引用）	8. 生徒の前で深く考えることを恐れてしまう。
9. 意識的に間を取る。御霊は独自の方法で「まだ見ていない事実を確認」してくれます（ヘブル 11：1）。	9. 霊感を受けた沈黙をも恐れてしまう。
10. 教義自体に語らせる。「神が明らかにされた全ての原則は，それらが真実であることを人の心に確信させる力を持って〔いる〕。」（『歴代大管長の教え―ブリガム・ヤング』78）	10. 教義の「安売り」で終わってしまう。
11. 適切に，具体的に，自分の証を述べる。	11. 「わたしには証があります」とだけ言う。

ニール・A・マックスウェル，“Teaching by the Spirit— ‘The Language of Inspiration’ ”（CES Symposium on the Old Testament，1991 年 8 月 15 日）4 － 5 を基に編集，si.lds.org）

末日聖徒イエス・キリスト教会 | 宗教教育 セミナリー・インスティテュート

© 2016 INTELLECTUAL RESERVE, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

教義と原則を理解し，感じ，応用する

この教材は，学習パターンの最後の 3 つの要素を訓練するうえで役立ちます。

- **教義または原則を書き留める。**

- **その教義または原則についての理解を深める。**
  質問し，その答えを探すことにより，教義または原則の意味を分析する。このスキルを訓練するために，以下に質問と答えを書く。

- **教義と原則が真実であり重要であることを感じられるよう努める。**
  その教義または原則が自分や誰かの生活に及ぼしてきた影響について考える。聖典や教会歴史に出てくる人物について考えてもよい。あなた（または誰か）の生活や証が，この教義または原則が真実であることをどのように映し出しているか，考えを以下にまとめる。

- **教義と原則を応用する。**
  生活の中で教義または原則を応用するために行うべき具体的な事柄について考え，思いついたことを以下に書き留める。

© 2016 INTELLECTUAL RESERVE, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

何を教えるか決定する

聖句ブロック：

節	要約	教義・原則	最も重要なこと	どの程度強調するか

© 2016 INTELLECTUAL RESERVE, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

効果的な質問の種類を特定する

以下は，ダニエル 1 – 3 章のレッスンを教える際に教師が用いることのできる質問の例です。それぞれの質問は，学ぶ人が学習パターンに関連した望ましい結果に至る助けとなります。それぞれの質問を読み，その質問が学習パターンのどの要素に応用できるか見極めましょう。それぞれの質問の隣の余白に，以下の語句のいずれかを書き込んでください。

- **はなり**——背景と内容を理解する
- **きげみ**——教義と原則を見つける
- **きげり**——教義と原則を理解する
- **しじか**——教義と原則が真実であり重要であると感じる
- **きげお**——教義と原則を応用する

_____ 1. ダニエルとその仲間たちのような信仰を行使して，自分や誰かの生活に祝福がもたらされた経験について考えてください。その結果，どのような祝福がもたらされたでしょうか。

_____ 2.今日，青少年がダニエルとその仲間のような信仰を働かせなければならない状況の例にはどのようなものがあるでしょうか。

_____ 3.ダニエル 3 章 25 節によると，シャデラク，メシャク，アベデネゴが危険のさなかにあったとき，主はどこにおられたでしょうか。

_____ 4.この聖句からどのような原則を見つけることができますか。

_____ 5.見つけた原則について考えてください。あなたが最大の危機にあるとき，主にそばにいていただけるふさわしさがあるならば，この原則は生活にどのような変化をもたらすでしょうか。

_____ 6.王の食物を食べることを拒んだダニエルとその仲間の話の中では，どのような原則が示されていますか（ダニエル 1 章参照）。

_____ 7. ネブカデネザルの軍隊の「力の強い人々」は殺されたのに（ダニエル 3 : 20。22 節も参照）シャデラク，メシャク，アベデネゴは「その火の中から出てきた」（26 節）のはなぜでしょうか。

_____ 8.シャデラク，メシャク，アベデネゴのように，わたしたちも，この世がよいものだと主張するものを拒まなければならないことがあるのはなぜでしょうか。

_____ 9.シャデラク，メシャク，アベデネゴのヘブライ語の名前は何と言いましたか。（ダニエル 1 : 7 参照）

_____10.神が必ずしも義人を害や危険から守られないのはなぜだと思いますか。

_____11.ダニエルとその仲間から学んだことを，生活のどのような場面で応用できるでしょうか。

© 2016 INTELLECTUAL RESERVE, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

質問を書き換える

次の質問を 1 ニーファイ 1：1 － 7用に書き換え，生徒たちが学習パターンのそれぞれの要素の望ましい結果を達成できるようにしてください。

背景と内容を理解する

1. ニーファイの両親は「善い」両親でしたか。（1 節参照）

2. 両親が子供を教えるときにどれほど影響を与えることが分かりますか。（1 節参照）

3. ニーファイは何を作ったでしょうか。（2 節参照）

4. リーハイはどこへ行きましたか。（7 節参照）

教義と原則を見つける

1. 預言者にはどのような特徴があるでしょうか。（4 － 5 節参照）

2. この例の中で大切なことは何ですか。（1 － 7 節参照）

教義と原則を理解する

1. わたしたちの証は，自分の生活の中で「行ってきたこと」から生じるでしょうか。（1 節参照）

2. どうして悔い改める必要があるのでしょうか。（4 節参照）

3. 祈ることは大切でしょうか。（5 節参照）

教義と原則が真実であり重要であることを感じる

1. 自分の「善い両親」に従うことはどれほど大切でしょうか。（1 節参照）

2. 「一心に」祈ることにより生活に影響を受けた人をだれか知っていますか。（5 節参照）

教義と原則を応用する

1. 「一心に」祈るときにどのような違いが生じるでしょうか。（5 節参照）

2. 祈りを力強くするものは何でしょうか。（5 － 6 節参照）

© 2016 INTELLECTUAL RESERVE, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

例と訓練

3 ニーファイ 14 章を教えるときに使うことのできる，最初の欄の教義または原則の質問例と文例を研究してください。他の欄に，指定されている節の教義または原則の質問と文を書いてください。

3 ニーファイ 14：1－6	3 ニーファイ 14：7－11	3 ニーファイ 14：12－27
背景と内容を理解する		
• 1 節によると，救い主の指示のこの部分を聴いていたのは誰ですか。 • この場合，聴き手を知ることによりどのような違いが生じますか。 • 3－5 節によると，救い主はこの比喩の中でどのような事物を用いていますか。その事物はどこにありましたか。 • 救い主はなぜその事物を選んで用いられたのでしょうか。 • その事物のある場所にはどのような重要性がありますか。		
教義と原則を見つける		
• 救い主の比喩からどのような原則を学ぶことができますか。 • 原則―他の人の欠点に目を向けると，自分自身の欠点がよく見えなくなってしまう。		
教義と原則を理解する		
• 他の人の弱さに目を向けることにより，どのように自分自身の欠点を見ることが妨げられるでしょうか。		
教義と原則が真実であり重要であることを感じる		
• 他の人を不義に裁くことを控えることにより祝福されたのはどのようなときですか。		
教義と原則を応用する		
• 自分自身の目から「はり」を除き，自分の欠点をもっとはっきりと見て，それらを正すために手だてを講じるために，何を変えるとよいでしょうか。		

© 2016 INTELLECTUAL RESERVE, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

レッスンを計画するための質問

次の表を活用して，学習パターンに基づいてレッスンを計画するのに役立ててください。質問は，『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナリー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』4.3.4（56 ページ）が基になっています。

背景と内容を理解する
どのような質問，教授方法または学習活動が，生徒が聖句ブロックの背景と内容を理解するのに助けとなるだろうか。
教義と原則を見つける
どのような質問や活動が，生徒が聖句ブロックの重要な教義と原則を見つけるのに助けとなるだろうか。
教義と原則を理解する
どのような質問や活動が，生徒が聖句ブロックの重要な教義と原則を理解するのに助けとなるだろうか。
教義と原則が真実であり重要であることを感じる
どのような質問，教授方法または活動が，生徒が聖句ブロックの教義と原則が真実であり重要であることを感じるうえで助けとなり，生徒が自分の考えや気持ち，証を発表するよう促すだろうか。
教義と原則を応用する
どのような質問や活動が，生徒がこれらの教義と原則を生活に応用できる方法を知るのを助け，またそうするように彼らを励ましてくれるだろうか。

© 2016 INTELLECTUAL RESERVE, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

生徒に対する信頼

以下の文章を読み，生徒が学び，教え，福音の教義と原則を応用するうえで，生徒にそれらの役割を果たす能力があることを信頼できるのはなぜかを理解する助けとなる語句に下線を引きましょう。

1. 預言者ジョセフ・スミスは次のように教えています。

   「神がかつて世に送られたすべての精神と霊は，成長することができます。」（『歴代大管長の教えージョセフ・スミス』210）

2. J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長（1871 － 1961 年）は次のように教えています。

   「教会の青少年は，御霊に関することに飢えています。彼らは福音を学びたいと切望しています。福音を薄めることなく純粋なまま学びたいと思っています。……彼らは疑う者ではなく，尋ね求める者，真理の探求者です。……

   この生徒たちは皆さんのところへやって来て，成熟した状態に向かって霊的に成長しています。適切な食物を与えさえすれば，彼らは早くその状態に達することでしょう。彼らは，世の人々の知らない霊的な知識と霊的な経験を持って皆さんのところへやって来るのです。」（The Charted Course of the Church in Education，改訂版〔1994 年〕，3，5 － 6）

3. ヘンリー・B・アイリング管長は次のように教えています。

   「皆さんにお約束します。〔生徒を〕探究者として扱うならば，生徒は皆さんの愛を感じることでしょう。そのことにより，さらに柔軟な心を持ちたいという望みが生じるかもしれません。それは毎回起こるわけではなく，持続しないこともあるでしょう。しかし，それは頻繁に起こり，持続することもあります。そして，やがて誰もが，彼らが最大の可能性，すなわち神の子としての資質を受け継いでいることを皆さんが信じていたことを思いだすでしょう。」（“And Thus We See: Helping a Student in a Moment of Doubt”〔教会教育システム宗教教育者向けの説教，1993 年 2 月 5 日〕，5，si.lds.org）

4. スペンサー・W・キンボール大管長（1895 － 1985 年）は次のように教えています。

   「主は，この重要な時代に御業を推し進める手助けをする目的で取っておかれた偉大で力強い霊たちを送っておられます。この霊たちは，彼らが行わなければならない働きのために訓練を受け，備える必要があります。」（“Men of Example”〔教会教育システム宗教教育者向けの説教，1975 年 9 月 12 日〕，5，si.lds.org）

5. 大管長会のディーター・F・ウークトドルフ管長は次のように教えています。

   「若人は信じたいと思っています。救い主についてもっと知りたいと思っています。」（“A Teacher of God’ s Children”〔教会教育システム教育者向けの説教，2011 年 1 月 28 日〕，6，si.lds.org）

6. 十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老はこのように証しています。

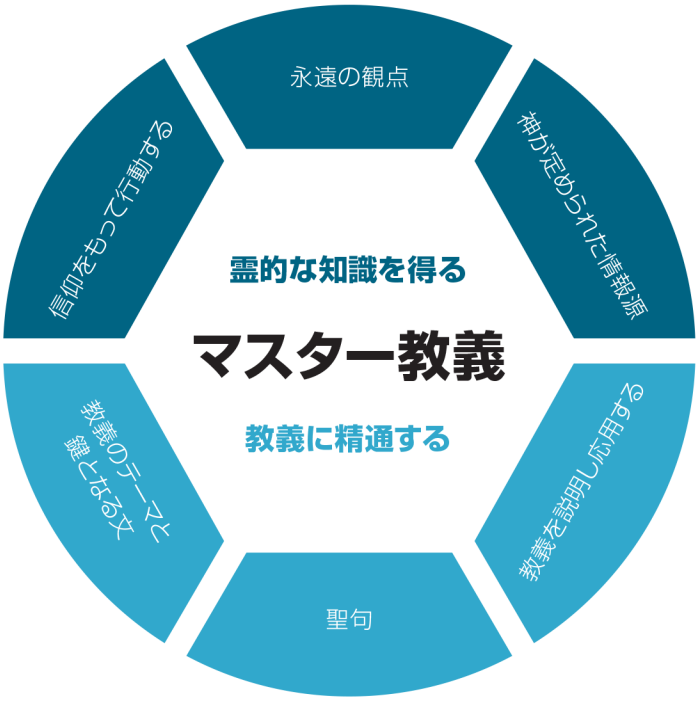
   「わたしは，かつて大管長会の一員であったジョージ・Q・キャノン管長が述べた，次の言葉が好きです。『神がこの神権時代のために取っておかれた霊は，勇気と固い決意をもってこの世に立ち向かい，邪悪な者であるサタンが目に見える所と見えない所で振るう力に対抗し，福音を宣べ伝え，真理を守り，いかなる結果が伴おうとも恐れずに神のシオンを確立し，築き上げます。神はこのような霊を今の若者の世代に送り込んでおられるのです。それはシオンの基をしっかりと据えて二度と覆されないようにするためであり，義のうちに生き，神を何よりも尊んで，いかなる状況に置かれても神に従う子孫を育てるためです。』〔Deseret News，1866 年 5 月 31 日付，203〕

   皆さんの教室の中の若い男性と女性はそのような人であり，未来への希望なのです。」（「信仰と希望と慈愛の教室」〔ニール・L・アンダーセン長老との夕べ，2014 年 2 月 28 日〕，lds.org/broadcasts）

7. エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 － 1994 年）は，次のように宣言しています。

   「6000 年近くにわたり，神は皆さんを主の再臨前

マスター教義の概要



マスター教義の目的

マスター教義の目的は，イエス・キリストとその教義の上に自分たちの土台を築くよう，生徒たちを助けることです。
マスター教義は，「霊的な知識を得ること」と，「イエス・キリストの福音の教義に精通すること」の 2 つの相補的な効果に焦点を当てています。

マスター教義の成果

- 霊的な知識を得る
  - ***信仰をもって行動する：*** 神を信頼する。心からの祈りと学習を通して，まず神に心を向ける。自分がすでに真実であると知っている事柄を大切にする。そして答えを求め続ける。
  - ***永遠の観点：*** 救いの計画と救い主の教えに照らして，概念や疑問，社会的な問題，歴史的な出来事を調べる。
  - ***神が定められた情報源：*** 聖霊，聖文，預言者，両親，教会の指導者，そのほかの信頼のおける情報源を通して，より深い理解を求め，霊的な知識を得る。
- 教義に精通する
  - ***教義のテーマと鍵となる文：*** 9 つの教義のテーマについて，深い理解を身につける。「霊的な知識を得る」と 9 つの教義のテーマの中で見いだされる，教義の鍵となる文を理解する。
  - ***聖句：*** マスター教義聖句の中で教義の鍵となる文がどのように教えられているかを知り，それらの聖句を覚えて，探せるようになる。
  - ***教義を説明し応用する：*** 関連するマスター教義聖句を使って，それぞれの教義の鍵となる文を明確に説明する。イエス・キリストの福音の教義を日々の選択に応用したり，教義的，社会的，歴史的な問題や疑問への答えを見つけるときに応用したりする。

詳しい情報は doctrinalmastery.lds.orgを参照してください。

© 2017 INTELLECTUAL RESERVE, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

クイックスタートガイド

インスティテュート·コーナーストーン·コースを教える

教える前に

- 教師用資料の紹介を注意深く研究する。
- コーディネーターまたはインスティテュートディレクターと時間を設定して,自分の割当て,生徒,コース,そのほかの質問について話し合う。
- 生徒がキリストのもとに来て,さらにキリストのようになるよう助けるために導きを求めて祈る。

コーナーストーン·コースの概要

- これらのコーナーストーン·コースは生徒がクラスでのレッスンの前,レッスン中,レッスンの後で改心に至る経験をするのを助けることを目的としています。
- 各課は準備資料と教師用資料の両方で構成されています。
  - **準備資料:**皆さんと生徒の両者がクラスの準備をするために作成されたものです。背景情報,聖文,教会指導者の教え,より深い学習へ招く促し,さらに研究するための追加資料が含まれています。
  - **教師用資料:**準備する中で学んだ事柄を分かち合い,話し合うよう生徒を招くうえで皆さんを助け,また主と回復された福音に対する理解と証を深め,行動するよう招くうえで生徒を助けられるように作成されたものです。
- 皆さんが生徒の学習経験に焦点を当てる際,このコースの以下の重要な望ましい成果に留意するとともに,単にレッスンを教えることのないように留意してください。

準備する	参加を促す	行動する
• 生徒と教師は導きを受けた準備をする経験を通してクラスに出る準備をします。 • 準備資料は生徒の学習を深めるのに役立つとともに,クラスでの学びを分かち合う備えをするうえでも役立ちます。	• 教師は生徒の準備に頼って彼らがさらに学習経験に参加するよう促し,彼らの学習を深める助けを行います。 • 生徒の準備と積極的な参加により,クラスの時間を応用について話し合い,強調するために使うことができるようになります。	• 生徒は自分たちが学んだことを応用する方法についてよく考え,それから行動するように勧められています。 • 積極的に参加し応用するよう強調することにより,生徒が意識してさらに天の御父やイエス·キリストのようになるための努力を行ううえで助けとなります。

現職教師のための継続的な訓練の機会

- 皆さんはコーディネーターまたはインスティテュートディレクターと自分が学んでいることについて話し合う機会や,皆さんの割り当てについて質問し,教えを改善する練習をする機会が継続的にあります。
- 皆さんは教師として改善するために役立つ原則を学び技術を実践する際の指針となるよう,セミナリー·インスティテュートの手引きや訓練を活用することができます。

末日聖徒イエス·キリスト教会 | 宗教教育 セミナリー・インスティテュート

© 2020Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. バージョン：4／20 PD60011179 300

宗教教育
セミナリー・インスティテュート

末日聖徒
イエス・キリスト
教　会